

# 令和6年度事業報告

社会福祉法人ゆうかり学園

## 1、評議員会・理事会の開催状況

本年度は、下記のとおり評議員会及び理事会を開催した。

### [評議員会]

第一回評議員会 令和6年6月26日（水）

評議員10名中10名出席 陪席者：理事5名、監事2名

第一号議案 令和5年度 事業報告（案）審議の件について

第二号議案 令和5年度 決算報告（案）審議の件について

第三号議案 監事監査報告の件について

第四号議案 社会福祉充実残額に関する審議について

第五号議案 令和6年度 第一次補正予算（案）審議の件について

第六号議案 定款変更認可申請（案）審議の件について

第二回評議員会 令和6年12月16日（月）

評議員10名中8名出席 陪席者：理事9名、監事2名

第一号議案 令和6年度 第二次補正予算書（案）審議の件について

第二号議案 定款細則改正（案）の件について

第三回評議員会 令和7年3月24日（月）

評議員10名中7名出席 陪席者：理事6名、監事1名

第一号議案 令和6年度 第三次補正予算（案）審議の件について

第二号議案 令和7年度 事業計画（案）審議の件について

第三号議案 令和7年度 当初予算（案）審議の件について

第四号議案 退職金準備積立金取崩について

## [理 事 会]

第一回理事会 令和6年6月7日（金）

理事9名中8名出席 監事2名中2名出席

- 第一号議案 令和5年度事業報告（案）審議の件について
- 第二号議案 令和5年度決算報告（案）審議の件について
- 第三号議案 監事監査報告の件について
- 第四号議案 社会福祉充実残額に関する審議について
- 第五号議案 令和6年度第一次補正予算（案）の件について
- 第六号議案 定款変更認可申請（案）審議の件について
- 第七号議案 福祉・介護人材処遇改善手当支給規程改正（案）、  
給与規程改正（案）審議の件について
- 第八号議案 評議員選任・解任委員の任期満了に伴う選任につい  
て
- 第九号議案 定時評議員会招集に関する審議の件について
- 第十号議案 日野博愛氏叙勲受章に伴う賞金授与について

第二回理事会 令和6年7月16日（火）

理事9名中8名出席 監事2名中2名出席

- 第一号議案 旧ゆうかり、千歳等跡地の売却に関する事項

第三回理事会 令和6年11月29日（金）

理事9名中7名出席 監事2名中2名出席

- 第一号議案 令和6年度 社会福祉法人ゆうかり学園 第二次補  
正予算書（案）審議の件について
- 第二号議案 人事院勧告の件について
- 第三号議案 定款細則改正（案）の件について
- 第四号議案 臨時職員の賃金改定 及び条文変更（案）審議の件
- 第五号議案 役員等報酬規程改正（案）、役職員旅費支給規程改正  
（案）、就業規則改正（案）、給与規程改正（案）審議  
の件について

第六号議案 入浴用電動ストレッチャー1台を導入すること、及び福岡県障がい分野のロボット等導入支援補助金交付申請について

【ゆうかり医療療育センター（おひさま寮）】

第七号議案 評議員会招集に関する審議の件について

第四回理事会 令和7年3月11日（火）

理事9名中8名出席 監事2名中2名出席

第一号議案 令和6年度 第三次補正予算（案）審議の件について

第二号議案 令和7年度 事業計画（案）審議の件について

第三号議案 令和7年度 当初予算（案）審議の件について

第四号議案 退職金準備積立金取崩について

第五号議案 施設長等の雇用契約更新について

第六号議案 給与規程改正（案）、育児・介護休業等規程改正（案）  
嘱託規程改正（案）、経理規程改正（案）審議の件について

第七号議案 令和7年度 給食納入業者の選定について

第八号議案 評議員会招集に関する審議の件について

## 2、令和6年度心身障害児者の施設利用状況

ゆうかり医療療育センターの利用状況は、医療型障害児入所施設（定員150名）では延4,400名、一日平均12名、療養介護事業所（定員150名）では延41,305名、一日平均113.1名、私的入院では延30名であった。入所率は150名定員に対して83.5%であった。短期入所では13名の利用があり、延利用日数は253日であった。一方、日中一時支援も2名の利用があり、延18回の利用があった。

コアラ園では、児童発達支援事業（定員20名）に対し延2,849名、一日平均11.8名が利用された。また、放課後等デイサービス事業（定員10名）では延353名、一日平均1.4名であった。保育所等訪問では延31名の利用があった。

耳納学園においては、施設入所支援（定員34名）に対し、延10,179名の利用があり、一日平均27.9名、充足率は82%、就労継続支援B型（定員40名）では、年間作業参加実績延6,440名、定員から見た充足率は、68%、一日平均作業参加実績利用者数は27.3名であった。

千歳療護園の利用状況は、施設入所支援（定員 40 名）延 14,176 名、一日平均 38.8 名で充足率 97.0%、生活介護（定員 50 名）は延 11,569 名、一日平均 44.3 名で充足率 88.6%であった。内訳は 7 名の利用者様が延 238 日間の入院の他、新規入所 2 名、退所 2 名。短期入所は 5 名の利用者様が年間延 93 日間利用され、日中一時の利用者はなかった。

第二千歳療護園の利用状況は、施設入所支援（定員 40 名）延 13,880 名、一日平均 38 名で充足率 95.0%、生活介護（定員 40 名）は延 9,928 名、一日平均 38 名で充足率 95.0%であった。内訳は 10 名の利用者様が延 544 日間の入院。内、1 名の利用者様が継続的な医療的ケアが必要となり、他医療機関に転院され退所となった。また、2 名の利用者様が疾病により亡くなっている。短期入所は 6 名の利用者様が年間延 88 日間利用され、日中一時の利用者はなかった。

施設毎の事業報告の詳細は 13 頁以降に掲載している。

### 3、助成事業関連

本年度も各種の補助金をいただき事業運営並びに処遇の質の向上につなげることができた。

法人全体での収入合計は 2,863,460 円であり、内訳は以下のとおりであった。

#### 【ゆうかり医療療育センター】

- ・福岡県食事療養提供体制確保事業支援金

交付金 480,000 円

- ・福岡県障がい分野のロボット等導入支援事業補助金

交付金 750,000 円

- ・歳末助け合いまごころ募金助成金

交付金 182,940 円

- ・あすなろ福祉財団助成金

総事業費 3,401,420 円

補助金 1,400,000 円

自己資金 2,001,420 円

・久留米市保育所等給食支援事業

交付金 29,520 円

・久留米市保健所（コロナウイルス感染予防対策物品）

交付金 21,000 円

4、賛助会員の状況

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に、「典心の湯」の利用や会議室の貸し出し等を中止し、賛助会員の新規契約・継続更新を見送った。

5、利用者の接遇向上・職員の資質向上

法人及び各施設の安定的な経営を図るためには、利用者様への接遇向上及び職員の資質向上さらには優秀な人材の確保等が必要である。研修委員会が中心となり、これまで以上に職員研修等の機会・充実を図り、『利用者本位のサービス』を一層充実させることに努めた。

6、働きやすい職場の構築

これまで働きやすい職場作りに向けて、子の看護休暇・介護休暇の有給化、不妊治療と仕事の両立に向けての出生サポート休暇の新設等様々な取り組みを行ってきた。

また、ハラスメント関連では『カスタマーハラスメント』についてアンケート結果を公表し、その対応などについては、特に幹部職員に対し周知させると共に連合保護者役員会において情報提供を含め理解を求めた。

職場内のあらゆるハラスメント根絶はスタッフの離職防止、メンタルケアのためにも喫緊の課題であり、毅然とした対応をとることが今後も重要であると認識して継続して取り組んでいくこととしている。

7、障害福祉サービス費等報酬改定内容及び対応

◎ 令和6年度障害福祉サービス報酬改定の主な内容は下記のとおりであった。

- ・現行の処遇改善加算の一本化及び加算率の引き上げ<職種間配分ルール  
の統一、月額賃金改善に関する要件の見直し 等

- ・生活介護においてサービス提供時間に応じた評価を導入し生活介護の基本報酬の見直し。

なお、サービス提供時間については、個別支援計画に定めた個々の支援時間で算定することを基本とするなど一定の配慮を設ける。

- ・医療的ケアが必要な者へ対応の評価（生活介護・施設・短期入所）等
- ・施設から地域へ移行し、入所定員を減らした場合の加算を創設し地域移行支援体制加算【新設】等

#### ○ コアラ園

コアラ園では前年度に比べ事業活動での収支は▲690 万円で、前年度（▲9 万円）に比べ大幅な収入減となった。大きな要因は児童発達支援事業の延利用児前年度比▲535 名（一日平均 11.8 名）であり、一日利用定員 20 名にどう近づけるか大きな課題を残した。

- 耳納学園は定員割れの状態から脱することができず、経営困難状態（事業活動当期差額は▲1,785 万円）が続いており利用者の高齢化等を考慮し早急に生活介護への事業変更が必要であり、同時に定員を 34 名から 30 名へ変更することで改善を図るための取り組みを行うこととする。

- 千歳療護園、第二千歳療護園は、令和 6 年度の報酬改定により基本報酬、従来の加算共にプラスの改正となり、加えて新規加算（入浴支援加算、通院支援加算）の取り組みにより両施設ともに昨年度比 1000 万円程度の増収となった。しかし、両施設共長期入院者や欠員状態が続く（千歳利用者不在期間延 183 日、第二千歳入院者延 544 日）大きな減収の要因となった。また、令和 6 年度は大幅な賃金改善に組み（ベースアップ・定期昇給合わせ+4.4%）人件費増となり、加えてクラスターや物価高騰による経費が増えたため、事業活動における収支は千歳療護園▲1,050 万円（人件費率 80.2%）、第二千歳療護園▲978 万円（人件費率 80.3%）であった。今後も入所定員の維持、長期入院防止対策、報酬の再検証を大きな課題として取り組むとともに利用者のサービス向上に努めていくこととする。

- ◎ 令和6年度診療報酬については、診療報酬 +0.88%、
  - ① 薬価 ▲0.97%② 材料価格 ▲0.02%の改定が行われた。

○ ゆうかり医療療育センターでは入院収入が入院患者減員のため前年度比▲555万円、支出では医薬品、診療材料費が1,700万円の増額（コロナ治療薬等）となり、これまでになく深刻な経営状況を経験することとなった。

また、障害福祉サービス面では児童が前年度比▲1,520万円、療養介護+876万円であったが、人件費支出は前年度比プラス6,540万円で（人件費率76.5%）、令和6年度事業活動での収支は▲5,165万円となった。次年度以降の対応として所長を中心にすべてのスタッフがこの実態を共有し、入院患者増のための方策を図り経営改善に努めることとする。

## 8、地域福祉の推進

久留米市委託事業「久留米市東部障害者基幹相談支援センター」並びに障害者相談支援事業所「夢の紀」における相談支援や児童発達支援センターコアラ園を中心に放課後等デイサービス事業、保育所等訪問支援事業の充実、更に短期入所・日中一時支援を含め、在宅障害児者のニーズを的確に把握し、感染症予防対策を講じながら地域福祉の増進のために更に努めてきた。

## 9、新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症が5類相当の位置づけとなって以降、世の中は感染対策の意識が薄れつつある。公衆の場でもマスクをしていないことが当然となっている。その為か、新型コロナ以外のインフルエンザやノロウイルス、RSウイルス等の感染症が増加し、施設内でもクラスターが発生している。感染対策は保健所の定点報告を目安にフェーズを定め、感染症対応を行っている。行事や外出等の活動は、流行時期を見ながら積極的に実施している。また、面会については時間制限はあるが、居室内での面会を可能とし緩和している。

令和6年度の新型コロナウイルス感染症罹患者数は、利用者様125件、職員105件で、8件のクラスターが発生した。新型コロナ感染が始まって以来、最高の罹患者数であった。しかし、治療薬の普及により施設内での死亡例はなかった。この様な中、利用者様を感染症から守っていくためには、「標準予防策」が重要であることを繰り返し発信してきた。職員は病原体の媒介者となる可能

性が高いため、特に手指衛生については1か月間の手指アルコール消毒の目標値を決め、使用量調査（年2回）や毎月の薬局からのアルコール消毒剤払い出し量など数値を見える化している。

今後も利用者様にとって施設での生活が安全であるように感染対策を継続していき、笑顔で過ごせるよう支援していきたいと考える。

## 10、 定例事業

### (1) 運動会の開催

開催期日を令和6年5月18日(土)とし、1月に東部運動公園の利用申し込みを行い、2月に決定の報告をうけ、会場の確保を行う。6年ぶりの運動会であり、法人全体で協力し準備を行ったが、新型コロナウイルスによる千歳療護園のクラスター及びおひさま寮の病棟閉鎖により、5月13日(月)に中止を決定する。各施設、各寮にて代替レクリエーションを実施している。

### (2) 夏祭りの開催

開催期日は8月29日(木)に実施を予定していたが、新型コロナウイルスにより複数の各寮・施設にて病棟閉鎖及びそれに準じた状況となり、感染拡大防止の為8月20日(火)に中止を決定する。

29日(木)の時点において閉鎖になっていない施設・寮についてはそれぞれ各施設、各寮にて感染対策を講じたうえで趣向を凝らしたレクリエーションを実施し、利用者様に楽しんで頂いた。

## 11、 職員研修事業（園内）

### (1) 外部講師による研修

- ・ハラスメント研修 講師：堀内恭彦氏  
弁護士
- ・障がい者の権利 講師：甲斐直子氏  
久留米市健康福祉部障害福祉課
- ・人権研修 講師：濱近政和氏  
福岡県人権・同和教育啓発・研修講師団

## (2) 園内研修会の実施

・ 理事長講義	実施
・ 薬局研修会	実施
・ 衛生管理・メンタルヘルス研修会	実施
・ 医療安全・感染症研修会	実施
・ 虐待防止研修会	実施
・ 局長講義	実施
・ 報告会（苦情解決、安全管理、感染症対策）	実施

新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、上記の通り報告を行った。

## (3) 新任職員研修

いずれも別添報告書の通り内容を進化させながら実施した。

## 12、委員会活動

苦情解決委員会はじめ各委員会活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら慎重に行ってきた。その他各委員会からの報告は別添のとおりであった。

## 令和6年度新任職員研修

### 研修のねらい

- 1回目は入職にあたっての最低限必要と思われる内容にとどめ、実務をより早く経験する。
  - 2回目を3ヶ月～6ヶ月後あたりに開催し、新任職員になって自分の抱えている悩みやこれからの期待、日常業務の中で疑問に思っていること等をグループ討議で話し合いしてもらう。
  - 3回目は、1年間を通じての現場実習の最終日とする。(新型コロナウイルス感染予防対策の為、状況により日程調整を行う)
- ①1年間を通じ、法人内の他部署の仕事を体験し、自分の仕事に対する姿勢を振り返る機会とする。
- ②新任職員が顔を合わせて話し合い、同じ様な悩みや不安を持っていながらも、みんな頑張っている状況を知り、自分だけではないことを共有すると共に、今後の自分の仕事に対する姿勢や課題を再確認し、心をリセットする。

令和6年4月1日(月)

地域支援棟 研修室

9:00～18:00

No.	研修概要	内容	開始時間	終了時間	場所	
	新任職員研修開始(1日目)		9:00	～	研修室	
1	オリエンテーション		9:00	～ 9:20	研修室	20分
	移動		9:20	～ 9:30		
2	辞令交付		9:30	～ 10:00	交流ホール	30分
	移動休憩		10:00	～ 10:10		
3	理事長講義①		10:10	～ 11:10	研修室	60分
	休憩		11:10	～ 11:20		
4	理事長講義②		11:20	～ 12:20	研修室	60分
	昼休み		12:30	～ 13:30		60分
5	就業規則(海田事務長)		13:30	～ 14:05	研修室	35分
6	福利厚生・退職金共済(池田事務長)		14:05	～ 14:40	研修室	35分
	休憩		14:40	～ 14:50		
7	食事介助(佐々木係長)		14:50	～ 15:30	研修室	40分
	移動		15:30	～ 15:35		
8	車椅子操作(藤川部長)		15:35	～ 16:10	交流ホール	35分
	移動		16:10	～ 16:15		
9	施設紹介	ゆうかり医療療育センター・ 耳納学園・コアラ園・夢の紀・基幹相談支援 千歳療護園・第二千歳療護園等	16:15	～ 17:50	各施設	95分
10	終礼		17:50	～ 18:00		

研修担当 研修委員会

# 令和 6 年度新任職員研修

## 第 2 回

令和 6 年 11 月 14 日(木)

9:00~16:00

会場:研修室(地域支援棟 2F)

研修概要		開始時間	終了時間	備考	
1	オリエンテーション 自己紹介	9:00	~ 9:15		
2	苦情解決委員会について	9:15	~ 9:55	泉委員長 和田委員長	
	休憩	9:55	~ 10:00		
3	大滝 Dr 講義(※必須講義)	10:00	~ 11:00		
	休憩	11:05	~ 11:15		
4	感染症委員会について	11:15	~ 12:15	宮崎係長	
	休憩	12:15	~ 13:15		
5	防災委員会について	13:15	~ 13:45	堤委員長	
6	防犯委員会について	13:45	~ 14:15	三重野委員長	
	休憩	14:15	~ 14:25		
7	「理想の職員像について」	① 説明	14:25	~ 14:30	
		② 個人ワーク	14:30	~ 15:10	
		③ 役割分担決め			
		④ テーマの決定及び討議			
9	グループ発表	⑤ レポート作成	15:10	~ 15:30	
		⑥ 発表	15:30	~ 16:00	



# 施設事業報告

- ・ ゆうかり医療療育センター
- ・ コアラ園
- ・ 相談支援事業所 夢の紀
- ・ 耳納学園
- ・ 千歳療護園
- ・ 第二千歳療護園
- ・ 久留米市東部障害者基幹相談支援センター

## ゆうかり医療療育センター

医療部診療課 外来

### 《概況》

外来受診者は、自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害、学習障害、言語発達遅滞等の発達障害児及び運動機能障害児（者）である。

令和6年度受診者総数は下記の通りである。

		令和6年度 受診者数												
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新患		11	5	9	10	7	8	8	8	7	6	10	8	97
再来		981	1133	1062	1123	862	1034	1070	1074	1053	915	1030	982	12319

新型コロナワクチン8回目 職員 11名

インフルエンザワクチン 職員 234名(76%) 家族 146名(2回接種あり)

- ・新患人数は、前年度と同様になっており、新患予約も前年度と変わらず8ヶ月待ちの状態である。1人あたりの新患診察時間は、60分～90分程度要している。
- ・新型コロナウイルス感染症発症から5年以上が経過し外来再来数は、コロナ禍以前と比較し同水準である。再診予約も予約困難なケースがあり関連部署と連携しスムーズに診察が行える様に調整した。
- ・5/20～5/24 医療部スタッフのコロナ感染拡大のため外来診察が中止となる。
- ・10/4 ゆうかり学園法人内全職員を対象に新型コロナワクチン8回目の接種希望者アンケート調査を実施した。11名の接種希望があり実施した。7回目ワクチン接種までは公費負担であったが8回目ワクチン接種より自己負担へ変更になったためか、接種人数が大幅に減少した。
- ・12/10 SPD【Supp（供給）Processing（流通加工）Distribution（分配）】運用開始  
物流管理業務（医療材料の定数管理・在庫・払い出し・消費管理・受発注管理等）を行う事を目的とし、医療材料の効率的な運用、及びコスト削減を図るため、SPD 業務委託業者（渡辺商会テクノメディカル事業部）と契約を結び運用が開始となった。

## 医療部診療課 放射線

### 《概況》

- ・一般撮影の撮影件数は、前年度と比較して増加した。
- ・透視検査は、件数は前年度と同数であり、内容もほぼ通年通りとなった。
- ・CT検査の検査件数は、前年度より、かなり増加となった。
- ・骨密度検査の検査件数は、前年度より減少となった。
- ・医師・看護師からの協力を頂き、“千歳・第二千歳誕生日健診”“35歳未満健診”の撮影指示を伝票から既存のオーダーリングに変更。紙媒体から電子媒体へ移行した。
- ・昨年同様、利用者さまの新型コロナ感染者の発生時には、他部署にフォローして頂きながら、感染拡大防止を徹底した。
- ・正当化と最適化の研修会を実施（1回/年 対象：医師・放射線技師）

※ X線透視診断装置が故障し、一時、透視のみで撮影が不可能になりました。施設に迅速に対応して頂きましたが、それでも、部品の納品待ちなど修理に一カ月近く必要となり、その間は、看護師等に協力して頂き、別機器で撮影を代用することで対応しました。

しかし、利用者さまには、その都度、通常より移動回数が増えることになり、ご負担をお掛けすることとなってしまいました。利用者さまをはじめ、ご家族様などご迷惑とご心配をお掛けしました。

### 年度別 撮影件数比較

年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
一般撮影	881	868	903	898	925
透視	83	83	81	88	88
CT	55	69	60	49	70
骨密度	12	59	27	21	16

2024年度 放射線部 撮影件数

【各検査 比較】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
一般撮影	71	71	90	73	84	70	102	76	90	55	50	93	925
透視	7	7	5	10	5	7	9	6	8	8	8	8	88
CT	4	5	1	10	6	7	12	3	2	3	7	10	70
骨密度	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13	16

各検査 詳細【一般撮影】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
病棟	47	54	55	50	60	48	68	49	43	33	28	62	597
外来	8	6	8	5	3	6	4	3	2	5	8	5	63
健診	病棟 B.D.	6	6	10	7	13	7	8	6	4	9	6	91
	耳・千 B.D.	8	5	16	10	8	8	7	17	9	8	7	110
	35歳未満	0	0	1	0	0	0	0	0	32	0	0	33
	その他	2	0	0	1	0	1	15	1	0	0	1	31
一般撮影 各月合計	71	71	90	73	84	70	102	76	90	55	50	93	925

※健診 その他；雇用時健診・委託業者健診・日中・短期 など

各検査 詳細【透視】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
ST チューブ入替	2	2	2	2	0	2	3	2	3	3	3	4	28
ED チューブ入替	5	5	3	7	5	4	6	4	5	4	5	3	56
膀胱瘻 入替	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	4
透視 各月合計	7	7	5	10	5	7	9	6	8	8	8	8	88

※その他；透視下での胃瘻交換・チューブの位置や捻じれや破損等の状態確認 など

各検査 詳細【CT】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
頭部	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	6
副鼻腔（顔面）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胸部	0	0	0	6	2	2	8	2	0	1	1	7	29
腹部	2	2	1	2	2	2	2	1	1	0	1	1	17
胸腹部	1	1	0	1	2	3	2	0	0	1	3	1	15
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	3
CT 各月合計	4	5	1	10	6	7	12	3	2	3	7	10	70

※その他；整形領域や上記にない検査部位

各検査 詳細【骨密度】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
腰椎+股関節	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	10
腰椎のみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
股関節のみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨密度 各月合計	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13	16

## 医療部診療課 検査

### 《概況》

- ・本年度は、利用者様の年 2 回の定期健診、職員（夜勤者・パート職員・35 歳未満）健診や血中濃度検査は、予定通り行うことが出来たが、誕生日月の心電図に関しては閉鎖等もあり検査することが出来ない月もあった。
- ・新型コロナウイルス感染症が流行し、濃厚接触者の検査を行ない陽性が確認され各寮共に病棟閉鎖になった。インフルエンザ A 型に罹患した利用者様・職員が前年度より増加した。
- ・ノロウイルス胃腸炎については、利用者様(10 人) や職員(4 人)に罹患者が確認された。
- ・病原大腸菌については、前年度は職員（職員家族）や利用者様への感染はみられたが今年度は、感染はみられなかった。
- ・RS ウイルス感染について、利用者様に罹患(39 人) が多数確認され感染拡大がみられた。

### ＜新型コロナウイルスの対応について＞

本年度は、新型コロナウイルス PCR 検査機器 2 台を用いて検査することで、結果報告が早くなり、スムーズに検査を行うことが出来た。

新型コロナウイルスが流行する中で、インフルエンザ A 型も職員・利用者様に感染が流行し、同時測定キットや単独のキットが不足しないように在庫管理を行った。

R6年	健診用検査			白血球数・CRP	血液生化学	検尿・検便	血液ガス分析	心電図	脳波	腹部超音波	迅速診断	新型コロナウイルス抗原	新型コロナウイルスPCR	外注検査
	6カ月	誕生月	外部・入園時											
4	22	20	3	101	76	72	1	14	2	3	58	54	64	75
5	18	21	1	108	61	66	0	7	0	2	148	136	96	77
6	24	25	0	109	62	76	0	27	1	0	65	63	52	87
7	17	16	2	127	73	69	0	12	0	1	85	78	122	63
8	16	22	0	104	68	63	1	15	1	1	79	79	90	93
9	14	14	1	102	59	48	1	13	0	2	27	27	43	93
10	18	26	17	165	101	92	0	27	1	3	37	31	14	119
11	20	22	2	82	65	62	0	22	0	3	45	41	50	76
12	26	17	0	115	71	78	0	14	1	3	133	10	10	78
1	16	16	0	94	65	61	0	15	1	3	90	92	92	64
2	22	18	4	84	62	65	0	15	2	0	195	24	24	133
3	13	14	10	128	90	79	0	25	1	5	81	1	1	167
計	226	231	40	1319	853	831	3	206	10	26	1043	877	658	1125

《概況》

医師の処方箋に基づき調剤を行った。令和6年度の処方箋枚数及び調剤数については下表の通りである。

① 令和6年度受付処方箋枚数及び調剤数

外来（千歳、耳納、その他）・病棟（おひさま寮、なかよし寮、ともだち寮）

月	日数	外来				病棟					
		臨時		注射		臨時		定期		注射	
		枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数
4	21	8	9	0	0	1346	1395	96	403	303	303
5	18	59	42	28	28	1392	1454	96	406	196	196
6	20	16	17	7	7	1280	1253	96	406	300	300
7	22	22	27	22	22	1375	1406	96	409	434	434
8	18	17	20	2	2	1324	1282	106	420	322	322
9	19	7	5	4	4	1303	1241	105	417	416	416
10	22	17	17	5	7	1617	1542	103	398	411	411
11	20	84	125	20	20	1127	1232	105	406	130	130
12	20	43	45	17	17	1312	1362	105	409	290	290
1	19	32	29	10	10	1241	1212	101	405	266	266
2	18	11	8	6	6	1072	1150	100	396	158	158
3	19	7	8	2	2	1537	1451	100	396	386	386
計	236	323	352	123	125	15926	15980	1209	4871	3612	3612

★吸入処方、外用剤でカウント

② 医薬品の安全使用のための研修会の実施

医療法に基づき、従業員に対し医療安全、医薬品・薬物に関する事故防止対策、特に安全管理が必要な医薬品などについてビデオ研修を実施した。

③ 薬事審査会

各科先生による新規採用医薬品の申請書提出に基づき審査を行った。  
また、医薬品に関する安全性情報などの提供を行った。

④ 救急カートの点検

急変時に必要となる注射薬の期限をチェックし、期限の切れたものについては随時交換を行った。

⑤ 院内感染症対策委員会参加

感染症対策として手指衛生の向上を目的とし、部署ごとのアルコール手指消毒薬の使用量を毎月報告するとともに、手指衛生遵守率向上のための啓発を行った。

⑥ 医療安全対策委員会参加

⑦ 褥瘡委員会参加

⑧ 給食委員会参加

⑨ 新型コロナワクチン・インフルエンザワクチン予防接種

新型コロナワクチン・インフルエンザワクチン予防接種において、ワクチンの保管、温度管理を行った。

《概況》

歯科医師の指導に基づき継続的な口腔管理の実施

ゆうかり医療療育センター（おひさま寮・なかよし寮・ともだち寮）

耳納学園 千歳療護園・第二千歳療護園 外来

受診者総数は下記の通りである。

園内歯科受診者 2024年4月1日～2025年3月31日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
Dr	75	37	49	52	49	49	70	71	53	53	61	61	680
D.H	150	148	168	156	74	150	189	155	140	130	144	134	1738

Dr（歯科医師） D.H（歯科衛生士）

外来受診者数 2024年4月1日～2025年3月31日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	25	26	30	18	16	20	26	33	15	20	21	20	270

- ・本年度は歯科医師の来園日数が減となった為園内歯科受診者数も減少となる。
- ・外来受診者数は昨年度より若干増加となる。
- ・全身麻酔下歯科治療の為医療機関へ紹介状発行  
外来利用者様 聖マリア病院 5名
- ・令和6年11月11日 古賀歯科医院（浮羽町）より歯科診察台（中古）の譲渡あり設置する。
- ・利用者様の口腔ケアには寮スタッフとの連携が不可欠であるため情報の共有はこれからも継続していきたい。
- ・令和7年3月より歯科外来・在宅ベースアップ評価料（1）を算定する。

## 看護部看護課

### 《概況》

近年、利用者様の加齢に伴う身体機能の低下や重症化が進み、令和6年度も更に濃厚な医療ケアを必要とする状況であった。他医療機関への委託入院数も多くみられた。また、これまで行ってこなかった末期がんの看取りを2例経験した。ACP（アドバンス・ケア・プランニング＝「人生会議」）に関する学習の必要性を感じた。今後は、ご家族の意向に寄り添い、看取りを受け入れるため多職種協働のもとACPチームを立ち上げ、話し合いや勉強会を行っていく。

感染症は新型コロナウイルス感染症以外の感染者のクラスターが発生している。利用者様の生活は制限が緩和され、居室内での面会や外出等出来るようになり喜ばれている。

職員の教育においては重心看護に特化したスキルアップが求められる。研修会の参加など自己研鑽を呼び掛けた。資格取得として、看護師、介護福祉士それぞれ国家試験に1名ずつ合格した。

人材育成の取り組みとしては、重症心身障害認定看護師を中心に、研修計画を立て実施している。今年度より主任係長会を発足し、人権など倫理的側面からの視点で活動を始めた。

### \*委託入院 45件

久留米大学病院	13件	聖マリア病院	5件
田主丸中央病院	20件	古賀病院21	1件
大牟田病院	4件	佐賀整肢学園	1件
肥前精神医療センター	1件		

(入院延日数 1046日間)

### \*医療ケア

◆ 超重症児	8名	◆ 準超重症児	16名
◆ 気管切開者	15名	◆ 鼻腔カテーテル挿入者	14名
◆ 胃瘻チューブ挿入者	30名	◆ 膀胱瘻	4名
◆ 膀胱カテーテル留置	6名	◆ 人工呼吸器	6名

### \*感染症

○インフルエンザ予防接種	126名
インフルエンザ罹患者	5名
○新型コロナウイルス予防接種(8回目)	76名

新型コロナウイルス罹患者 62名  
 ○ノロウイルス感染症罹患者 9名  
 ○RSウイルス感染症 30名

\*骨折 1名

\*短期入所者(延) 73名

日中一時支援利用者(延) 37名

\*実習生受入数

古賀国際看護学院小児実習 看護学生 19名(4G)

久留米大学医学部施設体験学習 4名

① 令和6年度 在籍者数(月初日)

令和6年4月～令和7年3月

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
療養	115	116	115	115	115	116	116	115	115	114	112	112
医療型	13	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13
一時保護	1											
私的												1

② 令和6年度入退園者状況

令和6年4月1日～令和7年3月31日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
措置入園												
退園							1					
契約入園	2					1					2	
退園		1					1		※1	※2	1	※1
私的入院				1							1	
退院						1						※1

※死亡退園・院

## ③令和6年度年齢別入所者数

令和7年3月31日現在

年齢 (歳)	0～6	7～12	13～15	16～19	20～29	30～39	40以上	計
措置		2		3				5
契約	1		2	6	18	12	80	119

## ④病類別入所者数

令和7年3月31日現在

病名		病名	
脳性麻痺	64	低酸素性虚血性脳症	2
(先天性)筋緊張性ジストロフィー症	3	脊髄破裂後遺症	1
染色体異常	4	マーシャルスミス症候群	1
知的障害	3	先天性眼球欠損症	1
頭蓋内出血後遺症	2	副腎白質ジストロフィー	1
化膿性髄膜炎後遺症	2	脳損傷後遺症	1
水頭症	5	急性脳症後遺症	1
レット症候群	1	インフルエンザ脳炎後遺症	1
脳炎後遺症	2	硬膜下出血後遺症	1
ダウン症候群	2	頭蓋咽頭腫摘出術後下垂体機能不全	1
MCT変異による甲状腺ホルモン輸送障害	2	右中頭蓋窩クモ膜胞	1
低酸素性脳症	1	乳幼児揺さぶられ症候群	1
(超)低出生体重児	2	心肺停止蘇生後状態	1
麻疹脳炎後遺症	1	脳腫瘍手術後水頭症	1
てんかん性脳症	1	頭蓋骨早期癒合	1
無酸素性脳症	2	脳形成異常	1
左瘻性麻痺	1	水頭症性無脳症	1
クラインフェルター症候群	1	筋強直性ジストロフィー症	1
難治性てんかん	1	滑脳症	1
レノックスガストー症候群	1	キアリー奇形Ⅱ型	1
ムコ多糖症Ⅱ型	1		
脊髄損傷	1		

計 124 名

## 【なかよし寮】

- 今年度のコロナウイルス罹患者は7/8～8/4に3名、1/5～1/3に18名（みなし陽性1名含む）また、12/3～1/1に21名（みなし陽性5名含む）のRSウイルス感染症が発生。感染源が特定出来ず、瞬く間にクラスターとなった。  
世の中の感染対策が緩和され、従来の季節性感染症の流行が聞かれるようになり、いつどこで何に感染するかわからない状況であるため、職員の感染対策の意識を高い状態で維持する必要がある。
- 感染対策委員会を中心に、手指消毒・手洗いを含む標準予防策の呼び掛けを続けているが、手指消毒薬の使用量は未だ目標値に達していない。感染症の発生がない時期は最も気が緩む傾向があるため、今後も途切れず啓発を継続していく。
- 重大アクシデントや繰り返し発生しやすいアクシデントについては医療安全委員会が主体となって迅速に要因分析、対策に取り組むシステムが確立してきた。しかしながら、インシデントレポートの提出がまだまだ十分な数には至らず、アクシデントの減少効果に繋がっていない。職員の事故防止の意識を高めるためにも今後も事例の周知、レポート提出の声掛けを継続していく必要がある。
- 1件の事例を通してACPに取り組んだ。なかよし寮では初めての試みであり、今後全職員が理解を深める必要がある。他職種と連携して今後の普及につとめたい。
- 個人の自己啓発のため自主研修の案内をその都度行っているが積極的な参加が少ない傾向にある。情報提供を密に、わかりやすく行なっていく必要がある。
- サービス管理責任者と虐待防止委員会が連携し、拘束や同性介助等について職員の意識改革の呼び掛けを行った。お互い注意し合える風土づくりに努めていきたい。
- レスパイト支援のため、職員全員に短期入所者の情報を共有し、理解と協力を得て出来る限り受け入れをおこなった。安心、安全に利用いただくことで短期利用者様の信頼を得、契約入所に繋げていきたい。
- 全職員の個別面談を行ない、職員の心身面の状態や職場の人間関係、業務に対する思いなどを把握し、フォローアップに努めた。また、新人職員とメンターの関係性について随時相互の話を聞き、新人職員が無理なく従事し続けることができるよう努めた。

## 【ともだち寮】

- 今年度も感染症委員会を中心とし、新型コロナウイルス感染症発症時のマニュアル更新や誰でもが分かりやすいように、掲示方法の工夫や情報の周知徹底を図ったが、確認不足や慣れ、思い込みで対策を行いマニュアル通りにできていない事があり伝達方法の再検討が必要である。

利用者様コロナ感染においては4月2人、5月から6月にかけて5人、8月2人、令和7年2月には利用者様21名、職員6名の大規模クラスターとなった。アルコール消毒の消費量が少なく、手指衛生が当然となる「風土」を作る為の取組や啓発を行う必要がある。また、日常生活の基本である環境整備及び生活環境を整える事が感染拡大防止に繋がる事への理解を深めていく必要がある。

- 誤薬や坐薬や浣腸に関する怠薬等のアクシデントが多く見られた。アクシデント報告提出後より、要因分析、対策、立案までの取り掛かりが遅い為、アクシデントに対する意識が薄れ、同じアクシデントが繰り返された要因である。アクシデント発生後は直ちに対策を立て行動することが今後の課題である。また、重症化に伴い業務も煩雑化している為、インシデントレポートの提出を積極的に促すと共に、職員へ決められたルールを順守することを周知徹底し、アクシデント防止に努めていく事が重要であると考えます。
- 新人教育の面ではメンターが積極的に関わる事で業務やメンタル面でのサポートを行う事が出来た。また、本人と面談を行い業務内容を確認進めていく事で精神的負担の軽減に努める事が出来た。研修においては、研修案内を掲示し参加を促していたが積極的な参加には至らなかった。
- 短期入所受け入れについて、閉鎖が多く受け入れは十分ではなかったが可能な限りレスパイト支援を行った。受け入れ時は、ご家族、利用者様が安心してご利用頂けるように情報共有を行い対応、また、寮内行事にも一緒に参加することで楽しい入所生活を提供することが出来た。

#### 【おひさま寮】

- 今年度感染症委員会を中心とし、感染症発生時の対応や、新型コロナウイルス感染症対策（寮閉鎖）を徹底したがマニュアル通りに動けないスタッフもおり周知できておらず思い込みでの対策も見られた。また、コロナウイルス感染対策が主流になっていたため、コロナウイルス以外の感染症発症時に思い込みでコロナ対策に準じた対応をしている場面が見られた。  
マニュアルを確認する事、伝達方法を考える必要があり、周知の方法を検討する。コロナウイルス感染症7名罹患、クラスターにはならなかったものの同室者以外の居室での罹患者が発生した。職員の手指衛生及びPPEの適切な使用が重要である。

1月にインフルエンザウイルス感染症に利用者様3名、職員6名罹患し、クラス

ターが発生した。3月に入りRSウイルス、ノロウイルス感染の同時流行が起こった。RSウイルス感染症においては、13名の罹患となりクラスターが発生した。今回のクラスター発生の要因分析を行う必要がある。感染対策の基本は手指衛生である。勉強会を行い啓発に取り組んでいるがウエルパスの使用量が目標に達していない。啓発活動内容の見直しや定期的なカンファレンスが必要と考えられる。職員休憩時間の換気・黙食、アルコールクロス拭きは習慣化している。

○インシデント、アクシデント報告書、分析内容など情報共有し、特に重大アクシデントにおいてはカンファレンスにて話し合いを行っているが、内服や注入において確認不足や思い込みによるアクシデントが続いており、次の業務に対する焦りが影響している。

利用者様の重症化により処方量の増加や変更数が増加し複雑化している。与薬系の作業負担も大きくなりアクシデントに繋がっていると考ええる。

○母親出産によるレスパイトの日中一時支援を行った。

コロナ禍の制限が軽減し、短期入所及び日中一時支援の定期的な受け入れが出来ている。

#### 《出張関係》

◆社会福祉施設役職員研修 新任職員研修（クローバープラザ）

5/15、16 看護師1名、介護士2名                      5/22、23 看護師1名、介護士1名

◆社会福祉施設役職員研修 新任職員研修（オンライン）

5/29、31 看護師3名                      6/5、6 看護師2名

◆日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会（千葉）

5/23～24 看護師1名

◆社会福祉施設役職員研修 中堅職員研修

6/12, 13 看護師1名（クローバープラザ）

6/20、21 看護師1名、介護士1名（オンライン）

◆第84回重度・重症児（者）医療・療育（基礎）講習会（東京）

5/27～31 看護師1名

◆第10回障害児（者）施設看護師講習会 ミドルコース（東京）

6/11～14 看護師1名

◆ストレスマネジメント研修 管理職員コース（オンライン）

7/10, 11 看護師1名

- ◆ストレスマネジメント研修 中堅職員コース（クローバープラザ）  
7/23 介護士1名
- ◆福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程チームリーダーコース研修  
（クローバープラザ） 7/31、8/6 介護士1名
- ◆重症心身障害児・者施設職員研修会 看護師コース（大阪）  
9/5 看護師2名  
実践報告会発表「自施設における人材育成の現状と課題」
- ◆第41回九州身体障害者施設研究大会（熊本）  
9/11～12 介護士1名
- ◆第69回西日本肢体不自由児施設運営研究大会（鳥取）  
9/12～13 看護師1名
- ◆第66回重症心身障害児（者）医療看護師講習会（東京）  
9/19～21 看護師1名
- ◆院内感染対策講習会（厚生労働省主催）  
9/30～R7.2/28 オンデマンド配信 看護師2名
- ◆児童福祉施設新任職員研修会（北筑後教育事務所）  
10/1 看護師2名、介護士3名
- ◆全民連中堅職員研修会（香川）  
10/24～25 介護士1名
- ◆全国重症心身障害児者施設職員研修会 看護管理コース（広島）  
10/30～11/1 看護師1名
- ◆第45回日本重症心身障害福祉協会 西日本施設協議会（徳島）  
11/14～15 看護師1名
- ◆福岡県障がい福祉サービス事業所等支援員研修（クローバープラザ）  
11/25 介護士1名
- ◆第67回重症心身障害児（者）医療看護師講習会（東京）  
12/19～21 看護師1名
- ◆福岡県社会福祉協議会職員研修会（久留米）  
12/12 看護師1名
- ◆第46回九州地区重症心身障害研究会（大分）  
1/18 看護師1名 研究発表  
「低酸素血症で入院してきた重症心身障害者に口腔マッサージを取り入れて」
- ◆強度行動障害支援者養成研修 基礎研修・実践研修（クローバープラザ）  
2/8, 9, 18, 19 介護士1名

◆福祉サービス苦情解決従事者研修会

2/3～16 オンデマンド配信 看護師 1 名

**育成部**

《概況》

令和 6 年度、感染対策は以前より緩和されたものの、寮内利用者様の感染が確認された場合には、寮の閉鎖や居室での個別対応は引き続き行われた。前年度より感染症による閉鎖期間も短くなった為、外出の機会を増やし、買い物外出や空港周辺への外出、カラオケルームの利用、屋外での飲食、いちご農園への外出など、利用者様方の希望外出が実現できた。又、前年度天候等により開催できなかった花火大会を敷地内で実施できた。

寮内での行事（花祭り、端午の節句、七夕、クリスマス会、節分、雛祭りなど）、個別の活動（趣味的）、グループ活動、ドライブ外出などを計画実施した。

次年度も利用者様方へ楽しみの提供を継続的に計画実施する。

**【なかよし寮】**

本年度は、ドライブ外出や希望外出を実施することができた。希望外出では、買い物、空港周辺、カラオケ、いちご農園などの外出を楽しむことができた。

園内活動としては、季節の行事、誕生会、お楽しみレクリエーション、午前の小グループでの活動、午後の全体レクリエーションを実施した。

コロナ感染症による閉鎖もあり、運動会やクリスマス会が中止となったが、それに代わる寮内での楽しみ会を実施することができた。

余暇活動では生花、散歩、ゲーム、音楽 DVD 鑑賞、写真撮影、玩具遊び、カラオケ等、各個人での活動にも取り組むことができた。

個別支援計画に基づいた取り組み、支援を実施し、楽しみを提供することができた。

就学児の利用者様には、土曜日の午後ドライブやセンター内行事に参加することができた。又コロナ閉鎖時のオンライン授業と平時での学校生活においては、就学児についての会議をするなど、連携を取りながら支援することができた。

(センター外活動)

買い物外出	5/28 (火)	2名
買い物外出	5/31 (金)	2名
買い物外出	6/17 (月)	2名
空港周辺外出	6/25 (火)	2名
買い物外出	8/20 (火)	2名
買い物外出	8/22 (木)	2名
買い物外出	9/ 9 (月)	2名
買い物外出	9/27 (金)	2名
空港周辺外出	9/12 (火)	2名
買い物外出	10/10 (木)	2名
児相交歓大会	10/12 (土)	3名
午前買い物外出	10/21 (月)	2名
午前買い物外出	11/11 (月)	2名
買い物外出	11/21 (木)	2名
買い物外出	2/14 (金)	2名
買い物外出	2/21 (金)	2名
午前中いちご農園外出	3/10 (月)	2名
買い物外出	3/17 (月)	2名
土曜午後ドライブ	月に2~3回	学童児

(センター内活動)

花祭り	4/ 6 (土)	全員参加
端午の節句	5/ 4 (土)	全員参加
七夕	7/ 8 (土)	全員参加
なかよし寮お楽しみ会 (盆踊り)	8/29 (木)	全員参加
なかよし寮花火大会	10/16 (水)	全員参加
クリスマス会食事会	12/11 (水)	全員参加
クリスマスプレゼント渡し	12/25 (水)	全員参加
節分	2/ 1 (土)	全員参加
ひな祭り	3/ 1 (土)	全員参加
お楽しみ会	3/ 19 (水)	全員参加
誕生会	第3土曜日	全員参加

(ボランティア・慰問) コロナ対策の為、中止

生花教室 (職員対応で開催)

毎月第3水曜日

希望者

### 【おひさま寮】

本年度は、12月からユニット体制を開始し、寮内編成を行ない、利用者様を中心に他職種とのコミュニケーションを図った。新しい試みとして、保護者様の高齢化等に伴い、面会に来園されることが厳しい状況の方を対象に利用者様の希望も含め、実家への短時間外出を今回初めて実施した。

個別支援計画に基づいて活動を行い、午後ドライブや午前買い物外出等、個別の活動が行えた。又、外出等が厳しい利用者様は、居室内での絵本の読み聞かせや、中庭での日光浴等を行った。感染症対応時のお楽しみ会は、各居室を回りユニットを活用して利用者様へ楽しい時間を提供する事が出来た。外出経験の少ない小学部6年生の利用者様には、修学旅行前の体験外出として、午前外出や午後ドライブ等で経験を積み、修学旅行に参加して頂いた。更に、特別支援学校との連携を密に行い、感染症対応時の訪問学級はオンラインでの授業を行った。

#### (センター外活動)

修学旅行前体験外出	7/30 (火)	2名
修学旅行前体験外出	8/21 (火)	2名
午前買い物外出	9/12 (木)	2名
午前買い物外出	9/18 (水)	2名
自宅訪問外出	10/30 (水)	1名
土曜午後ドライブ	月に2~3回	2~4名

#### (センター内活動)

花祭り	4/ 3 (水)	全員参加
端午の節句	5/ 8 (水)	全員参加
七夕	7/10 (水)	全員参加
なかよし寮お楽しみ会	11/ 6 (月)	全員参加
クリスマス会食事会	12/11 (水)	全員参加

キャンドルサービス	12/11 (水)	全員参加
クリスマスプレゼント渡し	12/25 (水)	全員参加
クリスマス演芸会	12/25 (水)	全員参加
節分	2/ 5 (水)	全員参加
ひな祭り	3/ 5 (水)	全員参加
誕生会	第3土曜日	全員参加

## 【ともだち寮】

法人のテーマでもある「明るく 楽しく 元気よく」を意識し業務に取り組んだ。

長年続く感染症対策、寮内閉鎖における活動制限の中、利用者様が楽しく生活を送れるよう援助した。

日常生活援助では、利用者様とのコミュニケーションを今まで以上に意識し、関わりを多くする事を心掛けた。

センター内、外活動では、制限がある中でも担当者を主として、多くのアイデアを持ち出し、昨年度より充実した活動となった。特にセンター内活動では、各部署との理解、連携のもと利用者様、職員全員参加の活動となった。

育成部の職員として、法人テーマを原点として捉え楽しく、笑顔で支援、サポートする取り組みを行った。

### (センター外活動)

午前ドライブ外出 (居室単位) 年/1人 8~10回

午後ドライブ外出 (毎週土曜日) 病棟閉鎖中除く 年/38回実施

希望外出

5/ 22(水)	6/ 19(水)	7/17(水)	7/22(月)	8/ 7(水)	8/23(金)
9/ 6(金)	9/ 25(水)	10/ 7(月)	10/31(木)	11/25(月)	12/25(水)
1/ 22(水)	2/ 26(水)	3/17(月)			15回実施

### (センター内行事)

花祭り 4/3 (水) 全員参加

端午の節句 5/8 (水) 全員参加

七夕祭り 7/3 (水) 全員参加

夏祭り 8/29 (木) 全員参加

お楽しみ会 食事会 11/6 (水) 全員参加

クリスマス会 12/11 (水) 全員参加

### (プレゼント渡し 演芸会 食事会)

節分 2/5 (水) 全員参加

ひな祭り 3/5 (水) 全員参加

茶話会 3/19 (水) 全員参加

誕生会 (毎週第3水曜日) 全員参加

### (その他)

趣味、余暇活動 (月/1~2回)

理容日 (偶数月) 全員/居室単位

【出張・研修関係】

- R6. 5. 17・18 社会福祉施設役職員研修『新任職員研修』  
春日クローバープラザ 育成員 1 名
- R6. 6. 12・13 社会福祉施設役職員研修『中堅職員研修』  
春日クローバープラザ 育成員 2 名
- R6. 7. 30 令和 6 年度 権利擁護に関する合同研修  
TKP ガーデンシティ博多 育成員 1 名
- R6. 9. 2 令和 6 年度 第 2 回研修委員会  
ゆうかり医療療育センター内 (Web 研修) 育成員 1 名
- R6. 9. 5 令和 6 年度 第 1 回実務者研修会  
春日クローバープラザ 育成員 1 名、保育士 1 名
- R6. 9. 11～12 『第 41 回 九州身体障害児者施設研究大会』  
熊本市 KKR ホテル熊本 育成員 1 名
- R6. 9. 12～13 『第 69 回 西日本肢体不自由児施設運営研究会』  
鳥取県米子コンベンションセンター 育成員 1 名、保育士 1 名
- R6. 9. 26 令和 6 年度 児童福祉施設新任職員研修会  
北筑後教育事務所 育成員 1 名
- R6. 10. 24 令和 6 年度 権利擁護に関する合同研修  
博多ガーデンシティ 育成員 1 名
- R6. 10. 24～25 令和 6 年度 (第 41 回) 全民連中堅職員研修会  
香川県高松市リーガホテルゼスト高松 育成員 1 名
- R6. 11. 1～30 障がい福祉サービス事業所等支援員研修  
ゆうかり医療療育センター内 (e ラーニング研修)  
左記期間内に 7 時間の研修受講 育成員 2 名、保育士 4 名

- R6. 12. 12～13 令和6年度 全国重症心身障害児者施設職員研修会  
『保育士・児童指導員（療育職員）コース』  
アンピールホテル大阪 保育士1名
- R7. 1. 9 令和6年度 第3回研修委員会  
ゆうかり医療療育センター内（オンライン） 育成員1名
- R7. 2. 8～9 2024年度 強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修）  
R7. 2. 18～19日 同上研修（実践研修）  
春日クローバープラザ 育成員1名
- R7. 3. 4 令和6年度 第5回研修委員会  
春日クローバープラザ 育成員1名
- R7. 3. 13 令和6年度 第2回施設長会及び施設長・職員研修会  
春日クローバープラザ 育成員2名

**【実習生の受け入れ】**

- ・筑紫女学園大学 7名
- ・福岡こども短期大学 4名
- ・福岡女学院大学 6名

### 《概況》

医療訓練部門における訓練は、すべて医師の処方に基づき個別で実施し、診療報酬は脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）および障害児（者）リハビリテーション料 1・2・3 で算定請求した。入所部門において 6 月、9 月、12 月、3 月、リハビリテーション総合実施計画書を作成した。計画書の説明や交付手順は郵送形式とし、返信用ハガキで同意の返事があった方について、リハビリテーション総合計画評価料を算定した。

コアラ・外来部門は、土曜日の利用者様など診察の機会そのものが取れない方もいるため、リハビリテーション総合実施計画書の説明をセラピストが行い、その内容を主治医に確認していただき交付した。

毎月第 2 火曜日に医師、看護師、保育士、心理士、栄養士および訓練士（PT・OT・ST）のスタッフが出席して、リハビリテーション部門カンファレンスを開いている。内容として、各寮の利用者様の個別カンファレンスを実施した。今年度は、新型コロナウイルスの影響で 5 月・8 月の 2 回のみ開催が中止となった。

訓練は、利用者様の潜在能力や可能性ならびにモチベーションなど多方面から対象児（者）のニーズを見極め、個別に計画を立てて行なうものである。特に、乳幼児期を担当するスタッフは、成長や発達全体を深く理解し、幅広く支援する能力が必要である。そこで、児童発達支援センター契約者に対して、発達全体の手助けおよび保護者の指導を目的に、PT・OT・ST が密に保護者とコミュニケーションがとれるよう集団でのリハビリテーションではなく、個別のリハビリテーションで対応した。

関節の拘縮や変形、異常筋緊張、呼吸問題など生活全般に問題を抱えている重度の障がい児（者）に対して、独自の姿勢保持具を作製し活用するとともに、他部署の職員に対しても姿勢管理や呼吸理学療法（スクイーピング）・移動・移乗・食事介助などの方法について、イニシアチブを取りアプローチすることで利用者様の生活の質（以下 QOL）の向上につなげた。さらに摂食・嚥下機能に問題のある利用者様に対して、嚥下食を導入し、安全で楽しい食事時間の提供を行っている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類となったことで病棟と外来の兼任が可能となったが、病棟でクラスターが発生した場合、病棟が閉鎖となり訓練中止となった。

各部門の報告は以下に示す。

## ●理学療法

### 【なかよし寮】

対象 45 名(寮転入 3 名・退園 4 名含む)に対し、理学療法士が 2 名(専任制)で、年間訓練実施単位数は 4,993 単位であった。対象児(者)の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどである。

今年度も、新型コロナウイルスや RS ウィルス感染症の拡大により利用者様の訓練を継続して行うことができない時期があった。

訓練内容は、個々のニーズに合わせた目標を設定し、基本動作訓練、移動動作訓練、筋力増強・関節可動域(以下 ROM)訓練、日常生活動作(以下 ADL)訓練などを実施した。病棟閉鎖によって居室で訓練を実施する時間が多くなり、学校卒業者の中には、体力や身体機能の低下がみられた。

特別支援学校を卒業される利用者様に対しては、支援学校の先生と卒業後の生活を見据え情報交換を行った。利用者様の特性や身体機能に合わせた活動が行えるようにケースと話し合い取り組むことができた。

姿勢管理に関しては、個人に合わせたクッションや車椅子の作製・修理を行い、看護師と連携を取り、車いすやベッド上での姿勢管理や褥瘡予防に努めた。病棟職員に対しては、車椅子上の姿勢管理や移乗動作の勉強会を実施し利用者様へ安全な介助方法を各部署と共有し他職種との連携を強化した。

### 【おひさま寮】

おひさま寮では、43 名(私的入院 1 名、寮転入 2 名、寮転出 1 名、退園 2 名含む)の利用者様に対し、理学療法士 4 名(専任 2 名)で年間 8,314 単位の訓練を実施した。対象児(者)の多くは、重度の運動機能障がいと知的障がいを併せ持ち、日常生活のあらゆる場面において介助が必要である。非対称な姿勢や、変形・拘縮、加齢による呼吸機能低下への対応が重要な課題となっている。また、気管切開や胃瘻造設術を受けた方、人工呼吸器を使用する利用者様も増えており、日常のリスク管理は欠かせず利用者様の健康状態も多様で、個々のニーズに応じたケアが必要となっている。

訓練内容として、変形・拘縮の予防のため ROM 訓練を中心にマッサージ、リラクゼーションで利用者様の柔軟性を維持し身体の快適性を高めることを目指している。また、人工呼吸器や気管切開をしている利用者様や肺炎リスクがある利用者様に対して、呼吸状態の安定を図るためにポジショニング、排痰や呼吸介助(スクイーピング)などの理学療法を行い呼吸状態の安定を図った。動くことができる利用者様には床上での寝返り移動や起き上がり訓練、座位保持訓練、歩行訓練、立位保持訓練、遊具を使用した運動などを積極的に行った。姿勢管理に関して個々の利用者様に適した車椅子や姿勢保持器具の検討・作製を行い、リラクゼーション・排痰・側彎変形・拘縮の進行予防に努めた。

また、病棟職員に対して職員の腰痛予防についての研修会を行った他、リフトを使用しての移乗・介助を積極的に取り入れ職員の介助量軽減を目指すとともに、利用者様のニーズに応えられるような環境設定を図った。

新型コロナウイルス感染症による病棟閉鎖や利用者様の高齢化に伴う機能低下が認められるが、利用者様の安全と健康を最優先し必要に応じたケアに努めた。

### 【ともだち寮】

対象 48 名(新規入所 3 名、寮転出 4 名含む)の内 45 名に対し、理学療法士 3 名(10 月より 1 名産休から復帰)で行い、年間訓練実施単位数は 6,630 単位であった。

対象児(者)の疾患は、脳性麻痺や水頭症・化膿性髄膜炎後遺症・脊髄損傷などの神経疾患、筋強直性ジストロフィー、染色体異常などである。

今年度も新型コロナウイルス感染症における寮内クラスターが 4 期間あり、訓練を中止し介護業務に専念した期間があった。その際の利用者様の活動制限は大きく、加齢や症状の重症化もあり、能力低下が著明である利用者様も見受けられた。

訓練内容としては、①関節拘縮や変形予防を目的としたストレッチや関節可動域訓練の実施、②筋緊張緩和のためのリラクゼーションの実施、③筋力増強訓練では臥位での筋力トレーニングや日常生活動作を意識した移乗動作の反復訓練、起立訓練などを最小介助にて実施、④端坐位やマット上座位におけるバランス訓練・姿勢保持訓練の実施、⑤日常で歩行や車椅子駆動で移動されている方においては屋外環境や寮外環境にて距離や負荷量を調整しながら能力維持のために自力移動訓練を中心に実施、⑥重症度の高い利用者様においてはベッド上における環境設定も重要であるため、個々のニーズに合わせて身体状況の変化を把握し、クッション作製やポジショニングのデモンストレーションを実施した。

訓練中の大きな事故もなく、利用者様の要望や痛みの訴えを注意深く聞き、能力維持・向上のため取り組むことができた。

また今年度は、新規入所者様に加え、転寮される利用者様が多く見受けられた。その際にも他寮にて安心して過ごしていただくために書面や口頭での情報提供を実施し、スムーズに転寮していただけるように努めた。

## ● 作業療法

### 【なかよし寮】

対象 42 名に対して、なかよし寮担当作業療法士 2 名が週 1~2 回個別で行い、年間訓練実施単位数は 4,653 単位であった。昨年度に引き続き今年度も、感染症による病棟閉鎖、病棟業務の補佐に入ることもあり、計画通りに訓練を行うことのできない期間もあった。

対象児(者)の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどである。

訓練内容は、身体機能面の維持・向上および精神面の安定を目的に、ROM 訓練、マッサージ、リラクゼーション、玩具・感覚遊び、作業活動を取り入れたアプローチを行なった。

今後退園が予想される利用者様には、他職種と連携し身辺自立に向けた支援やコミュニケーションに関する課題の共有・対応を行った。特に、プライベートゾーンの認識や他者との適切な距離感、月経時の行動選択など、性教育に関する指導や環境設定を行った。

手段的日常生活動作（以下 IADL）として買い物や公共交通機関の利用方法など、ロールプレイや実践を交えながら指導した。また、YouTube などの映像を活用することで、より具体的にイメージすることができるようになり、本人の課題を把握し、適切な支援につなげることができた。

集団活動では、クッキングや制作活動、ゴロ卓球やゲーム大会などのレクリエーション、園芸活動など多岐にわたる取り組みを行うことで、集団活動への参加、食材を加工する楽しみの体験、季節を感じる機会を提供できた。特にクッキング活動では、パンケーキの調理やかき氷づくりなど、昨年度よりも多くの調理過程を体験できるようメニューを工夫した。

今年度も感染症の状況を考慮しながら訓練室を利用してのリハビリを中心に行うことができた。しかし、状況に応じて病棟内や居室内など限られたスペースで作業療法を行うこともあった。移動や活動が制限された中でも、楽しみや制作活動の機会、運動能力の維持などに努めた。

## 【おひさま寮】

対象 43 名に対して、作業療法士 2 名（内 1 名コアラ園兼任）が週 1~2 回個別で実施し、年間訓練実施単位数は 3,767 単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症などの中枢神経系の異常による重度の運動機能障がいや重度の知的障がいの重複などであった。視力障がいや嚥下障がい、加齢にともなう身体機能の低下や変形・拘縮など、それぞれ多岐多様な問題を抱えており症状も重度化している。また、人工呼吸器での呼吸管理や経管栄養が増えており、作業療法を行う上でもリスク管理は年々重要になってきている。

訓練内容として、身体機能の維持のための ROM 訓練や ADL 訓練（食事時の姿勢管理および環境調整など）に加え、感覚訓練（スイングやハンモック、スヌーズレンなど）を行い様々な感覚入力をするなかで、楽しさや変化を感じていただくことと精神的な安定を図るように取り組んだ。また、利用者様のほとんどが寮内での生活が中心となっているため、気候や外気を確認しながら屋外への散歩や日光浴を行い環境の変化による感覚的な刺激を経験し、四季の変化を感じてもらった。

寮内での活動として、その時期にちなんだ作品を制作した。セラピストが介助しながらできる範囲で作業に参加してもらい、完成した作品は居室や多目的ルームに展示することで他スタッフから賞賛を得たり、コミュニケーションのきっかけにもつながった。

本年度は昨年度に比べて新型コロナウイルスによる病棟閉鎖、居室対応になることは幾分少なくなったものの、それらの期間においてはリハビリテーションを実施できない状況および制限されるような状況もあった。また、病棟閉鎖の際には、リハビリ以外の業務（生活支

援や感染症対策による環境整備、検査のサポート、コロナ罹患者に対しての生活介助なども他部署と連携をとりながら行った。

### 【ともだち寮】

対象 48 名に対し、作業療法士 3 名（兼任含む）で週 1～2 回実施し、年間訓練実施単位数は 5,094 単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいや知的障がい、染色体異常、筋ジストロフィーなどである。

今年度も新型コロナウイルス感染症による寮内クラスターが発生し、訓練を中止した期間があった。その際の利用者様の活動制限は大きく、加齢や症状の重症化もあり、能力低下が著明である利用者様も見受けられた。

訓練内容として、変形・拘縮予防のために四肢の ROM 訓練や ADL 訓練などを行い、情緒の安定やリラクセーションを目的に散歩や外気浴、感覚遊びやハンモックチェアなどを行った。

寮内での活動として、折り紙などの作品作りや壁紙などの制作活動を通して、作業に参加してもらうことで他者からの賞賛を得たり、パソコンや iPad などを使用した趣味活動やゲームなどの活動を楽しんだ。また、感染症により居室で過ごす利用者様に対しては、ベッドごと外に出て外気浴を行うなどの環境の変化や自然を感じてもらうなど、利用者様と楽しみを共有することで QOL の向上に努めた。

## ● 言語聴覚療法

### 【なかよし寮】

対象 45 名に対し、言語聴覚士 2 名が必要性に応じて週に約 1～2 回実施した。年間訓練実施単位数は 4,565 単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動発達遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどである。

訓練内容として、重度知的障がいを認める利用者様に対しては、スキンシップ、スヌーズレン活動、おもちゃ遊び、歌遊び、音遊び、楽器遊びなどを通じ、聴覚・視覚・触覚などの感覚を用いて、感覚・認知やコミュニケーション（理解面・表出面）の発達を促し、心理的安全性や精神的安心感を高める関わりを行った。

言語発達障がいを認める利用者様には、絵本の読み聞かせや音読、および絵カードなどを用いた呼称やマッチング、読解や説明課題、書字課題、時計の読み方などといった机上課題に加え、お絵かきやぬり絵、パズルなど、遊びを通じた認知機能へのアプローチも行なった。また、オセロや卓上ゲームでのやりとり遊びなど、発達段階に応じたプログラムで言語機能とコミュニケーション能力の発達を促した。

発声発語障がいや構音障がいを認める利用者様に対しては、発声発語器官を中心としたリラクゼーションや運動、口を動かすトレーニングとして、発声訓練や音読、構音訓練、カラオケを行った。

摂食嚥下機能障がいを認める利用者様に対しては、食事評価、棒付きキャンディーやスルメやかっぱえびせんなどを用いた直接訓練、間接訓練、咀嚼訓練などを行い、その結果 QOL を高めることにつながった。また、特に食事介助に注意を要す利用者様をピックアップし、食事介助法の検討を行い、病棟内で安全な介助法の講義を行った。

今年度は前年度に引き続き、訓練の実施場所として本館 PT 室を使用することとなった。しかし、RS ウイルスや新型コロナウイルス感染症による病棟閉鎖措置が断続的かつ長期に及んだことで、居室内での訓練に留まった。それにより、訓練内容や使用教材は限られたものになった。

行事の中止や居室対応など、学園生活におけるコミュニケーション機会が減少する中、訓練の一環としての自由会話は、コミュニケーション機会の担保とコミュニケーション意欲の維持という点においても重要な役割を果たした。

### 【おひさま寮】

対象 43 名に対して言語聴覚士 3 名（専任 2 名・兼任 1 名）で週 2～3 回個別に実施した。年間訓練実施単位数は 5,891 単位であった。

対象児(者)の疾患は、脳性麻痺、精神(発達)遅滞などを中心とした身体障がいと知的障がいを併せ持つ重度の重複障がいである。

訓練内容は、口腔機能訓練、摂食嚥下訓練、発声発語器官に対して筋刺激訓練やマッサージ、ストレッチ、リラクゼーション、構音訓練、言語発達を促す訓練、コミュニケーション訓練、音声や音楽を用いた聴覚的な刺激による訓練などを行った。

摂食嚥下分野に関して、広く摂食嚥下に関係する器官に対しての感覚訓練、筋刺激訓練、マッサージ、ストレッチ、脱感作や非経口摂取の利用者様に対する味覚刺激入力、唾液嚥下訓練などを行い、誤嚥性肺炎の予防、口腔内感覚の改善を行った。また、食事および口腔ケア介助法の提案、食形態および食具の調整、摂取時の姿勢の調整、研修会などによる他職種への情報の伝達なども行った。喉頭気管分離術がなされている利用者様に対しては、楽しみとしての経口摂取を目標として、ゼリーなどを用いた経口摂取訓練を行った。その結果、摂取時の口腔器官の運動能力向上を認めた利用者様に関しては、日常生活への般化に向け、多職種協同でプランを検討した。

学童の利用者様については、令和 6 年 3 月より、学校での給食摂取および学校で一日の全過程を過ごすことができるようになり、その後も順調に学校生活を送ることができていたため、多職種協同で、修学旅行（令和 6 年 9 月）の参加に向けての取り組みを行った。具体的には、個別的な旅行プランの検討と提案、旅行中に想定されるシチュエーションを設定した乗車訓練や商業施設への外出訓練、不慣れな場所での食事摂取訓練などである。

言語療法課は全般に関わったが、特に食事摂取に関して、給食部と連携した持参食品の検討や摂取場面の評価などに取り組んだ。その結果、当初の予定通り修学旅行に参加することができ、利用者様のQOL向上に大きく寄与した。

最重度の心身障がい児（者）に対しては、リラックスした楽しい関わりの中で、心地のよいスキンシップなどの接触刺激、読み聞かせや音楽遊びなどの聴覚的刺激、絵本などの視覚的刺激や手遊びなど身体的感覚を充足させるアプローチを行い、感覚・認知・理解面の成長と心身のリラックス、安定を促した。iPad やパソコンなどの機器を用いて、重度心身障がい児（者）が楽しめる機能を使って発達を促し、生活の充実を図った。

呼吸器系障がいに対しては、口腔内清掃や刺激入力、マッサージなどによる口腔器官の活性化などを行い、口腔器官についてできる限り現在の機能を維持および向上できるよう支援を行った。

### 【ともだち寮】

対象 46 名に対し、言語聴覚士 2 名にて週 1～2 回程の頻度で個別訓練を実施した。年間訓練実施単位数は 2,916 単位であった。

対象者の疾患は、脳性麻痺、急性脳症後遺症、脊髄損傷、筋ジストロフィー、など多様であり、また疾患の重症度や、知的面でも一人ひとり大きな違いがあり、各利用者様に対する個別のアプローチプランを立案する必要があった。

音声言語を用いたコミュニケーションを行われる利用者様も多いが、高齢化や、昨年度と比べ減ってはきたものの、病棟閉鎖などによるコミュニケーション場面の制限などもあつてか、発話明瞭度の低下による意思疎通が難しい場面も増えてきている。言いたいことが上手く伝わらなければ発話意欲は低下していき、また発話場面が減ることにより、より発話明瞭度が低下していくという流れに陥りやすい。そのため、口の体操や呼称課題といった発声発語器官の機能維持訓練や、コミュニケーションボードやスイッチといった代償手段の検討、操作練習などを実施するとともに、利用者様と沢山お話しすることで、発話意欲の維持・向上にも努めた。

摂食・嚥下機能に関しては、経口摂取から胃ろうに移行された利用者様も多く、食事を摂らないことによる摂食・嚥下機能の低下や、それに伴う唾液誤嚥のリスク向上などが懸念された。

そのため、胃ろうをされている利用者様に対しても、安全面を十分に考慮した上で、トロミ付きのお茶やゼリーなどを用いた直接訓練や、口腔マッサージといった間接訓練を積極的に実施した。

## 『コアラ園および外来』

### ● 理学療法

対象 70 名（契約利用者 3 名、外来利用者 67 名）に対し、外来担当理学療法士 2 名を中心に実施し、利用者 1 名当たりの訓練回数は週 1～2 回、年間訓練実施単位数は 3,668 単位であった。

対象児（者）は、早産・低出生体重児、脳性麻痺による重症心身障がいや肢体不自由児、精神運動発達遅滞、ダウン症候群など多岐にわたり、年齢も 0 歳の幼児から成人までと幅広い。

今年度は乳幼児、医療的ケア児の利用者様の増加に伴い、保護者や保育園からの相談も多く、綿密にコミュニケーションをとることで幅広い支援を行った。

以下年代別に取り組みを報告する。

### ○乳幼児期から学童期

運動発達促進や基本動作能力獲得を目的とし実施した。対象児の興味・関心を引くような遊びを提供する中で定額の促し、寝返り・座位・立ち上がり・歩行などの基本動作の向上や家庭・学校・施設など各環境における ADL 向上・応用動作へのアプローチおよびアドバイスに努めた。各児の発達に合わせた自助具や福祉機器（車椅子・ウォーカー・装具）の提案を行い、必要に応じて家庭や学校・施設で使用できる姿勢ケア実施のためクッションを作製し、使用方法を指導したのちに提供し、身体機能面の向上だけではなく、発達が促しやすい環境づくりや QOL の向上に努めた。

### ○青年期から成人期

運動能力の維持向上・変形拘縮などの二次障がいの予防、介助者の介助量軽減など個々のニーズに合わせた目標に応じ実施した。より複雑化してくる運動の質の向上に対し継続的な運動指導を図りつつ、能力だけでなく各学校・施設・サービスなどの環境調整・対応にも重きを置き、対象児（者）や保護者、関係者（学校教員、施設職員など）への情報提供を行なった。また、生活上必要不可欠である車椅子に対しても細かな調整や修理・新規作製の促しなど、より充実した生活を送っていただけるように努めた。

### ○耳納学園の利用者様

運動機能の維持のため、定期的なりハビリテーションを実施した。高齢化の影響か機能低下が著明となった利用者様もおり、ADL 動作の回復および維持・疼痛の軽減に取り組み、マッサージ・ストレッチ・ROM 訓練・運動療法を行い、生活に必要な動作も取り入れた訓練を実施した。

## ● 作業療法

対象 238 名に対し、外来担当作業療法士 4 名を中心に実施し、利用者様 1 名当たりの訓練回数は月 1～5 回、年間訓練実施単位数は 7,109 単位であった。

対象児（者）は神経発達症（自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動症）、脳性麻痺、神経筋疾患、さらに精神運動（発達）遅滞など多岐にわたり、対象児（者）も年々増加傾向である。

訓練内容として、トランポリンやボールプール、スイングなどの感覚遊具遊び、縄跳びや鉄棒などの運動遊び、その他ルールのある遊びを行った。特に就学前の利用者様に対して、パズルや運筆などの巧緻動作、机上での活動時間の延長や文字への興味を促し就学に向けての準備を行った。個々の子どもに合わせた発達課題（運動面・日常生活技能・学習基礎能力）に取り組む中で作業遂行能力の向上や子ども自身の気付きの促し、成功体験を通して自己肯定感を育むように実施した。また、日常生活で配慮すべき点や介助方法などに加え、保護者とのコミュニケーションを密に行い、助言・アドバイスをを行った。その他、卒園を控える利用者様に対し、進路に関わる各関係機関に文書で情報提供を行い、小学校就学後には先生への支援についての提案や意見交換にも取り組んだ。

今年度は、外来の利用者様が作った作品を販売し、その収益を必要な材料費に当てた。また、自分が作った作品が売れたことで、自己肯定感や成功体験に繋げることができた。

## ● 言語聴覚療法

対象 265 名の外来利用者様に対し、言語聴覚士 4 名のスタッフを中心に訓練を実施した。訓練は 1 回 2 単位(40 分)で実施し、毎週、月 2 回、月 1 回、不定期の頻度で行った。年間訓練実施単位数は 8,510 単位であった。

対象児は、自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動性障がい、学習障がい、言語発達遅滞、精神運動遅滞、構音障がい、吃音、脳性麻痺、ダウン症などの症候群を呈した児童と多岐に渡る。また、年齢層も未満児から中学生までと幅広い。

利用者様は診断名、発達段階、生活環境など一人ひとり異なっており、画一的な対応が難しい場面が多くみられた。得意・不得意にも大きな差が見られ、そのため、定期的な評価・検査を行い、客観的な情報に基づく個々の訓練プログラムの立案を行った。

アプローチ内容としては、プリントや絵カードなどを用いる机上課題、遊び場面を設定したやり取りなど様々であった。市販の教材で補えない部分があれば、その利用者様に合わせた教材を個別に作成することもあった。

利用者様の発達には環境が大きな要因を占めているため、保護者から普段の様子を定期的に聞き、家庭との情報共有にも努めた。また、希望があった利用者様を対象に、学校との情報交換や助言・アドバイスも行った。

今年度は、新たな取り組みとして集団療育を行った。個別の訓練では難しい、集団でのコミュニケーションの学びを得ることを目的としている。夏休みなどの長期期間休みの外来利用者様を対象に、インターネットのアンケート機能を利用して参加希望者を募った。

内容は集団であることの利点を踏まえ、伝言ゲームなどのコミュニケーションを必要とする内容を中心として行った。

1 回の訓練は 3～7 名の人数で行い、利用者様一人につきスタッフ 1 名が担当する形で 4 単位（80 分）実施した。結果的に、夏休み期間に 2 回、冬休み期間に 2 回、春休みの期間に 1 回開催することができた。

## ● 心理療法課

### 【病棟支援】

#### 《治療対象児・者》

下記の人数に対し、各寮に担当者（なかよし寮 1 名、おひさま寮 1 名、ともだち寮 2 名）が配置され、各担当者で利用者様の日常生活の観察や触れ合いを目的に定期的に寮へ行く日を決め、心理支援を予定していたが、スタッフの休みや病棟閉鎖などから実施できない時も多く、不定期的な支援となった。また、心理的対応の特殊性から、臨時・緊急の場合も多く、他職種や地域の関係者との連携をもとに対応を行った。

	なかよし	おひさま	ともだち	合 計
治療対象児・者※	45	43	48	136

※短期利用者を含む

単位：名

#### 《各寮での心理検査》

知能検査と発達検査において、医師や他課、多職種などの要請を受け、必要に応じて行った。実施数は下記の通りである。

	なかよし	おひさま	ともだち
発達検査	1	0	1
知能検査	1	0	0

単位：名

※コロナウイルス感染症などの影響で閉鎖になるなどで検査実施が困難な状況もあった。

### 【外来及びコアラ園】

#### 《外来療育》

心理療法課における外来療育は、対象 25 名に対し、心理療法課の全スタッフで担当を決め、原則 2 名体制で実施した（1 名で対応できると判断した場合は、1 人で対応した）。対象児は、医師から神経発達症（自閉症スペクトラム障がい、注意欠如多動性障がい、学習障がいなど）と診断されたり、その疑いがあると判断された 2 歳から高校生である。

また、診察待ち期間の療育・相談、コアラ園の前段階としての外来での個別療育のケースなどを含めた多様な外来療育のニーズに対応するように努めた。支援内容として、感覚統合法を基盤として、遊戯療法的介入といった心理的視点も含みながら療育を実施した。

#### 《外来での心理検査》

知能検査と発達検査において、医師や他課、多職種などの要請を受け、必要に応じて実施した。特別児童扶養手当・障害者福祉手当の申請に伴う検査や、保護者からの検査依頼が多く見られた。実施数は下記の通りである。

	外 来	地 域
発達検査	1	0
知能検査	32	0

単位：名

#### 《児童発達支援センター コアラ園》

コアラ園のスタッフと連携し、地域支援を行った。

#### 《耳納学園》

利用者様1名に対し、ご本人の要望により、月に2回から1回の頻度でカウンセリングを実施した。また、文書にて耳納学園にカウンセリング記録を保管し、医師がいつでも見ることができるようにした。

#### 【地域支援】

地域における相談活動においては、二人一組で親子の相談に対応することを基本として、限られた時間の中で行動・状況の背景理解を図り、悩み・心配・不安に寄り添い、より具体的対応や共感的援助をしていけるかを目標に、心理判定並びに相談を行った。市町村の母子保健活動と連携して展開してきたが、保育所等とも情報交換・共通理解に努め、相互の子ども支援に有効に機能した。

※災害や、新型コロナウイルスの影響で、実施中止となった日程がある。

朝倉市	1歳6ヵ月児健診		計12回 対象者 244名	うち相談者 25名	別件 20名
	3歳児健診		計12回 対象者 290名	うち相談者 44名	別件 12名
	朝倉・杷木健診		計5回 対象者 40名	うち相談者 6名	別件 5名
	にこにここども相談		計8回 相談者 24名		
うきは市	1歳6ヵ月児健診		計6回 対象者 177名	うち相談者 7名	別件 5名
	3歳児健診		計5回 対象者 187名	うち相談者 10名	別件 8名
	すくすく発達相談		計12回 相談者 31名		
	保育所等巡回相談		計40回 (うち電話対応1回)		
久留米市	田主丸町	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者 40名	うち相談者 10名	
		3歳児健診	計3回 対象者 46名	うち相談者 12名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者 6名		
	北野町	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者 32名	うち相談者 5名	
		3歳児健診	計4回 対象者 76名	うち相談者 20名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者 5名		
	三瀨町	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者 51名	うち相談者 10名	
		3歳児健診	計4回 対象者 76名	うち相談者 13名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者 6名		
	城島町	1歳6ヵ月児健診	計3回 対象者 27名	うち相談者 5名	
		3歳児健診	計3回 対象者 48名	うち相談者 8名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者 6名		
	南部	1歳6ヵ月児健診	計6回 対象者 129名	うち相談者 18名	
		3歳児健診	計6回 対象者 174名	うち相談者 34名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者 3名		
	市役所	1歳6ヵ月児健診	計1回 対象者 25名	うち相談者 3名	
		3歳児健診	計1回 対象者 32名	うち相談者 5名	
	北筑後保健福祉環境事務所		乳幼児発達診査事業	計2回 相談者 4名	
その他の相談対応		電話	6件		
		メール	0件		
		来所	2件		
		訪問	0件		
診察案内※1		84名 (再診含む)			
のびのび相談会		3回			
外来利用児総数		25名	外来心理療育回数	708回	
情報提供書作成数※2			120件		

※1：年度内に診察に至った方のみ（年度内に診察の予約をした方は省く）を計上。

- ※2：①診察に案内した対象児の発達状況や経過を記入した医師への情報提供書。  
 ②保護者への心理判定報告書。  
 ③就学に向けて、就学委員会への（保護者を通して）情報提供書。  
 ④それぞれの寮への心理判定報告書。  
 ⑤転勤等の異動による、他の専門機関への情報提供書（保護者渡し）。

**【参加出張】**

- ・令和6年度 久留米市あり方検討会（8月21日）
- ・令和6年度 うきは市乳幼児健診実務者会議（11月28日）

<地域支援事業等>

1. 肢体不自由児早期訓練事業（県肢体不自由児協会委託、飯塚市）  
 PT 1名・・・21/22回 OT 1名・・・10/22回 ST 1名・・・5/6回  
 ※PT・OT 悪天候（雪）のため事業中止 1回  
 OT利用者様欠席(当日含む)の為中止 11回  
 ST利用者様欠席(当日含む)の為中止 1回
2. 乳幼児発達診査（県環境福祉事務所委託、朝倉市）  
 ST 1名・・・2回
3. 発達相談（朝倉市）  
 ST 1名・・・6回
4. 特別支援学校専門スタッフ強化事業（田主丸特別支援学校）  
 ST 1名・・・1回

<実習生の受入状況>

**【PT】**

令和6年4月8日	～	5月25日	西九州大学	1名
4月15日	～	6月15日	麻生リハビリテーション大学校	1名
5月7日	～	6月29日	柳川リハビリテーション学院	1名
5月13日	～	7月6日	熊本総合医療リハビリテーション学院	1名
7月29日	～	9月21日	医療福祉専門学校 緑生館	1名

**【OT】**

令和6年7月7日	～	9月6日	麻生リハビリテーション大学校	1名
----------	---	------	----------------	----

**【ST】**

令和6年 7月 1日 ~ 7月 24日	麻生リハビリテーション大学校	1名
8月 19日 ~ 9月 7日	麻生リハビリテーション大学校	1名
5月 13日 ~ 6月 22日	熊本駅前看護リハビリテーション学院	1名
6月 17日 ~ 7月 27日	柳川リハビリテーション学院	1名

**【心理】**

令和6年 8月 5日 ~ 8月 9日	久留米大学大学院心理学研究科	3名
--------------------	----------------	----

《概況》

令和 6 年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策に徹した。短期入所の利用者様については、通常の受け入れを実施するものの、感染症により寮閉鎖時は利用を中止することもあった。施設見学においては、継続して中止した。

新型コロナウイルス感染症は、法人内の施設や事業所においてクラスターが発生した事もあり、法人としては継続して感染予防対策基本指針に沿った対応を行った。外来新患診察は、長く待たせている利用者様を考慮し、感染防止対策を徹底したうえで診察を行った。相談業務においては在宅や事業所、行政への訪問時は、感染防止対策を施して実施した。

地域事業部は、障害者福祉や療育活動など何らかの支援を希望される地域の方々と、法人内施設をつなぐ支援者として機能した。地域の方々の多様な問い合わせや要望に対し、施設機能の紹介や利用手続きの説明、スムーズな利用に繋がるために相談者と事業所間の連携・調整を図った。

対象地域は主に久留米市、うきは市、朝倉市及びその近隣地域としているが、対象地域以外からの問い合わせもある。

《相談対応業務》

地域事業部が受け付けた相談は、大多数が各機関から紹介されたご本人様及びご家族様からであり、その他、相談支援事業所や行政関係者、医療機関 SW からの問い合わせもある。また、相談受付からゆかり学園事業所のサービスにつながる場合、受診予約や受診時の立会い、関係部署との連絡調整等も担い、利用者様と事業者双方にとって出来るだけ安心してスムーズな利用開始につなげるよう努めた。

次表で、問い合わせの内容と実際に施設利用につながった件数を示す。

問い合わせ・相談の内容	件数	施設利用に繋がった件数
① 施設入所支援について	16 件	1 件
② 短期入所等について	9 件	2 件
③ 児童発達支援について	5 件	3 件
④ 外来療育・リハの利用について	46 件	11 件
⑤ 見学依頼など	3 件	0 件
⑥ その他の相談	18 件	0 件

- ① 施設入所については、16 件の問い合わせに対してゆうかり医療療育センターで1名の入所支援につながっている。入所の問い合わせは、人工呼吸器使用の重症の方や介護保険が適応されるような高齢の方、知的障害がメインで療養介護が該当しない方、0歳児、多動で重心の方の場合においては、結果お断りすることが多かった。療養介護に該当しない方は、当法人内の生活介護事業所へ繋いだり、他の法人を紹介した。
- ② 短期入所や日中一時支援についての問い合わせも、多動で重心の方、衝動性のある方が多く、在宅での支援の難しい現実が感じとれる。2名の契約につながっているが、呼吸管理が必要な方など重症児（者）の方の利用はお断りしており、地域の療養介護事業所としては今後の課題といえる。
- ③ 児童発達支援については、利用を希望され契約まで至ったケースは3例である。利用希望の申し出から契約まで時間を要しており、昨年度以前に申し込まれ利用開始に至った方はカウントしていないため少ない数字だが、療育現場ではお試し利用やつなぎ療育などで少しでも早く療育につなげるよう工夫している。
- ④ 外来療育・リハについては、相談46件中11件が診察を経て訓練部や心理療育部の療育・リハにつなげているが、児童発達支援と同じで相談受付から診察までかなり時間を要しているためこのような数字になっている。相談受付後連絡ない方やキャンセルされた方も多くおられ、この点も予約受付から受診まで時間がかかりすぎるのが原因の一つと考えられる。
- ⑤ 見学依頼については、新型コロナウイルス感染対策で見学を制限したため、受付自体3件と少なく見学実施行わず、受付の時点でお断りする。
- ⑥ その他の相談は、法人内事業所の受け入れ状況や利用手続き等の確認、新型コロナウイルス感染対策に対する施設の取り組み方について、計画相談介入の依頼、診断確定目的の診察依頼、宿泊体験の依頼、医師意見書等作成の依頼、新規事業所立ち上げに際し協力機関として名義貸し出しの依頼、過去の自己カルテ照会依頼の相談など、多岐にわたった。

#### 《短期入所予約調整業務》

ゆうかり医療療育センターにおける短期入所及び日中一時預かりの予約受付と調整業務を地域事業部で行った。

年間の利用者延べ人数は、次表の通りである。

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
なかよし寮	宿泊	11	8	24	7	7	17	16	17	21	2	18	10
	日中	2	4	1	2	6	2	1	2	0	0	2	1
おひさま寮	宿泊	2	0	2	2	12	2	0	0	0	0	0	0
	日中	0	2	1	0	0	0	1	2	2	2	2	0
ともだち寮	宿泊	2	3	0	0	0	0	0	3	6	10	5	14
	日中	1	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2

## 《施設見学案内》

令和6年度の外部組織・団体から依頼される施設見学は、新型コロナウイルス感染予防対策のため原則すべて中止すると所長会議で決定、受付の段階からお断りした。

5月 小郡特別支援学校 職員の見学

6月 善道寺町民生委員協議会

11月 日田市田島町自治会

## 《出張》

### ・8月5日

県医療ケア児等コーディネーター連絡会 1名

県医療ケア児等コーディネータースキルアップ研修 2名

吉塚合同庁舎（福岡市）

### ・9月24・25・26・27日

第21回福祉相談関係職員講習会

心身総合医療療育センター（東京） 1名

### ・12月5・6日

九州地区障がい者相談支援事業合同研修：大分大会 1名

### ・12月19日

相談支援従事者現任研修（福岡市） 1名

### ・1月22日

相談支援従事者現任研修（福岡市） 1名

### ・1月30日

県医療ケア児等コーディネーター連絡会 1名

県医療ケア児等コーディネータースキルアップ研修 2名

吉塚合同庁舎（福岡市）

### ・2月21日

相談支援従事者現任研修（福岡市） 1名

(その他の会合出席等)

○ 久留米市ライフレスキュー事業連絡会	5回
○ うきは市地域障害者支援協議会	2回
○ うきは市地域障害者支援協議会 相談部会	6回
○ 久留米市地域生活支援協議会 重心部会	8回
○ 久留米市地域生活支援協議会 子ども部会	1回
○ 久留米市介護サービス事業者協議会 重心連携会議	6回
○ 久留米医療ケア児コーディネーター	3回
○ 南部医療ケア児コーディネーター	4回
○ くるめ相談ネット	6回
○ くるめ相談ネット事務局会	6回
○ 難病相談従事者研修会	1回
○ 久留米地区企業内同和研修推進委員会	1回
○ 八女筑後圏域研修会	1回
○ 要配慮者避難災害対策	4回
○ 精神保健福祉関係機関連絡会議	1回

給食部理念：栄養管理・健康管理に努め、真心のこもった調理で食の喜び大切さを伝える。

## (1) 区分別熱量

ゆうかり医療療育センター、耳納学園、千歳療護園の区分別熱量に差があるので副食の量をそろえ、主食の量で調整している。

	ゆうかり	千歳・第二千歳	耳納
中		2,000	2,150
A	2,290	1,800	
B	2,050	1,500	1,700
C	1,500	1,250	1,350
D	1,250	1,070	
E	1,010	650	

(単位 Kcal)

## (2) 行事食

ゆうかり医療療育センター

2024年

5/15 弁当（運動会中止）

8/29 夏祭り（焼きそば、たこ焼き、焼き鳥、フライドポテト&オニオン）

9/28 ともだち寮 食事会（パンケーキアラモード）

12/11 クリスマス会（焼き肉、かにフライ、ポテト、Lチキン、ハンバーグ、モンブラン、ミートスパ、ケーキ、フルーツ、おにぎり）

2025年

1/1 おせち料理（昼）（がめ煮、干支かまぼこ、昆布巻、エビのつや煮  
牛肉の八幡巻き、伊達巻、紅白なます、肉団子、チキンナゲット、黒豆  
数の子、苺、干支まんじゅう）

耳納学園

2024年

4/19 開園記念行事（外注弁当、デザート）

6/14 夕食会（ざるうどん、ざるそば、いなり）

8/29 夏祭り（焼きそば、たこ焼き、焼き鳥、フライドポテト&オニオン）

9/20 食事会（カレーライス、ポテトサラダ）

11/22 夕食会（鍋料理・・・もつ鍋、すき焼き、ちゃんこ、キムチ）

12/11 もちつき（大根おろし・きな粉・砂糖醤油）  
忘年会（ローストビーフ、かにフライ、ポテト、Lチキン、かに爪  
ハンバーグ、ポテトサラダ、サラダ巻き、いなり寿司、ケーキ）

2025年

1/ 1 おせち お弁当（ゆうかりと同じ）  
2/ 3 節分（巻き寿司、サラダ巻き）  
2/14 一日レクレーション（ラーメン）  
3/21 夕食会（お好み焼き・焼きそば）

千歳療護園・第二千歳療護園

2024年

4/ 8 千歳療護園開園記念日（外注弁当、ケーキ）  
5/18 運動会（中止）（弁当）  
8/ 1 第二千歳療護園開園10周年記念（BBQ、ケーキ）  
8/29 盆踊り代替えレクレーション（屋台メニュー）  
（千歳療護園のみ綿菓子、パンケーキ、アイス）  
12/11 忘年会（ロブスター、かにフライ、ポテト、Lチキン、ハンバーグ  
ポテトサラダ、ケーキ、果物、巻きずし、サラダ巻き、いなり寿司）  
12/26 もちつき（ぜんざい）

2025年

1/ 1 おせち お弁当（ゆうかりと同じ）  
2/ 3 節分（巻き寿司）

### (3) 研修関係

2024/6/18

令和6年度第一回特定給食施設等研修会（久留米市）

2024/9/12～9/13

第69回西日本肢体不自由児施設運営研究会（米子市）

2024/10/17～10/18

令和6年度全国重症心身障害児者施設職員研修会  
（栄養士・調理師コース）（大阪市）

2025/2/21

令和6年度第二回給食関係者等研修会（久留米市）

2025/3/7

第11回重症児・者 食栄養研究会（田川郡福智町）

#### (4) 衛生管理

- ① 食品の納品時、品質のチェックと納品時間記入（冷蔵品は表面温度記入、冷凍・冷蔵品は収納庫の温度記入）
- ② 手洗い液による手洗いとウェルパスによる消毒の励行
- ③ 調理時、中心温度計にて中心温度測定、記入
- ④ 調理の出来上がり時間記入
- ⑤ 調理後、冷蔵庫に入れるものは入れた時間・温度記入
- ⑥ 調理器具やシンクの除菌にアルペット E（食品添加物除菌剤）使用
- ⑦ 冷蔵庫の清掃、温度記入
- ⑧ 調理室の温度・湿度記入
- ⑨ 検収室の温度記入
- ⑩ 盛りつけ時、使い捨て手袋、使い捨てマスク使用
- ⑪ 洗浄室、下処理室にて専用のエプロン、スリッパ使用
- ⑫ 水質検査 始業前、終業後に残留塩素測定（毎日）  
業者による管理（毎月）
- ⑬ 細菌検査（検便）  
腸管出血性大腸菌（O-157 他）を含む病原腸内細菌検査（毎月）  
ノロウイルス抗原検査（10月～3月）
- ⑭ 業者（トキワビル）によるネズミ・ゴキブリ駆除（毎月）

#### (5) 給食委員会

ゆうかり医療療育センター

構成メンバー 所長、看護部長、薬剤師、看護課、育成課  
訓練部、給食部より代表者

開催回数 月 1 回

耳納学園

構成メンバー 利用者様 28 名、生活課 2 名、栄養士、看護課

開催回数 月 1 回

千歳療護園

構成メンバー 利用者様 4 名、総務課、生活支援課、  
訓練支援課、栄養士

開催回数 2 ヶ月に 1 回

内容

各施設で構成メンバーは異なる。毎月の誕生会の希望メニューや、行事食の希望、給食についての感想や反省点などを話し合っている。

また、行事食は、終了後に感想や反省をあげ、次回の参考になっている。

嗜好面や食事形態についても、様々な部署の方を交えて検討ができる良い機会なので、今後もいろいろな方面からの意見を参考に、より良い食事提供をしていきたい。

(6) まとめ

今年度も感染症対策に迫られた。また、物価の高騰や一部食品の品不足があり、メニューを工夫し、給食への影響を少なくできるよう取り組んだ。

また、昨年3月から厨房内での転倒事故が4件続き、安全に作業できる環境づくりを全職員で意見を出し、今後の業務改善につなげていきたいと思う。

今後も、毎日、安心、安全な給食をおいしく食べていただけるよう、日々、研鑽に努めたい。

誕生会のメニュー 2024年度

	主メニュー	一品メニュー		
		おひさま寮	ともだち寮	なかよし寮
4月	海鮮ちらし	チョコパフェ	みかんゼリー&フルーツ盛り	パフェ
5月	ステーキ		チョコパフェ	パンケーキ
6月	キムチ鍋	ぜんざい(温)	プリンアラモード	チョコパフェ
7月	イカリングカレー		プリンアラモード	フルーツパフェ
8月	カツカレー		アイスクリーム	パフェ
9月	トルコライス	チョコパフェ	チョコケーキ	パンケーキ
10月	キーマカレー	プリンアラモード	チョコパフェ	フルーツパフェ
11月	オムライス		プリンアラモード	ホットケーキ
12月	トンカツ	チョコパフェ	みかんのデザート	チョコパフェ
1月	ハンバーグ	プリンアラモード	チョコパフェ	プリンアラモード
2月	親子丼	プリンアラモード	チョコパフェ	チョコパフェ
3月	チーズインハンバーグ	ヨーグルトパフェ		チョコパフェ

千歳療護園、第二千歳療護園は誕生会にデザートと飲み物を提供。また、利用者様の誕生日に希望メニューを1品つけている。

本園では、家庭に代わり子供達を預かり家庭内の温かさにより近づけるよう、愛情溢れたスキンシップの保育を目指してきた。健康で意欲的、創造的な心と身体を育成する目的で、戸外活動も取り入れており、自然に恵まれた環境の中、四季折々の果物・花・虫などと触れ合っている。

その他、個人の能力、年齢に合わせた生活習慣の習得を子供の発達状態をよく見極めて、無理なく個別指導をしている。そして、集団の中における協調性を遊びの中で養ってきた。

本園がまず何よりも、大切にしているのは家庭的雰囲気の中での保育である。そのためにも健康状態など、家庭との連絡を密に心掛けている。

【 令和6年度 利用児 3名 】  
延べ 525 人 開所日数 233 日 1日平均 2.3 名

【 園外活動 】

2024. 10. 30 (水) ドライブ外出 JR久留米駅 (新幹線見学)

## 児童発達支援センター コアラ園

福祉型児童発達支援センターとして、3事業（①児童発達支援 ②放課後等デイサービス ③保育所等訪問支援）に取り組む。

### ① 児童発達支援

日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等の便宜を付与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日に、「あそび教室」というかたちで、小グループ療育活動を実施した。

内容として、日常生活動作（食事・排泄・衣類着脱等）の獲得及び、小集団での行動獲得を基本療育とし、感覚あそび、知育あそび、歌あそび、製作、母子あそび、運動あそび、戸外あそびなどのカリキュラムを、個々の成長段階に合わせて提供した。夏季期間に実施予定のプール遊びは、感染症等の防止対策の為、昨年に続き中止する。

遊びを通しての楽しさ、自己表現、作品完成への自信や達成感を味わうことを大切にし、不快ではなく、快な状態を出来るだけ多く提供する事を心掛けながら進めていった。

また、母子関係の安定と充実に努め、そこから対人関係づくりへと発展出来るように配慮し、集団における社会性や協調性を伸ばすことも目的とした。

年間行事：① 季節の行事（初詣・節分・ひな祭り・七夕・クリスマス会・卒園を祝う会など）を通常療育のカリキュラムに取り入れて実施した。

② 文化庁の伝統文化親子教室事業への参加として、いけばな教室を専門の先生（片岡清美氏）にお願いし、月1回（6月～1月）の教室と、年1回の作品発表会を実施する。（11月6日～13日 地域支援棟ふれあいホール前廊下にて）

耳納学園陶芸教材による陶芸教室を実施する。

年長児に対する、就学に向けての机上での活動と、集中力の持続を自発的に促す取り組みとして効果を感じることが出来た。卒園記念品のマグカップ等を作成し保護者の方からも喜ばれた。

③ ゆうかり学園運動会（5/18）、法人全体夏まつり行事（8/20）は、感染症対策の為、中止となる。

④ 子育て講座（講師：小児神経科 Dr 大滝悦生 ゆうかり医療療育センター 所長）を参加人数調整の為、3グループに分けて実施する。  
（9/30(月) 15名参加、10/23(水) 14名参加、11/28(木) 17名参加  
研修室にて）

- ⑤ 月 1 回の避難訓練を毎月の曜日を変えて実施する。消防署員立合いの避難訓練（11/20 水）、地震時の避難訓練（10/22 火）、水害時の避難訓練（5/21 火）を各年 1 回実施し、避難誘導等の流れを園児、保護者と共に体験した。

学校見学案内：就学を迎える園児の保護者に対し、特別支援学校（2 校）、地域小学校（特別支援学級）20 校への見学案内を行った。また、並行通園をしている保育園、幼稚園への情報提供書作成や園内見学等の受け入れも行った。

健康診断：BD 健診（誕生日月）、すくすく健診（6 ヶ月後）として年 2 回の健康診断を、ゆうかり医療療育センターにて診察を受けてもらう。

支援計画書の作成：利用契約後、保護者よりの要望や現状把握等に基づき、児童発達支援計画書を作成する。（AI 文書作成ソフト C0-mii 使用）6 ヶ月後にモニタリングを実施し、スタッフ会議にて中間評価と修正を行う。

つなぎ療育の実施：新患診察日までに療育を受けられない待機児に対して、月に 2 回のペースで、つなぎ療育を実施する。年間 1 名の利用あり。

自己評価調査の実施：利用者及び現場職員へのアンケート調査を実施し、年に 1 回ホームページにて結果、改善点等を公表する。

各加算請求：欠席時加算、家族支援加算、関係機関連携加算Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、子育てサポート加算、専門的支援実施加算の請求を行う。

◎ 1 日 15 名利用を目標に、年長児が卒園した年度始めには、週 2 回登園が可能な方への登園案内を行い、利用状況を見て週 1 回へ調整していく受け入れを行う。

◎ 給食については、希望される方に対して個別で注文を受けて提供のご案内を行ったが、年度内の利用は無かった。

## ② 放課後等デイサービス

生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与することを目的とし、月曜日～金曜日の週 5 日、15 時～18 時の時間帯で就学児を受け入れる。

- ・久留米特別支援学校生徒 2 名（小学 3 年生）
- ・久留米市田主丸小学校生徒 2 名（小学 1・3 年生）
- ・久留米市水分小学校生徒 1 名（小学 2 年生）
- ・久留米市船越小学校生徒 1 名（小学 1 年生）
- ・久留米市高良内小学校生徒 1 名（小学 4 年生）
- ・久留米市川会小学校生徒 1 名（小学 1 年生）

計 8 名が年間で定期利用する。

③ 保育所等訪問支援

当該施設を訪問し、当該施設における障害児以外の児童との集団生活への適応のため専門的な支援その他の便宜を供与することを目的とし、年間で8名の利用あり。

・久留米市	日善幼稚園	1名	6回訪問
・久留米市	正進幼稚園	1名	1回訪問
・久留米市	高良内小学校	1名	1回訪問
・久留米市	久留米特別支援学校	1名	2回訪問
・朝倉市	立石保育園	1名	4回訪問
・朝倉市	蜷城保育所	2名	6回訪問
・朝倉市	生い立つ保育園	1名	6回訪問

④ その他業務

地域の依頼により、久留米市、うきは市、朝倉市へスタッフ2名を派遣し、保育療育支援及び、相談支援業務を行った。(年間合計69回の支援)

■ 知能検査

就学を迎える年長児に対して知能検査を実施し、就学先への情報提供として作成すると共に、対象児の課題等を見つけ出し、今後の療育方針を決定する上での参考資料としていった。(コアラ園契約児16名実施)

■ 学校見学案内 20校(特別支援学校2校・地域小学校18校)

	学校名	参加園児		学校名	参加園児
1	久留米特別支援学校	1名	11	朝倉市 甘木小学校	4名
2	小郡特別支援学校	3名	12	〃 立石小学校	3名
3	久留米市 南小学校	2名	13	〃 福田小学校	1名
4	〃 南薫小学校	3名	14	〃 金川小学校	1名
5	〃 船越小学校	2名	15	〃 杷木小学校	1名
6	〃 東国分小学校	1名	16	〃 三奈木小学校	1名
7	〃 宮ノ陣小学校	1名	17	うきは市 御幸小学校	3名
8	〃 金丸小学校	1名	18	〃 福富小学校	2名
9	〃 水縄小学校	1名	19	〃 千年小学校	1名
10	〃 弓削小学校	1名	20	〃 大石小学校	1名

■ 通園児診断名 契約児 100 名（診断名複数該当あり）

診断名	該当児	診断名	該当児
構音障害	76	注意欠如多動症（ADHD）	5
言語発達遅滞	77	低出性体重児	3
発達性協調運動障害	46	未熟児網膜症	1
自閉症スペクトラム障害	53	ダウン症候群	1
知的障害	6	骨形成不全症	1
運動発達遅滞	9	症候性てんかん	1
精神運動発達遅滞	20	境界域知能	2
多動症	10	低酸素性脳症	1

■ 出張関係

出張名	出張者	期 日	会 場
福岡県サービス管理責任者 児童発達支援管理責任者 基礎研修（前期）	保育士 1名	R6. 5. 8 5. 9	オンライン研修
相談支援従事者初任者研修	保育士 1名	R6. 5. 13 5. 14	オンライン研修
サービス管理責任者・ 児童発達支援管理責任者 （基礎研修・演習）	保育士 1名	R6. 7. 12 7. 13	博多国際展示場 &カンファレンスセンター
第 3 回 児 童 発 達 支 援 （療育）講習会	保育士 1名	R7. 1. 20 ～1. 24	心身障害児総合医療療育センター 療育研修所（東京）

## 相談支援事業所 夢の紀

### 《概況》

夢の紀は、当法人内全施設のほぼ全員の入所者に対する計画相談を始め、久留米市、朝倉市、うきは市等、在住の障害児（者）の計画相談を行った。本年度の実績は下表の通りである。

### <計画相談契約件数>

	サービス等利用計画・障害児計画相談契約件数	441 件
内 訳	障害児計画相談	167 件
	サービス等利用計画（在宅）	59 件
	サービス等利用計画（当法人施設入所者）	215 件

昨年比：契約件数/15 件増

内訳：障害児計画相談/15 件増

サービス等利用計画（在宅）/3 件増

サービス等利用計画（入所）/3 件減

### <在宅契約件数/市町村別>

市町村	児童	者
久留米市	41 件	46 件
うきは市	54 件	7 件
朝倉市	67 件	2 件
その他市町村	5 件	4 件
合計	167 件	59 件

### <在宅利用者/障害種別>

身体	13 件（医ケア 1）
知的	23 件 （医ケア 1、強度行動 1）
精神	9 件
重心（医ケアなし）	8 件
重心・難病（医ケアあり）	6 件

### <在宅利用児/障害種別>

重心（医ケアなし）	5 件
重心（医ケアあり）	6 件
動く医ケア児	3 件
それ以外（知的、発達）	153 件

<計画相談作成件数>

新規相談	31件（児童23件 者8件）
障害児支援利用計画・サービス等利用計画 作成件数	328件（児童184件 者144件）
継続障害児支援利用援助・継続サービス利用支援 作成件数	524件（児童133件 者391件）
地域移行支援 地域定着支援	0件
サービス提供時モニタリング加算、退院加算、 サービス担当者会議加算等	17件

昨年比：新規相談 増減なし

障害児支援利用計画・サービス等利用計画作成件数/8件減

（児童1件減 者7件減）

継続障害児支援利用援助・継続サービス利用支援作成件数/144件増

（児童7件増 者137件増）

- ・ コロナ対応が緩和され、施設入所者の家族面談に同席できたことでモニタリングがスムーズにできるようになり件数を増やすことができた。
- ・ 令和6年度報酬改定により1件当たりの単価は増えており、収入も増加している。
- 本年度、ケースの抱える複雑な課題等により法人内外の関連事業所や医療機関、公的機関との連携・調整等に特に多くの時間を費やした特徴的な事例を以下に挙げる。
- ・ ゆうかり医療療育センターを退所され、グループホームへ移行した方の支援では主に精神面でのサポートを必要としており、本人や関係機関と密な連絡を取っている。
- ・ 家族以外と過ごした経験が少なく、精神面の過敏さやこだわりの強さから、他者の受け入れ、福祉サービスの利用がむずかしく、徐々に家族が疲弊していくなか、本人および家族へ継続的に支援。
- ・ 学校での過ごし方や放課後の居場所作りが難しく、学校、放課後等デイサービス、行政、医療機関と連携し支援。
- 重心. 医療的ケア児等支援～
- ・ 動く医ケア児のサービス利用や就学先に関する相談
- ・ 重心児の母（精神疾患あり）の入院に伴う医療型障害児施設への期限付き入所の調整、退所後の在宅サービスの調整
- ・ 事故により心肺機能が停止し、人工呼吸器管理となった児童が病院から在宅への退院にむけた支援
- 虐待対応～
- ・ 不適切と思われる家庭養育環境、保護者自身が持たれる課題、本人の支援方向性について、学校、デイサービス事業所、行政と連携し支援
- ・ サービス利用中に異性への不適切な行動が見られた利用者。家族、サービス事業所、医療機関と連携し継続的な支援

- ・ 家族の金銭的なトラブルに両親での対応が難しく、行政、支援学校、サービス事業所、他相談支援事業所と連携し支援。

●本年度の計画相談業務に関する考察を以下に挙げる。

- ・ 在宅、関係事業所への訪問時には、訪問地域の感染症の状況を確認し、訪問時には、マスクや手指スプレーでの消毒、検温等、感染症対策を遵守した対応を行った。
- ・ 感染症対策にて事業所の利用が急遽キャンセルとなった際、利用調整が必要な方へのサービス利用事業所との調整を行った。
- ・ 24 時間の相談対応体制を整え、夜間、休日に相談利用者、その家族、関係事業所からの連絡対応を行った。
- ・ 関係機関との連携において、感染症対策を十分に行い、事業所への訪問、会議開催を行った。顔の見える関係を作っていくことの大切さを改めて感じた。

《基幹相談支援センターとの連携》

東部基幹相談支援センターから依頼(5 件)を受け、福祉サービスの必要な対象者に、計画相談での対応を行った。また、すでに計画相談に入っている困難事例の計画相談において東部基幹相談支援センターと連携して支援を行った。

《相談業務における連携機関》

○公的機関

- ・ 児童相談所(久留米、大牟田、田川、福岡)
- ・ 福岡県医療的ケア児等支援センター
- ・ 障がい福祉課(久留米市、うきは市、朝倉市、小郡市、筑前町他、施設入所給付市町村)
- ・ 久留米市(こども子育てサポートセンター、学校教育課、生活支援課、地域福祉課、青少年育成課、介護保険課、自立支援センター、就業・生活支援センター)
- ・ 久留米市幼児教育研究所
- ・ 久留米市社会福祉協議会
- ・ 久留米市保健所
- ・ 久留米市障害者基幹相談支援センター(東部、南部、西部、北部)
- ・ うきは市子育て支援課
- ・ うきは市社会福祉協議会
- ・ 朝倉市(子ども未来課、教育委員会、自立支援センター)

○学校関係 18 校・特別支援学校 3 校、小学校 11 校、中学校 2 校、高等学校 2 校

○医療機関 13 医療機関

○児童発達支援 13 事業所

○放課後等デイサービス 39 事業所

○保育所等訪問支援 3 事業所

- 生活介護 20 事業所
- 就労移行支援 3 事業所
- 就労定着支援 1 事業所
- 就労継続支援 A 型 3 事業所 B 型 8 事業所
- 療養介護 1 事業所
- 居宅支援 15 事業所
- 重度訪問介護 2 事業所
- グループホーム 7 事業所
- 自立訓練 2 事業所
- 訪問入浴 2 事業所
- 福祉用具 4 事業所
- 短期入所・日中一時 3 事業所
- 訪問看護 20 事業所
- デイケア 1 事業所
- 地域活動支援センターⅢ型 2 事業所
- 介護支援専門員（久留米市 1 事業所）
- 行動援護（その他 1 事業所）

《自立支援協議会への参加》

- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会重心分科会に所属し、部会長としての責務を行った。
- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会全体会に、副会長として責務を行った。
- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会相談部会（相談ねっと）の事務局に、機能強化型の事業所として参加し、会議運営における責務を行った。
- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会相談部会委員（相談ねっと）に所属し、会合へ参加していく中で、情報交換、研修、地域課題への取り組みを市福祉課と連携して行った。
- ・うきは市地域障害者協議会計画相談部会に所属し、情報交換、研修、地域課題への取り組みを市福祉課、事務局と連携して行った。

《出張》

・8月5日

県医療ケア児等コーディネーター連絡会	1名
県医療ケア児等コーディネータースキルアップ研修 吉塚合同庁舎(福岡市)	2名

・9月24・25・26・27日

第21回福祉相談関係職員講習会 心身総合医療療育センター(東京)	1名
-------------------------------------	----

- ・12月5・6日
  - 九州地区障がい者相談支援事業合同研修:大分大会 1名
- ・12月19日
  - 相談支援従事者現任研修(福岡市) 1名
- ・1月22日
  - 相談支援従事者現任研修(福岡市) 1名
- ・1月30日
  - 県医療ケア児等コーディネーター連絡会 1名 古賀剛
  - 県医療ケア児等コーディネータースキルアップ研修 2名
  - 吉塚合同庁舎(福岡市)
- ・2月21日
  - 相談支援従事者現任研修(福岡市) 1名

(その他の会合出席等)

- 久留米市ライフレスキュー事業連絡会 5回
- うきは市地域障害者支援協議会 2回
- うきは市地域障害者支援協議会 相談部会 6回
- 久留米市地域生活支援協議会 重心部会 8回
- 久留米市地域生活支援協議会 子ども部会 1回
- 久留米市介護サービス事業者協議会 重心連携会議 6回
- 久留米医療ケア的ケア児支援コーディネーター研修会 3回
- 県南部地域 医療的ケア児支援コーディネーター連絡会 4回
- くるめ相談ネット 6回
- くるめ相談ネット事務局会 6回
- 難病相談従事者研修会 1回
- 久留米地区企業内同和研修推進委員会 1回
- 八女筑後圏域研修会 1回
- 要配慮者避難災害対策会議 4回
- 精神保健福祉関係機関連絡会議 1回

# 耳 納 学 園

## 《概況》

4月より、ゆうかり医療療育センター指導により、県内定点報告数が毎週金曜日に厚生労働省の感染症週報発表の数値を参照して、レベル5未満（平時）・レベル10未満（注意）・レベル10～20未満（軽度）・レベル20～30未満（中度）・レベル30以上、又は、入所者に陽性者が発生（高度）の5段階で、面会、外出（家族同伴外出）外泊の対応が決められており、それにそって、耳納学園も実施している。職員は常に、県内定点報告を把握し利用者様や保護者様へ対応できるように努めている。

感染症に関して5月に職員の家族がコロナ陽性で、3日間学園閉鎖となった。又、6月に利用者様が、家族と外出を行い、その後、コロナ陽性となり、学園を閉鎖し感染防止対策をおこなった。他の利用者様への感染は無く、9日間で通常の生活にもどることができた。

仕事面においては、6月道の駅うきは販売（うきは市）・7月ペイペイドーム販売（福岡市）・9月ゆめマートうきは販売（うきは市）・10月コスモスフェスティバル販売（久留米市）・11月北野よかつ祭販売（久留米市）・3月バサロ菜の花祭り販売（朝倉市）と、外部販売も昨年同様に実施する事ができた。

生活面においては、多くの利用者様から要望が出ていたボウリング大会を、9月から12月に福岡県の感染状況を見ながら、2～3名のグループ別に、久留米市内のボウリング場で実施する事ができた。久しぶりに外出をされる利用者様にとって、楽しい一日を過ごされておられた。

職員は、常に感染症対策を考えながら、利用者様への支援を実施している。次年度も、利用者様に快適な生活を過ごしていただけるように取り組んでいきたい。

1) 本年度の各事業別利用状況

《施設入所支援》定員 34 名

年間延べ利用者数 10,179 名、充足率 82%、1 日平均利用者数 27,9 名

《就労継続支援 B 型》定員 40 名（通所 6 名含む）

年間作業参加実績延べ利用者数 6,440 名、定員から見た充足率 68%、

1 日平均作業参加実績利用者数 27,3 名

2) 本年度の地域別入退園状況は、別表（1）の通りである。

別表（1） 本年度の地域別入退園状況

入園状況 地域別	前年度末		入 園		退 園		本年度末	
	男	女	男	女	男	女	男	女
福岡市		1						1
久留米市	5	3					5	3
柳川市		3						3
朝倉市	2	1					2	1
大川市		1						1
小郡市		1						1
うきは市	1	1					1	1
佐賀白石町		1						1
新宮町		1						1
八女市	1	1					1	1
みやま市		1						1
壱岐市	1						1	
東峰村	1				1			
唐津市	1						1	
武雄市	1						1	
計	13	15	0	0	1	0	12	15

## 【就労支援課】

陶芸部門では、在庫の少なくなったものを中心に、概ね予定に近い制作が出来た。本焼成関係は、ガス窯においては年度前半より生焼けや釉薬流れ、発色不良など不調に陥る。原因を判明するべく色々な調整を試していて、未だに解決していない上に焼成回数も大幅に減少した。それを補うべく電気窯を多用していたが、年度後半よりガス窯同様の現象が出てきた。こちらも焼成のパターンを変更したり、窯に入れる釉薬を限定するなどの調整を試していた。さらには3月の焼成時にヒーター線がショートしてしまう。原因はヒーター線に異物（鉄さびか釉薬）が付着したものである。この影響で大幅な生産量減少を生じさせてしまった。

工芸部門では、ふくろう製品と缶バッジのリニューアルを行った。ふくろう製品においては新フォルムの採用やバリエーションの工夫、缶バッジも、季節に合わせた製品を中心とし、いずれも商品力の向上となった。利用者様も制作再開に喜び意欲の向上に繋がった。

食品加工部門では、「焼肉のたれ」を生産販売した。今年度も、「焼肉のたれ」の委託販売先が新たに増え、生産の向上に繋がった。

陶芸教室は、久留米総合福祉会館から1件の問い合わせがあり、今後の活動の一環として検討しているとの事で、内容の紹介を行なった。

販売関連においては、「耳納の里」をはじめ、うきは市地域障がい者協議会内の就労部会など、10回出向販売を行うことが出来た。特に、ペイペイドームのイベント出店や委託販売先である「バサロ」からの案内など幅広く展開できた。またホームページでの販売案内も随時掲載した事も上記のような案内に繋がったと考えられる。さらに、「焼肉のたれ」の試食も再開し売り上げの向上に繋がった。

委託販売においては「焼肉のたれ」の販売を新たに設けると同時に、前述の通りイベント参加依頼に繋がるようになった。

これからは利用者様の生活面での支援も増加し、就労支援と上手く両立させていかなければならない。より効率よく作業を進めて、生産力を落とさないように職員のスキルアップを図っていかなければならない。

1) 本年度の売上及び工賃支給状況は、別表(2)の通りである。

月	売上金額	工賃支給額
4月	836,756	294,391
5月	862,703	280,014
6月	684,270	289,424
7月	439,428	289,827
8月	271,601	288,682
9月	442,868	280,132
10月	581,724	281,329
11月	454,320	279,720
12月	359,802	271,784
1月	320,430	266,348
2月	325,197	260,332
3月	472,613	256,826
計	6,051,712	3,338,809

※ 本年度の工賃支給率は、55.1%

#### 【生活支援課】

今年度は、ボウリング大会をしてほしいと、利用者様から要望が出ていた。希望者を募ったところ22名の参加があり、9月から12月に2名から3名のグループで行った。今回も、ボウルが溝に落ちないようにバンパーを設置してもらい、スロープを使って投球をされる利用者様、床に座り投球をされる利用者様、一人2ゲームで得点を競った。久しぶりのボウリングで、なかなかコツがつかめないようであったが、ストライクを目指して、ボウルを投げる位置などを考えながら、一球一球投球をされていた。

ゲーム終了後は、昼食を摂りショッピングやコーヒーショップでの楽しい会話をして楽しんでおられた。

生活面では、利用者様全体が若い頃とはちがい、日常生活の場面で時間がかかるようになってきている。その為、トイレや入浴を職員に依頼される利用者様、個人でオムツを購入し対応される利用者様が増えている。機能低下は避けて通れない年代になり、フラストレーションもたまって、他の利用者様や職員へ、自分のストレスを向ける利用者様もおられる。職員は、常に利用者様目線でコミュニケーションをとりながら、一つ一つ、問題解決をおこなっている。これからも安全で快適な生活の場を提供できるように取り組んでいきたい。

## 本年度入退所及び地域別状況

別表（3）入園期間別人員数及び平均入所期間

区分	1年未満	1-4	5-9	10-14	15-19	20年以上	計	平均
男		1	1	2		8	12	24年8ヶ月
女				2		13	15	33年8ヶ月
計		1	1	4		21	27	29年3ヶ月

別表（4）年齢区分別人員数及び平均年齢

区分	20歳未満	20-29	30-39	40-49	50歳以上	計	平均
男		1	1	2	8	12	53歳9ヶ月
女				1	14	15	62歳5ヶ月
計		1	1	3	22	27	58歳2ヶ月

別表（5）主な実施事項

月 日	行 事	月 日	行 事
4/19	開園記念行事	10/18	レクリエーション
5/28	体験外出	10/22	ボウリング大会
6/11	体験外出	10/29	ボウリング大会
6/14	夕食会	11/12	ボウリング大会
7/17	体験外出	11/19	ボウリング大会
7/19	喫茶店	11/22	夕食会
8/26	体験外出	12/3	ボウリング大会
8/29	耳納夏祭り	12/10	ボウリング大会
9/12	ボウリング大会	12/11	もちつき・忘年会
9/20	夕食会	1/24	ビデオ映写会
9/30	ボウリング大会	2/14	ラーメンを食べよう
10/8	ボウリング大会	3/21	夕食会
10/17	体験外出		

\*本年度実習生の受け入れ

介護等体験実習

介護等体験	(西南学院大学)	1名
介護等体験	(久留米工業大学)	3名
介護等体験	(久留米大学)	4名
介護等体験	(九州産業大学)	1名
介護等体験	(中村学園大学)	2名
介護等体験	( 一般 )	1名

〔看護課〕

今年度は新型コロナウイルス感染症に対し行動規制の緩和と感染予防の意識を更に向上した中、新型コロナウイルス感染症の罹患は、6月に利用者1名、1月に職員1名であったが、施設内での感染拡大を防げたのは利用者及び職員それぞれが感染予防の取り組みを意識し、感染状況を示す定点把握と対応策が充分できたからだと考える。尚、インフルエンザ感染はなかった。そんな中、転倒はあったものの骨折や入院された方はいなかった。身体機能低下で要介護状態で退園された者1名、無呼吸症候群でCPAP治療継続中1名、泌尿器科受診開始2名。年2回の健康診断は実施、年1回の口腔健診は随時実施中。加齢に伴う身体機能の低下で誤嚥や転倒事故が増加しており、生活環境の見直しと利用者様への注意喚起を行っている。加齢やストレスに伴う様々な身体症状で介助を必要とする場面が増えており、職員全体で情報を共有し常日頃から状態に応じた看護を提供し残存機能を考慮しながら、その人らしい生活ができるよう看護の提供に努めたい。

1) 月別受診人員数は別表の通りである。

2) 別表 (6) 月別受診人員数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定期薬	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
臨時薬	25	25	25	25	29	25	26	25	25	24	24	24	302
循環器科	0	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	14
内分泌科	3	0	1	2	1	1	3	0	1	2	1	0	15
脳神経科	2	1	2	1	2	2	2	1	2	1	3	1	20
消化器科	2	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	6
呼吸器科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
一般内科	3	5	7	10	5	3	2	5	4	2	2	8	56
整形・外科	0	1	1	1	2	1	4	2	2	4	6	4	28
歯科	10	3	2	15	7	7	14	14	10	12	6	8	108
皮膚科	6	4	4	7	2	2	7	4	5	4	1	1	47
眼科	1	2	0	0	6	0	2	1	4	0	3	3	22
婦人科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
耳鼻科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
精神科	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	15
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【2024 年度研修等出張記録】

期日（期間）	研 修 会 名 称	出張先	参加数
令和 6 年 4/25	久留米市障害者支援施設協議会 令和 6 年度制度改正・報酬改定等に関する説明会	久留米市	1
令和 6 年 5/22～23	福岡県社会福祉協議会 社会福祉施設役職員研修：中堅職員研修	WEB 研修	1
令和 5 年 6/13	福岡県身体障害者施設協議会 社会福祉法人経営者セミナー	福岡市	1
令和 6 年 6/25～7/12	令和 6 年度集団指導	WEB 研修	1
令和 6 年 9/11～12	九州身体障害児者施設研究大会（熊本大会）	熊本市	1
令和 6 年 10/31～11/8	応研「給与大臣」年末調整セミナー	WEB 研修	1
令和 7 年 2/3～2/16	令和 6 年度福祉サービス苦情解決従事者研修会	WEB 研修	1
令和 7 年 3/7	セルフセンター福岡 令和 6 年度第 2 回 総会	福岡市	1
令和 7 年 3/13	福岡県身体障害者施設協議会 施設長会 施設長・職員研修会	春日市	1

## 千歳療護園

### 《概況》

本年度は5月に利用者様が新型コロナウイルスに罹患され、感染力の強さから蔓延し5月10日から5月27日の18日間初のクラスターを経験した。

利用者19名、職員6名に罹患し利用者様は、訓練室にて療養専属の職員を配置し隔離療養を行う。また、訓練室以外での利用者様の対応が困難となった為、第二千歳療護園へ4名の職員派遣を依頼、感染拡大防止に努めながら対応を行い収束となった。

更に7月29日に利用者様への感染が確認され、8月10日まで13日間の2度目のクラスターとなった。利用者様5名職員5名が罹患し療養専属の職員を配置し訓練室にて隔離療養を行い収束となるも対応に追われた。

利用者様のご希望により買い物外出や個別支援によるドライブを行っていたが、新型コロナウイルス感染症の波は収まりつつも感染力は強く、突如として増加傾向となり面会や予定していた外出やイベントに多大なる影響が出た。そのような中でもコンサートやナイター観戦、一泊旅行を実現できたこと、第二千歳療護園と合同でレクレーションを開催できたことは、コロナと共存しながら利用者様の希望されるサービスを提供する方法が見出せた。また、1月には新たなチャレンジとして初詣外出を行った。生まれて初めて初詣に行かれた方が殆どで、お参りのあとにおみくじを引き、ご自身やご家族へのお守りを購入されている。「楽しかった。来年もその次も毎年行きたい」とかなり好評だったので、毎年の恒例行事にしたいと考えている。新しい事にチャレンジすることでも利用者様の笑顔が増えているのを感じる。

嚥下状態が良くない利用者様より「ご飯粒が食べたい！美味しく楽しく食べたい」との訴えがあり、その想いを叶えるため、ゆうかり医療療育センターの言語聴覚士に相談、嚥下訓練や職員へのアドバイスなど多岐にわたりご協力頂いている。法人内職員も巻き込む形となったが、多職種連携でその想いを叶えることができ、利用者様は「想いは叶う」ことを実感されている。ほんの日常における些細な事であるが、私たち千歳療護園の職員は言語表出が難しいご利用者が訴えてくれたこの意思を叶えるよう取り組みを行った。また、この取り組みは九州身体障害児者施設研究大会で発表、高い評価を得ている。

毎年、被害に遭遇している自然災害に於いては、今年度は雨の影響はなかったが、いつ起こりうるか分からない災害に備えるべく、災害対策委員会を中心に日頃より側溝の清掃などの災害防止対策や環境整備を図っていく。

防犯対策に於いては、自動ドアの電源を、平日は内側を土日は外・内の電源を入れずに対応し、不審者の侵入防止等含め利用者様の安全確保に努めてきた。

前述の通り以前の生活に戻りつつあるが、依然として新型コロナウイルスの感染事例は続いている。そのような状況の中でも、意思決定支援に向けて利用者様の要望にお応えするにあたり、以前のような当たり前の日常に戻していかなければならない。

今後も万全な感染防止対策に努めながら利用者様が安全で安心して過ごせる環境を整えると共に「明るく、楽しく、元気よく」、また「想いは叶う」を実現できるよう、職員一丸となり邁進したい。

## 総務部

### <千歳療護園 総務課>

#### 1. 本年度の各事業別利用状況

##### 【施設入所支援：定員 40 名】

年間延利用者数 14,176 名 充足率 97.0%

1 日平均利用者数 38.8 名

##### 【生活介護：定員 50 名（内、通所 10 名）】

入所：年間延利用者数 10,137 名 充足率 97.0%

通所：年間延利用者数 1,432 名 充足率 57.9%

##### 【短期入所：定員 2 名】

5 名の利用者様が、年間延 93 日間利用。

##### 【日中一時支援】 利用なし

##### 【入院・外泊者】 入院延日数：238 日間 入院者：7 名

入院者 7 名のうち、1 名の方は令和 6 年 5 月 26 日より発熱・食思低下状態となり、田主丸中央病院受診。炎症反応が高く精査目的で入院する。入院時、気管支肺炎あり嚥下機能低下、栄養不良の状態が続き胃瘻造設を検討するも検査の結果、不可能と判断されたため経鼻経管栄養を開始する予定となっていたが、発熱のため開始出来ず経過を診ていた。血液培養の結果も細菌多数あり炎症反応上昇。6 月 24 日状態悪化、敗血症ショックで死亡退所となる。

(入院期間：28 日間)

また、別の 1 名の方は COVID-19 感染症のため 5 月 12 日より聖マリア病院で入院加療、5 月 29 日に退院帰園するも徐々に SpO<sub>2</sub> が低下、酸素投与が必要な状態と判断され、同日、田主丸中央病院への入院となる。今後も継続して酸素吸入や呼吸状態観察などの医療的ケアが必要なため、当園での受け入れは困難と判断、8 月 31 日にゆうかり医療療育センターへ入所、それに伴い当園は退所となる。

(入院期間：合計 109 日間)

尚、令和 7 年 3 月 31 日現在の入院者数は 1 名である。外泊については、3 名の方がそれぞれ 1 泊 2 日の自宅帰省、2 名の方が 11 月に 1 泊 2 日で一洗庵に行かされている。

【入所】 2 名 令和 6 年 10 月 11 日 令和 6 年 11 月 13 日

【退所】 2 名 令和 6 年 6 月 24 日（死亡退所） 令和 6 年 8 月 31 日

2. 本年度の地域別入退園状況は別表(1)の通りである。

別表(1) 本年度の地域別入退園状況

生活部

(1) 生活支援課

(パートナー係)

個別支援計画のニーズを中心に利用者の立場に立ち、自主性・選択性・対等性を尊重したサービス提供を行っている。また、園長との懇談会・職員との懇談会・利用者様の話し合いの場(ちとせ会・暖和会)等を通して、サービス提供に対する改善や意見の汲み上げ等も行っている。外出関係では希望外出(法人保養所への外泊)・招待外出(ナイター野球観戦)・買物外出。園行事においては盆踊り代替えレクリエーション・花火鑑賞会・餅つき・初詣外出・節分豆まき・お楽しみ会(職員によるマジックショー・バンド演奏他)を実施している。初詣外出については今年度より取り組み、近隣神社にて参拝を行い、新年の無事と平安を祈願できている。ケース担当者聞き取りにて希望あった際には個別支援活動の時間にドライブ外出も行う。面会については、福岡県コロナ定点報告数に基づき、居室面会と玄関面会の差別化を図り感染症対策を実施。オンライン面会は、タブレット端末を利用し、遠方のご家族様との対話コミュニケーションが出来ている。

生け花に関しては、担当職員とボランティア講師にて月に一度実施。季節によって変わる花材に触れて頂くことで、日本の四季を身近に感じ取る事が出来ている。

整容面では今年度より外部の理美容業者に訪問頂き、ヘアカラー等利用者より好評の声が聞かれている。

行政手続きにつきましては、2月に久留米市に住民票がある利用者男性14名、女性11名の計25名を対象に物価高騰重点支援給付金の代行手続き。

保護者との連絡関係では、園生活状況を記載した状況調書・保護者への連絡書・状況調書発送業務・受給者証行政手続き・後見人3名への小遣い帳、通帳複製書類作成を行う。利用者様の買物代行については、購入要望に沿って2週間に1度の間隔で実施。店舗に無い商品についてはネットショッピングにて支払い代行を行う。今年度は施設閉鎖により招待外出・盆踊り大会が中止になる事もあったが、感染症も減少傾向であった為、行事関係の多くを実施出来ている。これまでの制約影響もあるが、利用者からの要望は外出関係が多い。利用者ニーズが多様化するにともない、サービス提供者側にも機能や役割の多様化が求められる。

今後も障害者支援施設として、24時間365日絶え間なく、利用者の生活全体を支援する機能・設備・専門性を有し、利用者が安心して暮らせる住まいの場の提供が必要。そのためサービス提供の基本を再確認しながら、利用者一人ひとりの心身の状況を理解した上で支援を行いたい。

(サポート係)

令和6年度の千歳療護園は生活介護50名(現在の入所実人数40名・通所利用者15名・短期入所定員2名)で構成されており、入院(7)名、退園(1)名、死亡退園(1)名、新規入所(2)名であった。

コロナ感染症も5類に分類され、行動制限の緩和により、社会全体をみても、以前のような活気がでてきたように思えた。そのような中でも千歳療護園は、普段よりマスク着用は継続し、手指消毒を意識して行い、感染対策には十分気をつけて取り組んでいる。しかし、令和6年5月コロナ感染症のクラスターが発生。感染した職員5名、利用者様19名。そのうち3名の方が長期入院となり、その後1名が死亡し退園。もう1名は医療的ケアが必要となり、ゆかり医療センターへ入所となり、千歳を退園されている。6月にもコロナ感染症による閉鎖、7月～8月、11月にもクラスター発生し、2名の利用者様が長期入院となっている。

年が明けて新年を迎え、コロナ感染症も落ち着いて来たものの、インフルエンザや感染性胃腸炎が流行し、引き続きマスク、手洗い、手指消毒など感染対策を行っている。幸い利用者様にインフルエンザや感染性胃腸炎などの症状なく過ごされている。

アクシデントに関しては、26件の報告があっている。打撲や転倒が多く、中でもトイレでの転倒が増えている。利用者様自身の機能低下が転倒に繋がっている例もあり、見守りが必要となっている。又誤薬も6件あり、薬にクリップをつけ、他の人の薬と重ならないようにするなどの対策をして2重確認、声を出して名前の確認など、徹底するようにしている。

行事に関しては、コロナ感染症の為、春の運動会、納涼祭や忘年会が中止。ようやく8月末に盆踊りレクリエーションを開催でき、カラオケで盛り上がり、午後からは、4つのブースに分かれて綿あめや、シアターなどを楽しまれている。その他、10月に季節はずれの花火大会、令和7年2月に忘年会の代替えとしてお楽しみ会を開催。午前中には豆まきをして利用者様も、職員も豆に見立てたボールや、丸めた新聞を投げ合いストレス発散。午後からは、新人芸や職員有志によるバンド演奏を鑑賞し楽しまれている。又、初めての試みで新年を迎え初詣外出を行っている。近くの北野神社まで、午前と午後に分けて、1月中にほぼ全員が参拝することが出来ている。

来年度は外出等を増やし、利用者様の楽しみが増えるよう考えていきたいと思う。

## (2) 訓練支援課

千歳療護園では、男性 21 名、女性 19 名、計 40 名の利用者様に対し、理学療法士 1 名(兼任)、訓練支援員 1 名で、利用者様一人あたり 1 回 30 分の個別訓練支援を週 1~2 回実施した。

支援内容としては、利用者様の機能維持を心がけ、体力・筋力の維持、関節可動域の維持を目的に行った。具体的には、機能維持を目的とした個別の能力に合わせた動作運動やバランス運動、筋力維持運動や、拘縮予防を目的とした関節可動域維持運動を行った。筋緊張の強い利用者様には、ストレッチやマッサージにてリラクゼーションを行い筋緊張の緩和をはかった。身体に痛みがある利用者様には、ホットパックやマッサージを行い痛みの軽減・緩和に努めた。下肢に浮腫がある利用者様には、エアマッサージャー(メドマー)を使用して下肢の浮腫軽減を行った。また、座位保持の維持や上肢の巧緻動作維持を目的に、パズルやトランプ、スキルスクリーン等の作製を取り入れた。

個別にかかわることで利用者様の希望・要望に沿えるよう心掛け、利用者様の話を傾聴し、気分転換に園周辺へ散歩に出かける等、コミュニケーションをはかりながらストレスの解消や情緒の安定をはかり、精神面から起きる機能低下防止にも心掛けた。施設閉鎖時は感染症対策を行い訓練支援を実施できていなかったが、令和 6 年 1 月以降は有症状者・健康観察者以外の利用者様の訓練支援を居室にて実施した。

(訓練内容)

- 関節可動域運動
- 基本動作運動(寝返り・起き上がり・立ち上がり・立位保持・歩行等)
- 姿勢保持運動(座位バランス・立位バランス等)
- 日常生活動作運動(車椅子駆動・移乗動作等)
- 体力・筋力維持運動(腹筋運動・四つ這い運動・立ちかがみ運動等)
- 巧緻動作運動(パズル・ひも通し・スキルスクリーン等)
- リラクゼーション(マッサージ・ホットパック・メドマー等)

補装具全般の交付・修理申請手続きを行い、車椅子(普通型・ティルト・リクライニング・座位保持装置)・電動車椅子・下肢装具・靴型装具等の作製・修理にも携わっている。令和 6 年度では、車椅子の交付申請 1 件、修理申請 4 件、福祉用品の購入 1 件の手続きを行った。新型コロナウイルス感染症以降、施設の閉鎖や感染症予防対策のため補装具業者の来園等が制限され、交付・修理に時間を要している。

### (3) 相談支援課

#### 【概況】

令和6年度も、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努め、利用者様の安全・安心を第一に感染対策に沿った生活様式を継続する形となり、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染対策対応の際に罹患者以外の利用者様に少しでも不安が軽減される様に日常生活でのコミュニケーションを大切にしながら一人ひとりに合った関係を築けるよう努めた。

相談支援課は、昨年同様に新型コロナウイルス感染症等の対応で制限の多い日常の関りの中で、利用者様の気持ちを汲み取りながら、食事・排泄・移動など一般生活支援業務や相談室での利用者様との個別支援を大切にしながら信頼関係を築けるように働きかけた。

個別活動では、四季折々変化する季節の中で近隣の東部運動公園やゆうかり学園敷地を一周する屋外散歩を実施するなど、ストレス解消や気分転換で喜んで頂けるよう支援を行った。又、利用者様の希望に沿った外出になるように、事前に目的場所を確認しながら久留米、うきは、朝倉方面へ午後1時間程度のドライブ外出を行った。

利用者様の状況に速やかに対応できるよう特に時間割は設定していないが、利用者様への支援の中でコミュニケーションに重点を置きながら、相談室の空間や関りを通して、穏やかな気持ちで生活できるよう支援を行った。なるべく多くの利用者様と関わりたいが、相談室に来られる利用者様との関わりが中心となった。

#### 【支援内容】

- ①面談活動（カタルシス）
- ②散歩療法（発散、リフレッシュ）
- ③表現療法（遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係）
- ④介護全般
- ⑤メンタルヘルス（ドライブ外出、カウンセリング）
- ⑥環境整備、その他

### (4) 看護課

障害者支援施設において、利用者様の高齢化に伴い、障害の重症化重複化・疾病の多様化がみられる為、日常生活の中で利用者様の心身状況に注意を払いながら異常の早期発見に努めました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症クラスター発生し、改めてマニュアルを見直し、全職員情報共有を徹底し、拡大防止に努めた。

嚥下機能低下や誤嚥の可能性のある利用者様に対して ST 介入評価の元、食形態の検討を行い、誤嚥防止に努めている。また誤嚥のリスクの高い利用者様は吸引歯ブラシを使用し口腔ケアを行っている。

《令和6年度》

- ① 委託入院
- |         |    |
|---------|----|
| 聖マリア病院  | 2件 |
| 田主丸中央病院 | 5件 |
| 久留米総合病院 | 1件 |
| 朝倉医師会病院 | 1件 |

(入院延日数 238 日間)

- ② 医療ケア
- |           |    |
|-----------|----|
| 膀胱瘻       | 2名 |
| 経管栄養（胃瘻）  | 1名 |
| 吸入        | 1名 |
| ストーマ      | 2名 |
| 尿道留置カテーテル | 1名 |

- ③ インフルエンザ予防接種 39名

- ④ 新型コロナウイルス予防接種 8回目 27名

- ⑤ 肺炎球菌ワクチン予防接種 4名

- ⑥ 千歳療護園 年齢別入所者数 令和7年3月31日現在

年齢	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	合計
利用者	1人	5人	3人	9人	11人	11人	40人
(%)	2.5%	12.5%	7.5%	22.5%	27.5%	27.5%	100%

- ⑦ 千歳療護園 病類別入所者数 令和7年3月31日現在

病名	人数	病名	人数
脳性麻痺	29	最重度精神遅滞（てんかん）	1
頭部外傷後遺症	1	脳挫傷後遺症	2
精神遅滞（重度）	1	クモ膜下出血後遺症	2
進行性ミオクローヌステんかん	1	重度知的障害	2
脳出血後遺症	1		

別表 (1)

地域別入退園者状況表

令和6年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町	1			1		1	
	上 陽 町							
	大 木 町							
	広 川 町	1			1	1		
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	荻 田 町							
	筑 前 町							
	福 智 町							
	小 計	2			2	1	1	
市 福 祉 関 係	福 岡 市	1			1	1	1	
	北 九 州 市	2			2	2		
	大 牟 田 市	2			2	2		
	久 留 米 市	12			12	7	5	
	直 方 市							
	太 宰 府 市	1			1			
	田 川 市	2			2		2	
	柳 川 市	1			1		1	
	宗 像 市	1			1	1		
	八 女 市	3			3	1	2	
	筑 後 市							
	大 川 市	3		2	1		1	
	小 郡 市							
	筑 紫 野 市	1			1	1		
	春 日 市							
	大 野 城 市							
	糸 島 市	1			1	1		
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
	中 間 市							
古 賀 市								
う き は 市	5	2		7	1	6		
朝 倉 市	2			2	2			
み や ま 市	1			1	1			
福 津 市								
	小 計	38	2	2	38	20	18	
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐 賀 中 部							
	小 計	0	0	0	0	0	0	
	合 計	40	2	2	40	21	19	

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替・洗面・移動						
9:00	朝食						
9:30	移動・排泄・歯磨き (朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
10:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会 (第3水曜日)
11:00	訓 練	訓 練	訓 練	訓 練	訓 練	訓 練	
12:00	ちとせ会 職員懇談会						
13:30	昼食						
14:00	入浴 (女性) カラオケ 活動	入浴 (男性) 個別支援 暖和会	入浴 (女性) 個別支援	入浴 (男性) 個別支援	入浴 (女性) 個別支援	入浴 (男性)	
15:00	訓 練	訓 練	訓 練	訓 練	訓 練	訓 練	
16:00	※入浴は、週2回と3回を隔週で行い、男女各2グループに分け、1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
17:00	夕食						
18:00	歯磨き (自立者一部)、後片付け、排泄						
19:00	着替え、自由時間						
20:00	歯磨き						
21:00	消 灯						
	○月 曜 日 カラオケ活動、コミュニケーション会 ○火 曜 日 個別支援活動、暖和会(第3週) ○水 曜 日 ちとせ会・職員懇談会(第4週)、個別支援活動 ○木 曜 日 個別支援活動 ○金 曜 日 個別支援活動 ○月 行 事 体重測定(主に入浴無しの週)、出張散髪(最終月曜日) 利用者と園長懇談会(第3水曜日) 利用者買物(2週間に1回)、生け花(第3土曜日に千歳・第二が交互に実施) ネイルボランティア(今年度は中止) ○隔 月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議) ※療育会議は、コロナウイルス感染対策の為に実施していない。						

月	日	行事等	月	日	行事等
4	8	千歳開園記念行事	10	14	ナイター観戦
	29	希望外出		10	花火鑑賞
					安全対策防災教育
				24	買い物外出
5	2	買い物外出	11	20	希望外泊
		生け花(千歳)			
6	12	避難訓練	12	4	イルミネーション飾りつけ
	13	買い物外出		19	生け花
	14	ナイター観戦		26	もちつき
	27	買い物外出			
7	10	買い物外出	1		初詣外出(1/10. 15. 16. 17. 20. 21. 24. 27. 30)
	22	ナイター観戦		16	生け花
8	10	第二千歳開園記念行事	2	13	生け花
	19	生け花		26	豆まき
	31	納涼祭			お楽しみ会
9	6	ナイター観戦	3	16	生け花
	19	秋のお茶会			

## 【実習生受け入れ状況】

本年度の実習生受け入れは、コロナウィルス感染予防の為、中止している。

別表（4） 日常生活動作の介護状況

生活動作	区 分	男	女	計
食 事	自 立	0	0	0
	一部介助	11	12	23
	全介助	11	6	17
起 坐	自 立	1	0	1
	一部介助	9	10	19
	全介助	12	8	20
立ち上がり	自 立	1	1	2
	一部介助	6	6	12
	全介助	15	11	26
排 泄	自 立	0	0	0
	一部介助	6	8	14
	全介助	16	10	26
更 衣	自 立	2	1	3
	一部介助	1	4	5
	全介助	18	14	32
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	5	3	8
	全介助	17	15	32
歩 行	自 立	1	1	2
	一部介助	6	1	7
	全介助	15	16	31
寝返り	自 立	7	4	11
	一部介助	1	1	2
	全介助	14	13	27
車椅子使用	自 立	5	1	6
	一部介助	9	12	21
	全介助	8	5	13

生活動作	区 分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	6	5	11
		2回	6	7	13
		3回	4	1	5
		4回	5	1	6
		小計	21	14	35
	服 薬	1回	12	4	16
		2回	0	0	0
		3回	0	0	0
		小計	12	4	16
	体位変換	1回	2	2	4
		2回	1	0	1
		3回	1	0	1
		6回	0	0	0
		小計	4	2	6
おむつ使用	昼・夜	4	1	5	
	夜間のみ	3	4	7	

- ・ 食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・ 排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・ 更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・ 入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

## (5) 通所支援課

障害者支援施設千歳療護園の通所事業として日中活動（生活介護）を実施した。  
現在、久留米市、うきは市、朝倉市を事業実施地域としてサービスを提供している。  
令和7年3月31日現在の、支援センター利用契約者様は14名で、内訳は下記の通りである。

久留米市	9名
うきは市	5名
朝倉市	0名

今年度は、延べ1432名の方が利用され、1日平均6.0名の利用があった。内訳は下記の通りである。

久留米市	761名
うきは市	671名
朝倉市	0名

延べ利用人数は前年と比較すると143名の減となっている。原因として、5月から6月にかけて千歳療護園でクラスターが発生し、感染者の療養場所として支援センターを使用している。その間、支援する場所をゆかり地域支援棟交流ホールにて対応する事となり、他利用者様の感染防止を考慮し、なるべく少人数での利用をお願いした事が原因の一つになっていると思われる。

昨年度同様に、新型コロナウイルス感染症により見学や支援学校の実習が出来ていない状況であった。

支援センターの新規利用については、令和6年6月に1名の契約があっているが現在、精神疾患のため入院されており利用できていない状況である。  
令和6年1月に支援センター利用者様が、千歳療護園入所となり現在の利用人数は14名となっている。利用者年齢としては、21歳から61歳(男性5名女性9名)の方が利用されている。

☆障害支援区分、主たる起因疾患別年齢表は、別表(A)の通りである。

☆月別・市別利用者数表は、別表(B)の通りである。

感染症対策として利用者様お迎え時に、体調の確認をはじめマスク着用をお願いなど行った。また、週に1回、送迎終了後に車内の清掃と消毒を行った。  
新型コロナウイルス感染症も5類に移行し規制も緩和された事もあり、他施設との交流として、千歳療護園で行われた盆踊り代替えレクリエーション大会に参加でき、いろいろなアトラクションに参加でき利用者様も楽しいひと時を過ごされていた。

活動については、密を避ける為の対応を引き続き行いながらドライブやレクリエーションに取り組むことが出来た。

## 日中活動の支援内容

- 身体介護 食事、入浴、排泄、移動、移乗介助
- 創作的活動、文化的活動、社会適応訓練（個別活動・グループ活動）

### <手工芸>

- 折り紙細工 花 小物 輪飾り ゴミ箱
- 小物づくり 編み物 キーホルダー
- 造形 紙、布、ボタン、テープや毛糸、木の実など様々な材料を利用
- ジグソーパズルなど

<習字、読み、書き> 毛筆、読み書き練習、書写

<制作> 貼り絵 自由画、ぬり絵、折り紙制作など

<外出> ドライブ 買い物

### ○機能訓練

日常生活動作訓練、四肢他動運動・抵抗運動、器具運動、積み木、紐通

### ○スポーツ、趣味娯楽活動

ポケネット、輪投げ、トランプ、オセロ、ジェンガ、ビー玉・おはじき、  
DVD鑑賞など

### ○更生相談

利用者様の要望や必要に応じて医療、福祉、介護等の相談を行っている。

	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
19 歳以下						0
20 ～ 29			1	2	3	6
30 ～ 39					1	1
40 ～ 49					2	2
50 ～ 59			1	1	2	4
60 ～ 64			1			1
65 歳以上						
計			3	3	8	14

主たる起因疾患別年齢表

起因疾患 年齢	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	合計
	脳性麻痺	脳血管障害	脊髄損傷	頭部外傷	特定疾病	特定疾患	リウマチ	進行性筋萎縮症	その他	
(1) 19 歳以下										
(2) 20～29	5								1	6
(3) 30～64	1	1			2			2	2	8
(4) 65 歳以上										
合計	6	1			2			2	3	14

別表 (B) 令和 6 年度 月別・市別利用者数表

千歳療護園 通所支援課

月	利用日数	利用者数	1日平均
4	21	129	6.1
5	21	97	4.6
6	20	119	5.9
7	22	126	5.7
8	16	100	6.2
9	19	118	6.2
10	22	135	6.1
11	20	124	6.2
12	20	121	6.0
1	19	120	6.3
2	18	108	6.0
3	20	135	6.7
計	238	1432	6.0

月	久留米市			うきは市			朝倉市		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
4	68	19	45	61	24	37	0	0	0
5	40	11	29	57	22	35	0	0	0
6	65	14	51	54	22	32	5	5	0
7	62	12	50	64	26	38	0	0	0
8	55	15	30	45	18	27	0	0	0
9	66	15	51	52	19	33	0	0	0
10	69	14	55	66	25	41	0	0	0
11	67	16	51	57	22	35	0	0	0
12	66	18	48	55	22	33	0	0	0
1	65	16	49	55	23	32	0	0	0
2	57	14	43	51	20	31	0	0	0
3	81	21	60	54	22	32	0	0	0
計	761	185	562	671	265	406	0	0	0

令和6年度 出張報告

日付	出張用件	出張先	参加数
4/10	福障協 筑後ブロック 懇談会	久留米市	2名
4/16・17	九障協 理事会	沖縄県	1名
4/25	制度改正・報酬改定等に関する説明会	久留米市	1名
5/9～11	春の叙勲 旭日小綬章授賞式	東京都	1名
5/14	全社協関係者への回礼	東京都	1名
5/22・23	身障協 協議員総会	東京都	1名
6/5	福障協 幹事会・施設長会	春日市	2名
6/12	九障協 理事会・施設長総会	熊本県	2名
6/12・13	九障協 施設長・リーダー職員研修会	熊本県	4名
	県社協 中堅職員研修	春日市	1名
6/5・6	県社協 新任職員研修	Web	1名
6/29～7/12	県社協 感染症予防研修(前期)	オンデマンド	1名
7/10・11	県社協 ストレスマネジメント研修(管理職員コース)	Web	1名
7/12・13	福岡県サービス管理責任者 基礎研修	福岡市	1名
7/23	県社協 ストレスマネジメント研修(中堅職員コース)	春日市	1名
9/10	九州身体障害児者施設研究大会運営委員会	熊本県	2名
9/11・12	九州身体障害児者施設研究大会	熊本県	4名
8/30～9/30	県社協 BCP 研修	オンデマンド	1名
9/23・24	福岡県サービス管理責任者 実践研修	福岡市	1名
9/25・10/2	県社協 コーチング研修	春日市	1名
9/25～27	全国身体障害者施設協議会研究大会	宮城県	5名
10/3	県社協 「報・連・相」強化研修	春日市	1名
10/11	県社協 会計責任者研修	Web	1名
10/16	福障協 幹事会・施設長会	春日市	2名
10/23	県社協 労務管理研修	オンライン	1名
10/24	県身障協 権利擁護に関する知障協との合同研修	福岡市	2名
10/29	福岡県高齢者権利擁護等推進研修 看護実務者研修	春日市	1名

10/30・11/6	県社協 リスクマネジメント研修	春日市	1名
11/7・8	九障協 サービス提供職員研修会	佐賀県	3名
11/8～29	福岡県てんかん支援拠点病院研修会	オンライン	1名
11/15	県社協 記録技術研修	春日市	1名
11/16・17	避難生活支援 リーダー/サポーター研修	嘉麻市	1名
11/18・19	身障協 職員スキルアップ研修	東京都	1名
11/29～12/12	県社協 感染症予防研修 後期	オンライン	1名
12/12・13	福障協 職員研修会	久留米市	4名
12/13	福障協 幹事会・施設長会	久留米市	2名
12/24・25	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員コース	春日市	1名
1/10	福障協 筑後ブロック施設長会	久留米市	3名
1/17	県社協 接遇マナー向上研修	春日市	1名
1/11・18	強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)	福岡市	2名
1/20	社会福祉法人が取り組む権利擁護支援研修会	Web	1名
1/23	県社協 業務改善研修	春日市	1名
1/24	県社協 事業継続計画(BCP)研修	Web	1名
1/25・2/1	強度行動障害支援者養成研修(実践研修)	福岡市	1名
1/27	県社協 ファシリテーション研修	春日市	1名
2/3～16	福祉サービス苦情解決従事者研修会	オンライン	1名
2/7	県社協 社会福祉法人トップセミナー	福岡市	2名
2/12	県社協 説明力向上研修	Web	1名
	九障協 理事会・施設長総会	長崎県	2名
2/12・2/18	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者コース	春日市	1名
2/13・14	九障協 研究大会	長崎県	4名
3/5・6	身障協 経営セミナー	東京都	1名
3/5～7	身障協 協議員総会及び50年史編纂委員会	東京都	1名
3/13	県身障協 施設長会	春日市	1名
	県身障協 施設長・職員研修会	春日市	3名
3/27	福障協 施設長会	春日市	2名

## 第二千歳療護園

### 《概況》

令和6年の新語・流行語大賞の年間大賞には、昭和から令和の時代にタイムスリップした主人公が価値観の違いに戸惑いながらも奮闘する姿をコミカルに描いた民放のテレビドラマ「不適切にもほどがある！」を略した「ふてほど」が選ばれた。

スポーツ界に於いては日本人が活躍を見せた。第33回夏季五輪パリ大会が7月26日に開幕し、8月11日まで17日間にわたって熱戦が繰り広げられた。日本は海外開催の夏季五輪で過去最多となるメダル45個（金20、銀12、銅13）を獲得した。国・地域別の金メダル数では米国、中国の40個に次ぐ3位で、総数でも6位だった。また、米大リーグでは、ドジャースの大谷翔平選手が9月19日、メジャー史上初の「50本塁打、50盗塁」を達成した。ナショナル・リーグの本塁打王と打点王の2冠に加え、最優秀選手（MVP）にも選出されるなど圧倒的な輝きを放った。

日本銀行は7月3日、20年ぶりとなる新紙幣の発行を始めた。肖像は、1万円札に日本資本主義の父といわれる実業家の渋沢栄一、5千円札には女子高等教育の先駆者の津田梅子、千円札には細菌学者の北里柴三郎が採用された。

今年度、第二千歳療護園は開設10年を迎え節目の年となり、8月1日には記念式典を開催し利用者様と職員で盛大に10年を祝った。開催するにあたり、10周年実行委員会とレクリエーション委員会が中心となり企画、立案し利用者様の希望などを伺いながら会議を進め第一部を式典、第二部は納涼祭を兼ねてのバーベキューパーティーとした。第一部の式典では日野理事長よりお祝いのお言葉を頂き続いて、利用者様(全員)に10周年記念のTシャツ、職員には記念のボールペンを贈呈、最後に趣向を凝らした鏡割りで第一部の式典を終了した。第二部は嶋副園長の挨拶そして利用者様代表による乾杯のご発声で待ちに待ったパーティーが始まり、利用者様は、好きなお肉や魚介類、野菜(サラダバー)、飲み物、デザート等を自由に選ばれ、うれしそうに顔をほころばせ「美味しい」と満面の笑みを浮かべ召し上がられていた。第二部の終了前には10年の歩みをスライドショーで演出し大いに盛り上がり、利用者様の中には、感極まり涙を流し懐かしまれる方もおり、節目にふさわしいイベントとなった。

新型コロナウイルス感染予防に於いては、ゆうかり学園新型コロナ感染予防対策基本指針の下に利用者様の命を守るための対策を行った。新型コロナワクチン接種については有料となった為、65歳以上で補助のある方のみ実施した。しかし、11月16日に職員1名の新型コロナウイルス感染が確認され、その後施設内でも感染が広がり利用者26名、職員6名のクラスターが発生、感染した利用者様については訓練室及び居室での隔離療養を行いながら感染拡大防止等の対策に努め、12月13日（28日間）に収束している。利用者様の面会については、コロナ感染状況を見ながら慎重に行い、10月より県内定点報告を基に、居室対面面会、ラウンジ面会を再開した。

また、年末年始の自宅帰省については、慎重に協議を重ね、地域での感染状況も減少傾向にあり、希望者のみ期間を限定(3泊4日)して行った。

権利擁護、虐待防止への取り組みに於いては、さらなる推進に努め「虐待は、しない、させない、許さない」をメインテーマに権利擁護委員会を中心に、虐待防止及び身体拘束廃止検討会を年4回開催し、朝礼時にも全職員で虐待防止への取り組みを継続している。

今後更に高齢化・重度化が進行し、医療的ケアを要する利用者様が増加していくことが予想される。また行動障害、発達障害、三障害一体のサービス提供、応諾の義務等々、今後も身体、知的、精神、重複障害など様々な障害を抱えた利用者様の入所に備え、利用者様一人ひとりの障害特性に応じた個別支援計画の作成と、支援計画に基づいた質の高いサービス提供を行い、今年のゆかり学園のスローガンである「つなげよう つながろう 心の和」を支えとして利用者様のQOL向上と、風通しの良い職場環境づくり、地域との連携を図りながらケアコミュニティの実現に向けて取り組んでいきたい。

## 総務部

### <第二千歳療護園 総務課>

#### 1. 本年度の各事業別利用状況

##### 【施設入所支援：定員 40 名】

年間延利用者数 13,880 名 充足率 95.0%、

1 日平均利用者数 38 名

##### 【生活介護：定員 40 名】

年間延利用者数 9,928 名 充足率 95.0%

##### 【短期入所：定員 2 名】

6 名の利用者様が、年間延 88 日間利用。

##### 【日中一時支援】

利用なし

##### 【入院・外泊者】

入院者数 10 名、入院延日数 544 日間。

外泊者数 1 名、外泊日数 4 日

今年度、コロナウイルス感染症感染者は 11 月中旬に利用者様 26 名が感染するクラスターが発生したが重症化することなく回復されている。入院状況として入院者 10 名のうち 1 名の利用者様が継続的な医療的ケアが必要となり他医療機関に転院し退所となった。また、2 名の利用者様が疾病により亡くなっている。高齢化や障害の重度化、疾病の多様化等により様々な疾患に罹患するリスクが高くなっており入退院の繰り返しや一度入院されると長期化する傾向となっている。外泊については 1 名の利用者様が 8 月と 1 月にそれぞれ 1 泊 2 日の帰省をされている。

尚、令和 7 年 3 月 31 日現在の入院者 2 名である。

## 【入所・退所】

令和6年12月7日付、1名退所(死亡退所)

令和6年12月10日付、1名退所(医療施設へ)

令和7年2月3日付、1名入所

令和7年3月27日付、1名退所(死亡退所)

2. 本年度の地域別入退所者状況は別表(1)の通りである。

別表(1) 本年度の地域別入退園状況

## 生活部

### (1) 生活支援課

(パートナー係)

本施設では、利用者様のニーズに基づいた個別支援計画を中心に、利用者様の立場に立ったサービス提供を基本としてきた。特に、月一回の自治会役員との話し合いの場「ちとせ会」を通じて、利用者様の自主性・選択性・対等性を尊重したサービス運営を行ってきた。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を継続し、安全な環境の提供を目指して取り組んだ。しかし、11月にクラスターが発生し、約3週間にわたり施設を閉鎖せざるを得なかった。コロナ禍では外部サービスの利用を全面的に中止していたが、令和5年度から再開し、散髪サービスにおいて新たな取り組みを行った。従来は訪問理美容サービスに加え、田主丸在住の訪問散髪サービス「GO-CUT」を導入し、利用者様に選択肢を提供することで、個々のニーズに応じた満足度の向上を図った。また、訪問理美容サービスでは白髪染めやカラー対応も行い、大変好評を得た。さらに、今年度から家族の面会を居室で行うようにし、家族からも喜ばれている。

一方で、今年度の行事では、ゆうかり大運動会、夏祭り、忘年会が新型コロナウイルス感染予防対策のため中止となった。各施設で代替行事を実施する形で対応した。

また、招待外出の再開では、ナイター野球観戦やミュージカルの計画を立て、利用者様の楽しみを充実させた。ナイター野球観戦には8名が合同で参加したが、長時間の観戦となり一部の利用者様が体調を崩す場面も見られた。このため、今後の内容や参加者選定に課題が残った。ミュージカルは2月に予定されていたが、施設内での感染拡大により中止となった。

1月には久留米市役所の協力のもと、マイナンバーカードの申請を行い、保険証との紐付けによる「マイナ保険証」の作成を進めた。今回は、久留米市に住所がある利用者様31名を対象に実施した。

さらに、11月以降に利用者様2名が長期入院を余儀なくされた。2名とも医療度が高く、第二千歳療護園では夜間看護師が勤務していないため受け入れが困難であり、移行先施設の選定が課題となった。この状況を受け、高齢化に伴い医療度が高まる利用者様への対応を検討する必要があると感じた。施設内での医療サービスの強化や、安心して移行できる環境の整備が重要だと考えた。

今年の8月1日、第二千歳療護園は開園10周年を迎えた。これを記念して、施設内で利用者様と職員と一緒に10周年を祝うイベントを開催した。

令和7年度も、利用者様のニーズに寄り添い、安全で質の高いサービスの提供を目指して取り組んでいきたい。

☆週生活表、年間実施行事は別表の通り

(サポート係)

施設入所支援40名、生活介護40名、短期入所2名。現在、男性21名、女性17名(最少年齢38歳、最高年齢82歳、平均年齢63歳、退園3名、入園1名、3/31現在)の方の日常生活介護・精神的支援、個別のニーズに沿った支援を行った。

今年度も、サービス管理責任者を中心に、利用者様の自立支援を目標に、ケアプランの作成・実施・検討を行いながら日々の支援を行った。利用者様の平均年齢も63歳となり、加齢に伴い身体の機能低下も著しく見られ、介護や医療を必要とする場面が多くなって来ている。健康維持(誤嚥性肺炎予防など)を目的とした口腔ケアの実施も継続して行っているが、入院者数に関しては、増加傾向にある。

新型コロナウイルス感染予防に於いては、ゆうかり学園新型コロナ感染予防対策基本指針の下に利用者様の命を守るための対策を行った。新型コロナワクチン接種については有料となった為、65歳以上で補助のある方のみ実施した。しかし、11月に新型コロナウイルスの感染者が確認され、その後利用者26名、職員6名のクラスターが発生した。感染した利用者様については訓練室及び居室での隔離療養を行いながら感染拡大防止等の対策に全力を注いだ。

利用者様の面会については、コロナ感染状況を見ながら慎重に行い、10月より県内定点報告を基に、居室対面面会、ラウンジ面会を再開した。また、年末年始の自宅帰省については、慎重に協議を重ね、地域での感染状況も減少傾向にあり、希望者のみ期間を限定(3泊4日)して行った。

福祉機器に於いては、ICT、IOT活用による業務効率化を目的として、コロナ感染予防対策による面会の自粛期間も長くなり、その対応としてタブレットによるオンライン面会に活用、遠方のご家族など好評を得ている。また、眠りスキャン20台に於いても、高齢の利用者様および健康観察が必要な方に使用し、ベッド就床時での、体動(呼吸、心拍など)の測定や睡眠状態が把握でき、生活リズムの改善や健康状態の把握が出来た。

今年度、第二千歳療護園は開設10年の節目の年となり、8月1日には記念式典を開催し利用者様と職員で盛大にお祝いを行った。その他の行事面に於いては、法人行事としては、ゆうかり学園運動会を、利用者様の気候面での体調等を配慮し5月18日(土)に予定していたが感染拡大防止の為、中止となった。また、夏祭りを8月29日(木)に予定していたが感染拡大防止の為中止となり各施設にて代替えレクリエーションを実施した。

施設内での行事としては、レクリエーション委員会及び日中活動委員会を中心に多くの行事を企画、開園記念兼納涼祭、忘年会(施設閉鎖にて食事のみ)、お楽しみ会(忘年会代替え)、餅つきなど、恒例の行事に加え工夫を凝らした行事に利用者様から好評を得た。相談支援課にて、コロナ禍でストレスを抱えている利用者様の気分転換を図る目的で施設周辺へのドライブ外出や屋外散歩を実施し、楽しんで頂いた。また、買物外出や個別活動での外出も感染対策を講じながら実施出来、短い時間であったが楽しんで頂けた。

環境衛生委員会による定期的な花苗の植替えは利用者様も楽しみにされており恒例活動となっている。

権利擁護、虐待防止への取り組みに於いては、さらなる推進に努め「虐待は、しない、させない、許さない」をメインテーマに権利擁護委員会を中心に、虐待防止及び身体拘束廃止検討会を年4回開催し、朝礼時にも全職員で虐待防止への取り組みを継続している。

利用者様の高齢化・重度化が進み、医療との連携が求められるとともに、強度行動障害や発達障害等の多種多様な障害特性に配慮し、一人ひとりに合った支援に取り組み、利用者様が生きがいのある豊かな生活が送れる様、地域共生社会実現に向けて今後も全職員で取り組んでいきたい。

## (2) 訓練支援課

第二千歳療護園においては、利用者様 38 名(男性 21 名・女性 17 名)に対し、理学療法士 2 名(1 名兼任)で訓練を実施した。

利用者様 1 人あたり 1 回の訓練時間を 30 分とし、身体状況によって週 1~2 回実施した。個別に関わり状況に応じて居室を使用するなど、充実した訓練内容となるよう支援を行った。

訓練内容については、利用者様の高齢化に伴う身体機能の低下がみられるため、主に体力・筋力・バランス能力の維持、残存機能の維持、関節可動域の維持、拘縮の予防、痛みの軽減等を目的として実施した。訓練を行いながら利用者様の思いや不満を傾聴することで、ストレスの解消や情緒の安定にも務めた。また利用者様の希望される、折り紙や塗り絵等の制作活動や、バッティング、キャッチボールといった体を動かす活動、オセロやトランプ、パソコン(インターネット検索)等の趣味活動、散歩(屋内外)を行うことで、訓練時間をより楽しいものと感じていただけるよう関わり、訓練への参加意欲向上を図った。

今年度は利用者様が新型コロナウイルスに罹患し、施設を閉鎖して隔離対応となった。R6 年 1 月からは施設閉鎖中であっても、療養中・健康観察対象以外の利用者様の訓練を行うことができるようになり、居室にてリハビリを行なった。

補装具の交付修理申請については、車椅子支給申請 3 名、車椅子修理申請 4 名、福祉用具(電動車椅子バッテリー、頸椎カラー、靴、補聴器等)購入 8 名、福祉用具修理(下肢装具)1 名について実施した。感染症予防のため車椅子業者の施設内立ち入りが制限されたことにより、車椅子作製や修理、姿勢保持テーブル・クッション等の補装具作製が思うように出来ていない。

## (訓練内容)

- 関節可動域訓練
- 体力、筋力、バランス能力訓練  
(腕立て、腹筋、背筋、スクワット、チューブトレーニング等)
- 巧緻動作訓練(パズル、はめ絵、折り紙等)
- 姿勢保持訓練(立位、座位バランス等)
- 日常生活動作訓練(車椅子移動、移乗動作等)
- 歩行訓練(歩行器歩行)
- 趣味活動(バッティング、ゲーム、パソコン等)
- リラクセーション(マッサージ、ストレッチ、プロンキーパー等)

## (3) 相談支援課

### 【概況】

令和6年度も、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努め、感染対策に沿った生活様式を継続したが、社会では徐々に減少してきている新型コロナウイルス感染症がクラスターとなり施設閉鎖となった。

相談支援課は、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザによる施設閉鎖となった場合は、昨年同様少しでも不安から解放されるよう日常生活でのコミュニケーションにて一人ひとりに合った関係を築けるよう努めた。

利用者様からは「外に出たい」という声は依然として続いており、昨年度同様健康を意識し、なるべく屋外散歩によるコミュニケーションを多く取り入れた。外に出て日光を浴びる事により、ストレスを軽減し、感情を安定させ睡眠の質を向上させる効果があるとされており、季節を肌で感じストレス解消や生活リズムの構築へとつながるよう働きかけた。

今年度も、ドライブ外出を1時間程度ではあるが実施した。行き先をなるべく昨年と重ならない様新しい場所を探しながら、季節なども変更しマンネリ化しないよう心掛け、車から降りての記念撮影も継続した。利用者様からは「来年も行きたい」などの声が聞かれた。

制限された生活様式の中ではあるが、日光浴は、春や夏など紫外線が多い季節では1日15分程度を、秋や冬などの日光が弱く紫外線が少ない季節は30分程度を目安に、ストレス解消や気分転換を目的に支援を行い、穏やかな安定した気持ちで生活できるよう支援を行った。

なるべく多くの利用者様に関わりたかったが、身近な生活での情緒的に影響のある利用者様を中心となった。

**【援助内容】**

- ①面談活動（カタルシス）
- ②散歩療法（発散、リフレッシュ）
- ③前頭前野活性化法（読み聞かせ等）
- ④介護全般
- ⑤メンタルヘルス（外出、カウンセリング）
- ⑥その他

#### (4) 看護課

利用者様の高齢化に伴い、障害の重症化重複化・疾病の多様化がみられる。日常生活の中で利用者様の心身状況の変化を他職種と連携を図り、異常の早期発見に努め、委託医・ご家族・医療機関等との連携を図り迅速な対応を行った。

新型コロナウイルスなどの感染症に対し、陽性者発生を認め感染症対策マニュアルに沿って対応を徹底し感染拡大防止に努めた。また職員も自身の健康管理・感染予防を行い施設内へ感染を持ち込まない様に感染対策を継続する。

《平成6年度》

① 委託入院	田主丸中央病院	15 件
	久留米大学病院	1 件
	聖マリア病院	1 件
	おひさま寮	1 件

(入院延日数 544 日間)

② 医療的ケア	経管栄養 (胃瘻) 2 名		
	吸引 1 名	吸入 1 名	
	膀胱瘻 1 名	膀胱洗浄 1 名	

③ インフルエンザ予防接種	38 名
---------------	------

④ 新型コロナウイルス予防接種 8 回目 : 7 名
----------------------------

⑤ 肺炎球菌ワクチン	0 名
------------	-----

⑥ 第二千歳療護園 年齢別入所者数	令和7年3月31日現在
-------------------	-------------

年齢	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	合計
利用者	0人	1人	2人	14人	8人	14人	39人
(%)	0%	2.6%	5.1%	35.9%	20.5%	35.9%	100%

⑦ 第二千歳療護園 病類別入所者数	令和7年3月31日現在
-------------------	-------------

病名	人数	病名	人数
脳性麻痺	27	頭部外傷後遺症	1
先天性骨発育不全症	1	糖尿病	1
脳梗塞後遺症	1	脳出血後遺症	1
脳炎後遺症	1	精神発達遅滞	1
白内障術後無水晶体眼・左眼球萎縮	1	精神発達遅滞 (重度)	1
クーゲルベルグ・ヴェランダー病	1	難治性統合失調症	1
トレット症候群	1		

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町							
	上 陽 町							
	大 木 町	2			2	1	1	
	上 毛 町	1			1	1		
	東 峰 村		1		1	1		
	星 野 村							
	玖 珠 町	1		1				
	荻 田 町	1			1	1		
	筑 前 町	1			1	1		
	福 智 町	1			1		1	
小 計	7	1	1	7	5	2		
市 福 祉 関 係	福 岡 市	3			3	2	1	
	北九州市							
	大 牟 田 市							
	久 留 米 市	10		1	9	4	5	
	直 方 市							
	飯 塚 市	2			2	1	1	
	田 川 市							
	柳 川 市	2			2		2	
	宗 像 市							
	八 女 市	1			1	1		
	筑 後 市							
	大 川 市	1			1	1		
	小 郡 市	1			1		1	
	筑 紫 野 市	2			2	1	1	
	春 日 市							
	大 野 城 市							
	糸 島 市	1			1	1		
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
	中 間 市							
	古 賀 市							
うきは市	4			4	2	2		
朝 倉 市	3		1	2	2			
みやま市	2			2	1	1		
福 津 市								
小 計	32		2	30	16	14		
県 外	鳥 栖 市	1			1		1	
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐 賀 中 部							
	小 計	1			1		1	
合 計	40	1	3	38	21	17		

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替・洗面・移動 朝食						
9:00	移動・排泄・歯磨き (朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	フリー
10:30	訓練	訓練	訓練	外出	外出	【生花】	
11:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練		
12:00	昼食 移動・排泄・歯磨き						
13:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
14:00	訓練	定期診察 暖和会	療育会議 外出	訓練	外出 ちとせ会 職員懇談会	訓練	
15:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	
16:00							
16:20							
17:00	※入浴は、週2回と3回を隔週で行い、男女各2グループに分け、1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施 夕食						
18:00	歯磨き (自立者一部)、後片付け、排泄						
19:00	着替え、自由時間						
20:00	歯磨き (介助者) 歯磨き (自立者)						
21:00	消 灯						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 月 曜 日 ビデオ視聴・個別活動・製作活動・ドライブ外出・レクリエーション (月～土)</li> <li>○ 火 曜 日 利用者買物(隔週)・暖和会(第2週)・ネイルボランティア(今年度は中止)</li> <li>○ 水 曜 日 買物外出、療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義)</li> <li>○ 木 曜 日 買物外出、ちとせ会・職員懇談会(第2週) 午後カラオケ</li> <li>○ 金 曜 日 ビデオ視聴・個別活動・制作活動・レクリエーション</li> <li>○ 土 曜 日 生け花(第3週、千歳と交互に実施)オンラインで先生の指導の下実施</li> <li>○ 日 曜 日 体重測定 (第2日曜)</li> <li>○ 月 行 事 出張散髪(GO-CUT、訪問理美容)、園長との懇談会(水曜日又は木曜日)</li> <li>○ 隔 月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議)</li> </ul>						

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等
4	7	買物外出 散髪(職員)	10	4	ナイター野球観戦
	17	散髪(職員)		9	買物外出
	20	生け花		10	花火鑑賞
	24	レクリエーション		11	散髪 GO-CUT
	29	障害者スポーツ大会(雨天不参加)		17	生け花
	30	買物外出		18	散髪
5	9	買物外出 散髪(職員)	11	25	買物外出
	15	カラオケ		14	生け花
	18	ゆうかり学園大運動会			
	25	生け花			
	29	買物外出			※11/17~11/30 施設閉鎖
6	4	散髪(職員)	12	19	生け花
	7	買物外出		20	散髪(職員)
	13	カラオケ		25	訪問理美容
	14	ナイター野球観戦		26	餅つき
	20	買物外出		27	散髪 GO-CUT
	22	生け花			※12/1~12/13 施設閉鎖
7	4	散髪(職員)	1	16	生け花 買物外出
	5	ナイター野球観戦		24	カラオケ
	19	買物外出 散髪(職員)		29	訪問理美容 買物外出
	31	生け花			※1/1~1/3 施設閉鎖
8	1	第二千歳開園記念(10周年)	2	4	利用者買物
	24	生け花		12	買物外出
	27	ナイター野球観戦		13	生け花
	29	ゆうかり学園夏祭り		26	訪問理美容
				28	散髪 GO-CUT
9	6	ナイター野球観戦	3	13	カラオケ
	9	散髪(職員)		26	訪問理美容 買物外出
	11	買物外出		27	生け花
	12	カラオケ		28	散髪 GO-CUT
	21	生け花			
	25	買物外出			

※ 令和 6 年度、訪問理美容、生け花(片岡先生による講師)を再開。また、新規で散髪 GO-CUT の利用を開始している。

※ 実習生(福岡大学、久留米工業大学 介護等体験実習)受け入れ状況については、再開しているが実習無し。

別表（４） 日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男性	女性	全体	
食 事	自 立	2	4	6	
	一部介助	9	8	17	
	全 介 助	10	5	15	
起 坐	自 立	7	9	16	
	一部介助	3	0	3	
	全 介 助	11	8	19	
立ち上がり	自 立	3	5	8	
	一部介助	6	2	8	
	全 介 助	12	10	22	
排 泄	自 立	2	4	6	
	一部介助	6	3	9	
	全 介 助	13	10	23	
更 衣	自 立	2	4	6	
	一部介助	8	3	11	
	全 介 助	11	10	21	
入 浴	自 立	0	0	0	
	一部自立	5	4	9	
	全 介 助	16	13	29	
歩 行	自 立	1	2	3	
	一部介助	3	3	6	
	全 介 助	17	12	29	
寝 返 り	自 立	8	9	17	
	一部介助	3	1	4	
	全 介 助	10	7	17	
車椅子使用	自 立	5	3	8	
	一部介助	5	8	13	
	全 介 助	9	3	12	
生活動作	区 分	男 性	女 性	全 体	
夜 間 処 遇	排便排尿	1 回	3	2	5
		2 回	5	5	10
		3 回	3	6	9
		4 回	7	1	8
		15回	0	1	1
		小計	18	15	33
	服 薬	1 回	9	4	13
		2 回	9	11	20
		3 回	1	1	2
		小計	19	16	35
	体位変換	1 回	0	1	1
		2 回	2	0	2
		3 回	0	1	1
		4 回	1	0	1
		6回	0	0	0
小計		3	2	5	
おむつ使用	昼・夜	12	6	18	
	夜間のみ	2	4	6	
☆ 食事 配膳された状態で、魚の骨取りも含む。					
☆ 排泄 排泄後の処置、女性は生理処理も含む。					
☆ 更衣 ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。					
☆ 入浴 一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部ができること。					

## 令和6年度 出張報告

日付	出張用件	出張先	参加数
4/10	筑後ブロック施設長会	久留米市	3名
4/25	制度改正・報酬改定等に関する説明会	久留米市	1名
5/10	福岡県サービス管理責任者 基礎研修 1日目	動画配信	1名
5/15	福岡県サービス管理責任者 実践研修 1日目	動画配信	1名
5/17	福岡県身障協 第1回研修員会	春日市	1名
5/20	福岡県社会福祉法人経営青年会 第1回次世代経営者育成塾	博多区	1名
5/22・5/23	社会福祉施設役職員研修 新任職員研修	春日市	1名
6/5	福障協 幹事会・定例施設長会	春日市	1名
6/12～6/13	九障協 施設長・リーダー職員研修会	熊本市	3名
6/12・6/13	社会福祉施設役職員研修：中堅職員研修	春日市	1名
6/29～7/12	感染症予防研修 前期	動画配信	1名
7/10・7/11	ストレスマネジメント研修 管理職員コース	WEB	1名
7/23	ストレスマネジメント研修 中堅職員コース	春日市	1名
7/30・10/24	権利擁護に関する合同研修	博多区	2名
7/31・8/6	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダーコース	春日市	1名
8/9・8/10	福岡県サービス管理責任者 基礎研修 2・3日目	博多区	1名
8/17・8/18	福岡県サービス管理責任者 実践研修 2・3日目	博多区	1名
8/19・10/2	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 管理職員コース	WEB	1名
9/4	福障協サービス向上委員会	福智町	1名
9/5	福岡県身障協 第1回実務者研修会	春日市	2名
9/11	福岡県障がい車虐待防止・権利擁護指導者研修	春日市	1名
9/11～9/12	九州身体障害児者施設研究大会	熊本市	4名
9/25	BCP研修	WEB	2名
9/25～9/27	全国身体障害者施設協議会研究大会	仙台市	4名
10/3	「報・連・相」強化研修	WEB	1名
10/9・10/11	コーチング研修	WEB	1名
10/11	会計研修（実務者研修会）	WEB	1名

10/16	福障協 幹事会・定例施設長会	春日市	1名
10/17～10/18	全国重症心身障害児者施設職員研修会 「栄養士・調理師コース」	大阪市	1名
10/29	福岡県社会福祉大会	春日市	1名
10/29	福岡県高齢者権利擁護等推進研修 看護実務者研修	春日市	1名
10/30・11/6	リスクマネジメント研修 指導者・管理職員コース	春日市	1名
11/7～11/8	九障協 サービス提供職員研修会	佐賀市	2名
11/15	記録技術研修（障がい者分野）	春日市	1名
12/13～12/14	全社協 全身障協 職員スキルアップ研修会	東京	1名
11/26	アンガーマネジメント研修	春日市	1名
11/29～12/12	感染症予防研修 後期	WEB	1名
12/12	福障協 サービス向上委員会	久留米市	1名
12/13	福障協 幹事会・定例施設長会	久留米市	1名
12/13～12/14	福障協 職員研修会	久留米市	2名
1/9	福岡県身障協 研修員会	WEB	1名
1/10	福障協 筑後ブロック施設長会	久留米市	2名
1/10	接遇マナー向上研修	春日市	1名
1/17	福岡県身体障害者施設協議会 研修委員会	博多区	1名
1/20	社会福祉法人が取り組む 権利擁護支援犬種会	WEB	1名
1/23	業務改善研修	春日市	1名
1/24	事業継続計画（BCP）研修	WEB	2名
1/27	現場で役立つファシリテーション研修	春日市	1名
1/31	福岡県知的障がい者福祉協会 権利擁護・研修部会との合同会議	春日市	1名
2/7	社会福祉法人トップセミナー	福岡市	2名
2/3～2/16	福祉サービス苦情解決従事者研修会	動画配信	1名
2/12～2/14	九州障害者支援施設研究大会	長崎市	5名
2/12	説明力向上研修	WEB	1名
3/5～3/6	全身障協 経営セミナー	東京	1名
3/7	重症児（者）食・栄養研究会	福智町	1名
3/13	福岡県身障協 施設長会 施設長・職員研修会	春日市	3名
3/28	福障協 幹事会・施設長会	春日市	1名

# 久留米市東部障害者基幹相談支援センター

## 1. 委託相談概況

委託相談の当事者・家族からの相談件数は1798件で、延べ件数は2253件だった。相談内容別では福祉サービスの利用や不安の解消・情緒の安定に関する相談が多く寄せられた。相談方法としては、電話相談が多く、訪問や同行などアウトリーチ支援の依頼を受けることもあった。

障害種別で見ると、精神障害の相談が多く、症状の悪化や生活環境の変化などで不安状態に陥ると電話相談が頻繁になる傾向がある。相談のルーチン化を図り医療機関や他機関と連携しながら対応している。その他、年金や障害者手帳申請については、申請プロセスが個々の事情により異なるため、長期的な支援が求められる。

障害児の相談では、発達障害児の保護者から福祉サービス利用に関する相談や、保育・教育に関する相談が多かった。サービス利用や療育の開始の際に必要な、幼児教育研究所や医療機関の受診の待機時間が長いため、保護者の焦燥感が強く、就学前の相談も年々早くなっている。学校生活における相談については、スクールソーシャルワーカーと連携することが多かった。また若い世代の就労に関する相談も多く、福祉的就労にすぐつなげるのではなく、就労準備や訓練の場の紹介や生活就業センター、ハローワークと連携して多様な働き方の提案を行い、一般就労へつながった方もおられた。

関係機関との連携では、セルフプラン解消のために、その後のフォローも含め相談支援事業所と連携して対応することが多かった。世帯支援や退院に伴う地域移行の際には関係者会議を行うこともあり、当センターが中心となり障害当事者、地域、支援者をつなぎ継続的なフォローを行っている。

### 【1】総合的・専門的な相談支援

#### ○相談支援実績

相談件数 合計：1798件

相談方法	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	その他	合計
計	154	81	81	1397	39	46	0	1798

○相談内容別件数 合計：2253 件

相談内容	福祉サービスの利用等	障害や症状の理解	健康医療	不安の解消 情緒安定	保育教育	家族関係 人間関係	家計経済
計	755	19	152	718	38	156	79

生活技術	就労	社会参加 余暇活動	権利擁護	その他	住宅	合計
20	179	21	21	77	18	2253

○障害種別相談人数

実相談人数：493 名(内児童 99 名) ( )内は児童

	身体障害	知的障害	精神障害	重症心身障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他	合計
計	64 (0)	119 (40)	269 (8)	0 (0)	38 (81)	16 (0)	6 (0)	0 (0)	512 (129)

※重複障害の場合があるため、実人数≦合計

○エリア別相談件数：1798 件

東部	西部	南部	北部	市外	県外	不明	合計
1754	8	0	12	21	3	0	1798

○関係機関との連絡・調整

合計件数：3048 件

	行政機関	就労機関	医療機関	福祉サービス事業所	居宅介護事業所	地域包括支援センター	相談支援事業所	教育機関
計	447	95	435	441	44	115	1169	26

成年後見関係	住宅関係	療育機関	発達障害者支援センター	その他	合計
22	16	4	0	234	3048

## 2. 基幹相談概況

今年度も久留米市内の相談支援事業所に対し、サービス等利用計画作成についての指導、助言を行った。対応数は前年度、981 件に対して今年度は 863 件であった。対応数は昨年より減ったが、「他基幹からのケース依頼」「事業所からのケース相談」などは昨年度より増加した。また、情報共有の件数は昨年度より減っているが、生活困窮、同居家族の高齢化、ひきこもり等、同居家族の相談対応課題などが多い世帯の対応では、相談支援事業所と連携しながらの相談対応となった。

相談支援事業所に対する計画の繋ぎは児・者合わせて 34 件、昨年度の 27 件から増加し、新規委託相談がほとんどであった。今年度も相談支援事業所と連携しながらサービス等利用計画の推進を行った。

基幹研修は障害福祉サービスの管理者・サービス管理責任者を対象に「ハラスメントのない職場作り」を開催し 53 名の参加があった。内容はハラスメントとは何か、顧客からのハラスメントであるカスタマーハラスメントについての講義と、ケースメソッドの手法を用いたグループワークを行った。

久留米市障害者地域生活支援協議会において、当センターは、施策推進部会の重心分科会、こども分科会の事務局を担った。重心分科会では要配慮者災害対策を行っている団体と協力し医療ケア児を担当している相談支援専門員や災害時の避難に不安を抱えている家族、居住地域の自治会、行政等と連携し避難訓練を実施した。また、オンラインを利用した就労を行っている当事者と働き方に関する意見交換を実施した。こども分科会では、こどもにかかわる団体と関係機関との繋がりをつくり、子どもに関する課題を協議した。

地域との連携では、東圏域地域包括支援センター主催の民生委員・児童委員連絡会議や権利擁護地域ケア会議に出席し、地域の関係機関及び支援者と情報共有を行った。

関係機関との連携では障害福祉や高齢者、生活困窮者支援において、課題が多い世帯に対して、包括的な支援を検討する場としての重層的支援会議や地域防災会議、要配慮者災害対策会議に参加し地域課題を共有した。特に今年度は、久留米市地域包括支援センターと世帯支援で連携した事例を介護支援専門員の研修会で、情報発信することが出来た。

基幹相談支援センターの広報活動では基幹ホームページと公式 LINE を活用し、近隣の研修や障害のイベントに関する情報発信や障害者地域生活支援協議会内の各分科会活動報告などの情報発信を行った。ホームページのアクセス数や LINE の登録者数も増加している。

人材育成事業では、福岡県相談支援専門員初任者研修で久留米市内の受講者に対して基幹センターの役割等の紹介、および事例の検討を行った。

今年度も福岡県相談支援従事者現任研修のファシリテーターとして研修に協力した。

また、久留米医師会看護専門学校の実習生 6 名の受け入れを行った。次年度も可能な限り、久留米市および福岡県の人材育成事業に協力しながら基幹センターとしての役割を担っていく。

### 【1】指定相談支援事業者等に対する指導、助言

○支援内容： 863 件

	基幹 から 計画相 談依頼	事業所 からの ケース 相談	会議等 の出席	同行	情報共 有	情報 提供 のみ	計画 作成に おける 助言	その他	合計
合計	34	12	77	90	619	19	12	0	863

【2】 サービス等利用計画作成の推進に伴う指定相談支援事業所への繋ぎ人数

○計 34 件（月平均 2.8 件）

	障害者	障害児
合計	26	8

【3】 久留米市障害者地域生活支援協議会について

○全体会

○権利擁護部会

○施策推進部会

○重心分科会、こども分科会、おとな分科会、相談分科会、当事者分科会

※各部会の委員、分科会の事務局として出席

【4】 出張及び研修

福岡県ひきこもり支援者研修会	(7月3日)
成年後見制度利用促進研修会	(7月5日)
医療的ケア児等への支援に関する情報交換会	(7月11日)
久留米市保健所自殺対策研修会	(7月31日)
第1回久留米・八女筑後圏域情報交換会	(8月9日)
高齢者等の権利擁護に関する研修会	(8月19日)
第3回おなか元気セミナー	(9月18日)
社会福祉士指導者養成研修	(11月1～2日)
筑紫・筑後圏域地域定着支援協議会	(11月15日)
ひきこもり支援地域ケア会議	(11月15日)
八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修会	(11月25日)
筑後若者サポートステーション連携会議	(12月3日)
令和6年度九州地区相談支援従事者研修会	(12月5～6日)
第2回福岡県医療的ケア児等コーディネータースキルアップ研修	(12月10日)
久留米市保健所依存症セミナー	(1月29日)

【5】 主催・共催研修

久留米市障害者基幹相談支援センター研修 (2月17日)  
八女・筑後圏域委託相談支援事業所情報交換会及び研修会  
(8月9日)  
強度行動障害養成者研修 (12月2日、3日、1月16日、17日)  
福岡県相談支援従事者現任研修 (12月4日、1月8日)

## 【6】会議

基幹相談センター委託運営会議 (第3木曜日)  
基幹相談センター長会議 (第1木曜日)  
基幹研修ワーキング  
久留米市障害者地域生活支援協議会 (全体会、施策推進部会、相談分科会、重心分科会、こども分科会、各部会・分科会事務局会)  
重症心身障害児者地域生活支援事業連携会議  
東部圏域権利擁護個別支援地域ケア会議  
田主丸地域民児協包括連絡会議(竹野校区、水縄校区、船越校区、水分校区、川会校区、柴刈校区、田主丸2校区を各月ごとに開催)  
山本小学校生徒指導連絡会議  
重層的支援体制整備事業会議  
居住支援協議会生活支援部会  
久留米市自殺対策連絡協議会  
精神保健福祉関係機関連絡会議  
地域防災会議  
要配慮者災害支援会議  
久留米大学病院てんかんネットワーク会議  
他、医療・教育・福祉施設等、行政との関係者会議・個別支援会議

## 【7】連携した主な機関

医療機関(市内外)、訪問看護事業所、久留米医師会、小・中学校、保育所、久留米市特別支援学校、田主丸特別支援学校、福祉サービス事業所(市内・外)、民生委員、児童委員、相談支援事業所(市内・外)、久留米市役所(田主丸総合支所)各課、久留米市保健所、他市役所各課、地域包括支援センター、発達障害者支援センター、障害者・就業生活支援センター、幼児教育研究所、久留米児童相談所、生活自立支援センター、市社会福祉協議会、若者サポートセンター、ハローワーク、年金事務所、障害者生活就労支援センター、家庭裁判所、成年後見センター、警察、NPO 法人、弁護士、司法書士、社労士、ひきこもり支援センター、男女平等参画センターなど



# 委員会報告

- 苦情解決委員会
- 虐待防止委員会
- 安全管理委員会
- 医療機器安全管理委員会
- 医療ガス安全管理委員会
- 防災対策委員会
- 院内感染対策委員会
- 衛生委員会
- 広報委員会
- 福祉 QC 委員会
- 防犯対策委員会
- 研修委員会

## 苦情解決委員会

### 《概況》

利用者様が安全に安心して生活が送れるように、各施設で定期的に委員会を開催、各課連携を図り権利擁護、不適切な身体拘束やケアが行われていないか等、虐待の早期発見、防止を図る事を目的とし各施設で取り組みを行った。

当委員会は、毎月委員会を開催し、各寮虐待防止委員会の報告を行った。苦情・要望への対応調整・解決等に関しては迅速に取り組んだ。

12月に第三者報告会、虐待防止研修会、3月に苦情解決委員会報告会を行った。

### 《苦情・要望件数》

令和6年4月1日～令和7年3月31日

	ゆうかり医療療育センター	コアラ園	耳納学園	千歳療護園 第二千歳療護園
1. 職員の言動・対応等に対する苦情	2	0	0	1
2. 施設への要望	1	0	0	0
3. 利用者様から要望	0	0	5	0
4. 保護者（後見人）よりの苦情	0	0	0	0
5. 利用者様同士の苦情	0	0	0	0

### 《基本的取り組み内容及び状況》

#### ゆうかり医療療育センター

要望1件、職員の態度、行為に対する苦情が2件あった。要望に対しては、事実確認を行い職員の不安軽減に努めた。

職員の態度、行為に対する苦情については面談や職員アンケートを実施、状況確認を行っているが、報告書の提出が遅れている為解決には至っていない。今後、意識改革、改善を適切に行い、職場環境を整えることで利用者様が安心して快適な生活が送れるように支援を行っていかなければならない。

#### コアラ園

- ・令和6年度は、特に苦情等の届出は無かった。
- ・以前より「皆様の声」ボックス、相談カードを設置して、文書でのご意見を保護者様よりいただける様にしている。
- ・児童発達支援計画書作成時や、6ヶ月後のモニタリングにて保護者より個別に聞き取りを行い、ご意見、要望等も伺っていった。
- ・コアラ園苦情解決マニュアルの内容確認を、職員会議等にて定期的に周知を図った。
- ・年度内に1回、保護者様へのアンケート調査を行い、アンケート結果に基づくご意見等への改善策を記入し、コアラ園自己評価表としてR7.3.10よりゆうかり学園ホームページにて公表した。
- ・コロナウイルスを含む感染症拡大防止の為、登園時にアンケート用紙の記入をお願いすると共に、感染の恐れがある病気診断を受けた方へ、登園を控えていただく対応をお願いする。

上記対応について、特に苦情等の申し出は無かった。

## 千歳療護園、第二千歳療護園

千歳療護園、第二千歳療護園では、普段から利用者様への権利擁護や身体拘束等については、最重要事項として捉え支援の中で留意している所であるが、第二千歳療護園で苦情にあがってきた事例が1月に1件「職員からの態度言動」で上がっており、ご本人に謝罪し対象職員に面談を行っている。苦情を受け付けてから2週間後、再度ご本人に確認、「現在は特に気になるところはなく、他の職員と同様に適切に対応していると思う」との返事をいただいております。今後も定期的に対象職員の対応状況の確認をさせていただくという事で利用者様より了承を得ている。

## 耳納学園

耳納学園は福祉的就労の場として、まずは利用者様同士にて解決の努力、自治会活動にて対応の話し合いを行い、自立した生活を尊重し自己決定、自己責任、自己解決の努力をして頂いている。その上で職員は相談、助言を行い、利用者様に不満を抱かせない様、速やかな解決、対応が出来るように心がけ支援を行っている。

新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきて、行事が再開し利用者様の外出・外泊も出来る様になった。外出・外泊は状況に応じて変動する事はあるが少しずつ出来る事、行ける場所も増えてきているように感じる。外へ出る機会が増えたことで利用者様のストレス発散にも繋がり苦情の訴えはなかった。

しかし意見箱へ投書される要望が数件あり、内容は集団生活で起こりやすい利用者様同士の関係に関する事が多かった。その要望を真摯に受け止め日常生活の中で利用者様の些細な変化にもより一層気を配り、問題となる前に対応していけるよう心掛けていきたい。

また投書以外でも日々さまざまな声が聞かれており、職員一人ひとりが利用者様の声に耳を傾け寄り添うことが重要だと再認識した。今後も利用者様の自立した生活を尊重しながら安心した生活を送って頂けるよう支援を行い、また職員は自身の言動に責任をもち、権利擁護の意識、福祉施設職員としての自覚や意識の向上に努めていきたい。

## 虐待防止委員会

### 《概況》

当委員会は、利用者様が安全に安心して生活が送れるように、法人全体で虐待防止研修会、各施設で定期的な委員会を開催、各課連携を図り権利擁護、不適切な身体拘束やケアが行われていないか等、虐待の早期発見、防止を図ることを目的とし各施設で活動を行った。虐待防止セルフチェックのアンケートを実施し、結果については周知徹底を図った。

### 《取り組み》

#### ゆうかり医療療育センター

虐待防止研修会を1回/年、各寮虐待防止委員会を一回/月開催した。権利擁護、身体拘束等の視点から問題提起を行い、利用者様が安心して生活が送れるように人権に対する意識、尊厳を考えた支援に努めた。また、虐待防止セルフチェックアンケートを実施し、問題や対応を検討、職員の再認識を図った。4月に他医療機関で起きた虐待問題についても当施設の事として置き換えカンファレンスを行った。年々、利用者様の高齢化や重症化に伴い業務も煩雑化し精神的な負担も増加している。今後職員間のコミュニケーションを図り、風通しの良い職場環境をつくる必要がある。

#### コアラ園

- ・毎月第3水曜日に開催するコアラ園会議内にて委員会を実施し、虐待に関する情報等を各委員より出してもらい記録を残した。
- ・登園児保護者の子供への気になる接し方（身体を叩く行為）など虐待と思える状況や情報は無かった。
- ・園児の身体の傷や、身体整容の気になる状況等の情報があった場合は、相談支援事業所「夢の紀」スタッフと連携し、各当該市町村へ情報を提供していくようにしている。
- ・コアラ園「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し、職員へ周知すると共に保護者への説明を行った。
- ・年1回、身体拘束等適正化委員会を開催した。(R6.8.21)

#### 千歳療護園、第二千歳療護園

千歳療護園、第二千歳療護園では、権利擁護委員会を今年度も新型コロナウイルス感染予防対策として、それぞれの施設で6月、9月、12月、3月に開催した。カンファレンスの時間に開催し、現在身体拘束状態にある利用者様の現状報告（第二千歳のみ）、及び身体拘束廃止に向けた検討、評価、各種研修会への参加状況報告を行っている。また9月と3月のカンファレンス開催前に「施設・地域における障害者虐待防止チェックリスト」を実施し、朝礼時に「社会福祉法人ゆうかり学園 理念・使命」、「ゆうかり学園基本理念 遵守心得」、「マザーテレサの言葉」、「やむを得ず身体拘束を行う場合の3要件」、「権利擁

護のための禁止事項 10 ヶ条」、「虐待チェックリスト」、「具体的な虐待事例」、「障害者支援施設事例」、など読み上げる時間を設け、利用者様への権利擁護や虐待、身体拘束等について職員に周知を行い、意識の向上を図りながら、利用者様の思いを汲み取り継続して支援を行っていききたい。

## 耳納学園

耳納学園虐待防止委員会は、常日頃から職員に対して利用者様への虐待防止、また、人権を尊重するよう注意喚起を行った。3 月には、虐待防止の自己チェックのアンケートを実施し虐待等に対し職員の再認識をはかるとともに、職員間でチェック機能を高め虐待防止に努めた。

## 安全管理委員会

### 《概況》

当委員会は、利用者様と職員が安全、かつ安心な生活、又適切な医療を受けられるよう環境を整え、利用者様本位のサービスの質の向上を重点課題とし、医療・介護・療育場面における事故防止を図る事を目的とし、各施設においてそれぞれの活動を行った。職員より提出されたインシデント報告書、及びアクシデント報告書の評価を行い、事故防止対策の具体的内容について検討し、再発防止、未然防止に努めた。

10月の医療安全研修会では、3つの部署のKYT（危険予知トレーニング）活動の取り組み状況を報告し、情報の共有化を図った。日頃意識しない場面や環境に視点がいき、インシデントの気付きに繋げることが出来るなどの考察が上がった。又、参加できなかった職員への研修会動画もアップして情報共有を図った。

### 《具体的取り組みと事故発生状況》

[ゆうかり医療療育センター]

\*本年度の年間目標は、『インシデントで早期発見』と『KYTで、アクシデントの発生しない環境を整える』を掲げた。

インシデントで早期発見に関しては、各寮、各部署でのインシデントレポートの在り方見直し、レポート数アップの取り組みを行い、内容と結果を委員会へ報告してもらった。次に、継続的な活動として、アクシデントの発生しない環境を整えることを目的に、KYTの実施を依頼した。インシデントは個々の気付きだけではなく、レポートを共有することで事故防止対策に繋がったと考えられる。

『医療安全分析用紙』は引き続き活用し、利用者様、職員、環境、管理などをそれぞれの側面より、要因、及び問題点を分析し、それぞれに対しての対策を行い報告提出をしてもらった。

次年度は、『アクシデントの起こらない環境改善対策の為にインシデントの分析を行う』ことを目標に掲げ、重大アクシデントにつながる可能性の高い『重要インシデント』を委員会で選別し、当該部署にて「分析⇒改善、見直し、対策実行⇒評価」を実施、その内容を他部署と情報共有を図ることとした。

アクシデント件数は、前年度168件より32件増加して200件となった。

(事故報告件数)

転倒、転落…22件	外傷…22件	与薬関係…42件	
注入カテーテル関係…32件	その他…82件		
			合計…200件

[千歳]

\*委員会の取り組みとしては、アクシデントが起きた際はアクシデントレポートとは別に分析用紙を記入してもらい、全職員に周知し再発防止に努めている。また、利用者様の加齢とともに身体機能の低下が進んでおり、精神面への配慮、観察を怠らない様に注意し、アクシデント防止に努めて行きたい。今後も、利用者様に安全で安心できる園生活を過ごして頂けるよう、職員一人ひとりが事故防止に努め、観察力・注意力の向上を目指していきたい。また、数多くの「お気付き報告書(インシデント)」を記入してもらうよう働きかけ「リスク」は目には見えないが、確実にそばにある大きな壁だということを全職員が意識し事故を未然に防いでいかなければならない。

尚、本年度のアクシデント件数は26件であった。

【事故報告件数】

○転倒・・・5件	○外傷・・・8件	○骨折疑い・・・2件	○転落・・・2件
○誤薬・・・5件	○座薬挿肛日以外での挿肛・・・1件	○食事への異物混入・・・1件	
○禁止食品を提供・・・1件	○器物破損・・・1件		
			合計・・・26件

【お気付き報告書】

○R6年2月よりR7年1月・・・18件報告あり

## [第二千歳]

\*安全管理委員会の取り組みとしては、アクシデントを全職員に通知し、分析・対策を行っている。アクシデント分析としては、転倒や転落が続き、利用者の加齢に伴う筋力の低下も原因と考えられる。また、誤薬ではマニュアルの再確認を周知徹底し、誤薬防止の対策を1つ取り入れ実施している。

(事故報告件数) R6年4月～R7年3月

転倒・・・3件    転落・・・1件    誤薬・・・1件    バルーンカテーテル抜去・・・1件

その他・・・3件

合計・・・9件

## [耳納]

\*本年度のアクシデント報告は7件で、そのうち6件は転倒事故で、1件は利用者同士のトラブルで発生した転倒事故を含む。他1件は与薬であった。転倒事故では擦過傷や前歯が欠けることはあったが大事に至らなかった。利用者同士のトラブルでは、車椅子乗車中に他利用者様から車椅子を持ち上げられ後方に転倒する事故、与薬では配役時の日付け間違いであった。日頃の利用者同士の人間関係や障害物で事故に繋がる場面がないか確認し、そして利用者様の加齢に伴う身体機能の低下を考慮しながら生活環境を見直した。必要な場面の支援と利用者様に対し注意喚起を行い、利用者様と共に事故防止の意識向上を目指していく。

(事故報告件数)

転倒・・・6件、与薬1件

合計・・・7件

## 医療機器安全管理委員会

### 《概況》

医療機器安全管理委員会は、2ヶ月に一回委員会を実施し、感染症が流行している時は、中止にしている。

構成メンバーは、臨床検査技師・診療放射線技師・薬剤師・歯科衛生士・各寮看護師の7名。

### 《開催日の状況》

R6年4月22日    6月24日    8月26日    10月28日    12月23日

R7年2月17日

## 《内容》

### 医療機器修理・点検・購入について

故障・破損時の医療機器(故障・破損)報告書を作成し、機器の故障内容や故障にいたる状況を出来るだけ詳しく書いてもらい、修理に出すか購入かの検討を行う。  
今現在、機器の貸し借りカードを作成しており、貸し出す機器の確認と貸し出すまでのマニュアルの作成を行っている。

医療機器の点検については、4月・10月と施設で決めた5機種について年2回点検を行い、人工呼吸器の日常点検については、点検表に沿って行う。  
定期点検については、業者の方をお願いしている。

## 医療ガス安全管理委員会

### 《概況》

医療ガス安全管理委員会は、医療機器安全管理委員会と並行して行った。

### 《内容》

- ・医療ガス定期点検を4回行うが、今年度も新型コロナウイルスの影響で病棟閉鎖期間が長くなり、できる所から点検を行った。閉鎖解除後は、点検を行なえるように、日程の調整を行い年4回の点検を行うことが出来た。

### ＜出張関係＞

令和6年度 医療ガス安全管理者講習会 eラーニング

## 防災対策委員会

### 〈概況〉

特に配慮を要する利用者様が入所されている社会福祉施設においては、各種の災害時に、その防災対策を確立することが強く要請されている中、当委員会ではより良い防災対策を確立し実施することを目的に活動を行った。今年度は、昨年まで新型コロナウイルス感染症拡大の観点から実施できていなかった消防署立ち合いによる合同避難訓練（ゆうかり、千歳療護園、耳納）を実施できた。また浮羽消防署管内の屋内消火栓・消火器操法大会にも参加することができ、職員の防災の意識向上を図ることができた。特に、豪雨時の浸水被害に対して事前準備など、意識向上が見られた。

### 〈火災想定避難訓練実施状況〉

- ・ ゆうかり学園  
2回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園夜間合同夜間想定総合訓練  
毎月1回 火災、もしくは風水害想定の実施
- ・ 千歳・第二千歳寮護園  
3回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園夜間合同夜間想定総合訓練
- ・ 耳納学園  
2回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園夜間合同夜間想定総合訓練

## 院内感染対策委員会

### 〈概況〉

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症が5類相当の位置づけとなった以降、世の中は感染対策の意識が薄れつつある。公衆の場でもマスクをしていないことが当然となっている。その為か、新型コロナウイルス以外のインフルエンザやノロウイルス、RSウイルス等の感染症が増加し、施設内でもクラスターが発生している。感染対策は保健所の定点報告を目安にフェーズを定め、感染症対応を行っている。

この様な中、利用者様を感染症から守っていくためには、「標準予防策」が重要であることを繰り返し発信してきた。職員は病原体の媒介者となる可能性が高いため、特に手指衛生については1か月間の手指アルコール消毒の目標値を決め、使用量調査（年2回）や毎月の薬局からのアルコール消毒剤払い出し量など数値にて見える化している。

今後も手指衛生の遵守率の向上を目指し、啓発活動を実施していきたい。

《活動内容》

月	内 容
4月	令和6年度年間計画 委員会指針の見直し
5月	レジオネラ症について
6月	手指衛生啓発活動月間 手指アルコール使用量調査 手指消毒チェック 溶連菌感染症について
7月	手足口病について
8月	感染性胃腸炎について
9月	マイコプラズマ感染症について
10月	手指衛生啓発活動月間 手指アルコール使用量調査 帯状疱疹について 10/16 研修会「院内感染を防ぐために日頃から出来ること」
11月	インフルエンザ感染症について
12月	ノロウイルス感染症について
1月	手洗いパトロール
2月	新型コロナウイルス感染症対策について
3月	なぜ手指衛生が大事なのかについて 3/12 研修会 令和6年度感染症報告

＜施設内感染症発生状況＞

令和6年4月～令和7年3月

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新型コロナ ウイルス	利用者	2	21	7	13	5		2	35	2	17	21	
	職員	4	20	7	24	9	3		12	3	12	11	
インフル エンザA	利用者										6		
	職員								1	8	10		
ノロ ウイルス	利用者												9
	職員		1		1								3
RS ウイルス	利用者									16		1	13
	職員	2		3	11	19	18	5	1	2	16	6	11
手足口病	利用者												
	職員				1								
マイコ プラズマ ウイルス	利用者							3					
	職員												

## 《クラスター発生状況》

\*感染源を同じとする罹患者が10名以上発生した場合、保健所へ報告

発生月	感染症	施設	入所者	職員
R6.5月	新型コロナ	千歳療護園	19	6
R6.11月	新型コロナ	千歳療護園	11	1
R6.11月	新型コロナ	第二千歳療護園	26	6
R6.12月	RSウイルス	なかよし寮	12	
R7.1月	新型コロナ	なかよし寮	17	5
R7.1月	インフルエンザA	おひさま寮	5	7
R7.2月	新型コロナ	ともだち寮	21	6
R7.3月	RSウイルス	おひさま寮	11	

## 衛生委員会

### 《概況》

「職員が心と体の健康づくりについて理解し、元気に仕事ができる」を大きな目標とし、①メンタルヘルス ②体の健康 ③職場環境に分けて、毎月資料提供し、紹介した。また、施設内 LAN の掲示板にて全職員が閲覧できるようにした。年1回のメンタルヘルス研修会では、54名が参加、その他の職員はビデオ視聴とし、全職員受けることができた。

8月にストレスチェック実施し、職員は自身のストレス状態を理解する機会となる。集団評価では総合健康リスクが高い職場の結果を分析し、課題等を上げ、職場環境改善につながるよう呼び掛けた。長期休暇中の職員を除き306名が受検できた。全体の14%が高ストレスと判定されている。面談希望者には個人情報に留意し、産業医の面談を行った。

メンタル不調にて長期に休職する職員も増加してきている。相談があった場合は産業医と面談、職場の配慮等上司へ依頼し、職場復帰までのサポートを行っている。また、職場復帰後も状況によっては継続的な面談を実施している。

2月より衛生委員会は新たに委員を各施設より編成した。今後は、現場の声を聴きながら職員が仕事にやりがいを感じ、熱心に取り組み、活き活きと働けるような職場づくりを目指していきたい。

## <活動内容>

月	内 容
4 月	令和 5 年度計画について
5 月	メンタルヘルス① 「自分は出来ると信じる力」
6 月	職場環境① 「体感温度と湿度」
7 月	体の健康づくり① 「腸内細菌の話」
8 月	◎ストレスチェック実施
9 月	メンタルヘルス② 「ピンチをチャンスに」
10 月	体の健康づくり② 「骨の老化を予防する食事」
10 月 30 日	◎メンタルヘルス研修（全体研修） 「アンガーマネジメント」ビデオ視聴
12 月	職場環境② 「5 S 活動」
1 月	体の健康づくり③ 「腰痛予防対策」
2 月	メンタルヘルス③ 「職場のコミュニケーション」
3 月	年度活動報告

## 広報委員会

### 《概況》

広報委員会は、広報紙の発行とホームページの管理を担っている。

広報紙は 6 月 1 日（74 号）、10 月 1 日（75 号）、2 月 1 日（76 号）の年間 3 回発行し、委員 8 名で構成した編集会議は、施設内 LAN を活用して年間 3～4 回にとどめ、締め切り内に発行できるように、努力している。

尚、77 号からは電子化の方向性であり、76 号において、利用者様のご家族、関係事業所等に今後の配布に対する意向を確認する目的で、アンケート調査を実施した。

ホームページに関しては、インフォメーションなど手軽に更新できるようにリニューアルしているが、更新数は多くない。

広報紙各号の内容および配布先や発行部数は、以下の通りである。

### [発行内容]

- 第 74 号（令和 6 年 6 月 1 日発行） 表紙…コアラ園
  - ・ 「ゆうかり学園における防犯対策」…防犯対策委員 久恒 章
  - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
  - ・ 今日の仲間 57（おひさま寮、なかよし寮の仲間）
  - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人紹介他

- 第 75 号（令和 6 年 10 月 1 日発行） 表紙…耳納学園
  - ・ 第二千歳療護園開設十年を祝して…第二千歳療護園 園長 谷 博文
  - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
  - ・ 今日の仲間 58（耳納学園、千歳療護園、障害者支援センターちとせの仲間）
  - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他
  - ・ 当法人理事長叙勲関係のご報告
  - ・ 令和 5 年度事業報告、決算状況報告および令和 6 年度事業計画の報告記事
- 第 76 号（令和 7 年 2 月 1 日発行） 表紙…おひさま寮
  - ・ 新年のご挨拶…理事長 日野 博愛
  - ・ パリパラリンピック 2024 車いすラグビー金メダリスト 草場 龍治 様
  - ・ 佐藤看護部長 ねむの木賞受賞
  - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
  - ・ 今日の仲間 59（ともだち寮、おひさま寮、第二千歳療護園、コアラ園の仲間）
  - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他

[配布先および発行部数]

#### ◎学園関係

（利用者様及び園内各部署、全職員（76 号は除く）、賛助会員様等に配布…550 部）

#### ◎行政や地域、関連諸施設、学校などに配布（500 部）

◎1 回の発行部数は 1,450 部（76 号は 1,150 部）年間発行部数は 4,050 部であった。

### 福祉QC委員会

今年度も 1 年を通して各施設、寮の職員、職員家族に新型コロナウイルス感染者が頻発しており、感染症拡大防止の為、活動を自粛している。

### 防犯対策委員会

#### 《概況》

当施設においては、身体的、精神的にも配慮を要する利用者様が多く入所されており、当委員会ではより良い防犯対策の確立、利用者様方の安心、安全を最優先課題として活動を行った。

[法人全体]

\*4 月 17 日、法人全体での防犯対策委員会を開催した。

- ①防犯対策緊急連絡網（担当職員）の事前確認分の配布。
- ②年間防犯訓練スケジュールの確認。

③『さすまた』の使用対象と手順について再確認。

④一昨年に佐野機工より購入した『防犯用品』を使用しての訓練を実施。

\*11月の新任職員研修会では、防犯対策委員会設立の経緯、防犯対策委員会の活動状況、防犯対策用品などの紹介を含めて研修を実施した。

\*3月に開催予定の『法人全体での防犯訓練』に向けて、臨時の防犯対策委員会を開催した。実施日時、想定時間、想定内容、参加職員など細かく打ち合わせをして準備をしたが、感染症拡大を考慮して期日未定の延期と判断、年度内での開催はできなかった。

[ゆうかり]

《具体的取り組み状況、及び内容》

\*各寮の設備面（自動ドア、窓周辺、インターホン、さすまたなど）のチェック報告、ゆうかり敷地内の確認、門扉、全周囲フェンスの確認、又は、防犯監視システム、防犯カメラ、センサーライト、外灯等の外部設備等の動作確認を行い『防犯設備チェックリスト』への入力により、日常的に防犯に対する意識向上を図り、書面での報告を毎月実施した。

【防犯訓練等実施状況】

4月…防止対策委員会	5月…なかよし寮	6月…総務・外来
7月…おひさま寮	8月…ともだち寮	10月…おひさま寮
11月…新任職員研修会	12月…ともだち寮	1月…総務・外来
3月…おひさま寮		

[千歳]

\*毎月防犯設備チェックリストを用いて、防犯設備（センサーライト、防犯カメラ、防犯監視システム、自動ドア、居室・廊下窓、倉庫ドア、インターホン、さすまた・警棒）の点検確認、チェックリストへの記載を行っている。

防犯訓練を計画していたが、コロナ感染による施設閉鎖の為、実施できなかった。法人全体での合同防犯訓練も延期となっている。

[第二千歳]

\*第二千歳防犯対策委員会の取り組みとしては、毎月のセンサーライト、防犯カメラ、防犯監視システム、自動ドア、居室窓、寮内廊下窓、寮内各倉庫ドア、インターホン、さすまた、警棒の「防犯設備チェックリスト」への入力を行っている。

夜間の屋外赤外線センサー作動時間については防犯対策委員会で話し合い 22:00～4:30 で千歳・第二千歳で統一している。

防犯訓練においては、第二千歳では佐野機工よりさすまたの「不動+ロングシャフト」「弁慶+軽量シャフト」を購入し届いている為、R6年5月と10月にさすまたを使用した訓練を実施している。

[耳納]

9/27(金) 居室施錠、不審者に対策について利用者様への依頼

- ・ガラスサッシの施錠について、再確認と再依頼
- ・屋外よりガラスをノックされても対応しないで、職員に必ず連絡する事。

3/27(木) 洗面所やラウンジのガラスサッシの施錠

- ・施錠は必ず行い、レバーのロックも確実にを行うことを依頼。

[コアラ園]

- ・不審者侵入時の防犯避難訓練を、令和6年7月11日(木)14:30~実施した。

実施後、反省会にて以下の3点の意見が出る。

- ① 今回は、園児の恐怖感を少なくする為、不審者の行動を静か目に行ったが、激しく侵入して来た時の状況も見てみたい。
  - ② 現在のマニュアルでは、不審者と判断した時の合図を、「手を大きくパーにして、真っ直ぐに頭上に上げる」だが、この行動は不審者に刺激を与える事にならないかと感じる。マニュアルの変更を検討する。
  - ③ 初めての防犯避難訓練で、いろいろと試行錯誤しながら計画実施を行なった。実施前に行った「防犯教室」の「いか・の・お・す・し」の合言葉を全員で共有できた事は良かった。
- ・令和6年度も療育活動中の玄関自動ドアを外側、内側とも手動にして不審者等の侵入を一時止める対策を行った。

## 研修委員会

### 《概況》

法人全体の研修の企画、実施を行うことを目的とした委員会であり、令和3年度から開催している。

令和6年度から療育会議運営委員会と合併し、療育会議の運営も行っている。  
研修の内訳は法人既定の研修である療育会議での研修、新人職員を対象とした新任職員研修、2年目以降の既存職員を対象とした基礎研修、各部署、各施設に分かれ専門的な研修を行う専門研修となっている。

### 《令和6年度活動》

- 療育会議として、理事長講義、局長講義、医療安全・感染症研修会、医療安全・感染症委員会報告会、虐待防止委員会報告会、外部講師による「カスタマーハラスメント」研修、同和研修の計7回実施。
- 新任職員研修を4月と11月、計2回実施。
- 基礎研修としてパソコン研修はWord、googleformsの2回、虐待防止分野の「障がい者の権利」専門研修の計3回実施。
- 各課・各施設の専門研修の企画案と結果を年度末に報告する制度を確立した。

### 《活動状況》

委員会はほぼ毎月開催でき、10回/年開催した。前年度より委員の人数を増員し、幅広い活動が行える体制が確立できた。

療育会議は、例年同様実施することが出来ている。

昨年度作成された、ゆうかり学園職員研修プログラム（別紙参照）の枠組み内の研修を企画実施しており、パソコン研修、虐待防止分野の専門研修が行えた。

実施できなかった多くの企画案があり、更に来年度は研修を充実できる見通しが立っている。

各課・各施設の専門研修の企画案と結果を年度末に報告する制度を確立し、研修への意識付けが出来るようになっている。

研修委員会 令和6年度研修実施表

月	日	研修名	司会	記録	片付け
4月	10日	新任職員研修		研修委員会	
	24日	理事長講義			ともだち看護
5月	8日	運動会最終打ち合わせ		実行委員会	
7月	10日	医薬品安全管理研修会			耳納・給食
10月	9日	PC研修(Word)		研修委員会	
	16日	医療安全・感染症研修会			なかよし育成
	30日	衛生管理・メンタルヘルス研修会			
11月	6日	外部講師(カスタマーハラスメント)			千歳
	15日	新任職員研修		研修委員会	
12月	20日	虐待防止研修会			第二千歳
2月	5日	局長講義		研修委員会	
	19日	外部講師(障がい者の人権)			ともだち看護
	26日	外部講師(同和研修)			
3月	5日	PC研修(Googleforms)		研修委員会	
	12日	医療安全・感染症員会報告会			なかよし看護